

目次

2/3DeVIC+RT療法	1
A+AVD療法	2
ABVD	3
ACES	4
ACR+AraC療法（地固め）	5
ALL202U寛解導入療法	6
ALL202-U Maintenance1-A療法(weeks20-25)	7
ALL202-U Reinduction療法	8
ALL202-U sanctuary therapy(weeks10-11)	9
ALL202-U 地固め療法	10
Ara-C単独療法	11
ATRA+亜ヒ酸療法(寛解導入療法)	12
ATRA+亜ヒ酸療法（地固め療法）	13
A-triple V療法（地固め）	14
BCD療法	15
BDR療法(1コース目)	16
BDR療法(2, 5コース目)	17
BDR療法(3, 4コース目)	18
BEAM変法（MEAM療法）：自家PBSCT用	19
BEAM変法（MEAM療法）：自家PBSCT用	20
biweekly RTX	21
Bor-Mel200療法	22

Bu(一括投与) +CY	23
Bu+L-PAM	24
Bu+Me1 (BU:一括投与)	25
Bu-CY	26
BuTT療法 (自家移植前処置)	27
CAG療法	28
CAG+GO療法	29
CALGB study 8811 Course III	30
CALGB study 8811 Course I 寛解導入療法	31
CALGB study 8811 Course II	32
CALGB study 8811 CourseIV	33
CALGB study 8811 CourseV	34
CHOP21	35
CHOP-E療法	36
C-MOPP	37
CODOX-M療法	38
CyBorD療法(once_week)	39
DA-EPOCH-R療法(dose level 1)	40
DA-EPOCH-R療法(dose level 2)	41
DA-EPOCH-R療法(dose level 3)	42
DA-EPOCH-R療法(dose level 4)	43
DA-EPOCH-R療法(dose level 5)	44
DA-EPOCH療法(dose level 1)	45
DA-EPOCH療法(dose level 2)	46

DA-EPOCH療法(dose level 3)	47
DBd療法(1-3サイクル)	48
DBd療法(4-8サイクル)	49
DBd療法(9サイクル以降)	50
DCyBorD療法 (1サイクル)	51
DCyBorD療法 (2サイクル)	52
DCyBorD療法 (3-6サイクル)	53
DCyBorD療法 (7-サイクル)	54
DeVIC療法	55
DLd療法(1-2サイクル)	56
DLd療法(3-6サイクル)	57
DLd療法(7サイクル以降)	58
DMPB療法(1サイクル目)	59
DMPB療法(2-9サイクル目)	60
DNR+AraC療法(地固め)	61
DNR+AraC療法	62
DPd療法(2サイクル)	63
dPd療法(3-6サイクル)	64
DPd療法(7サイクル以降)	65
eBEACOPP	66
EPd療法(1・2サイクル目)	67
EPd療法(3サイクル目以降)	68
ERd療法(1・2サイクル目)	69
ERd療法(3サイクル目以降)	70

ESHAP療法	71
FC療法 (Axi-cel_NHL)	72
FCR療法 (FC内服)	73
FLAGM	74
Flu+BU2	75
Flu+BU2+ATG	76
Flu+BU2+移植後CY	77
Flu+Bu4(一括投与)	78
Flu+BU4	79
Flu+BU4+G-CSF combined Ara-C(JSCT FB13)	80
Flu+BU4+MEL	81
Flu+BU4+MEL100	82
Flu+CY (120mg/kg)	83
Flu+CY (2000mg/m ²)	84
Flu+L-PAM(180)	85
Flu+L-PAM	86
Flu+TBI	87
Flu療法	88
FND療法	89
GCD(R)療法	90
G-CHOP21(1サイクル)	91
G-CHOP21(2-6サイクル)	92
G-CHOP21(7-8サイクル)	93
G-CVP21(1サイクル)	94

G-CVP21 (2-8サイクル)	95
GDP療法	96
GEM 3投1休	97
Gem(750)-CVP	98
Gem(875)-CVP	99
Gem(1000)-CVP	100
G0単独	101
G-ベンダムスチン(1サイクル)	102
G-ベンダムスチン(2-6サイクル)	103
HD-AraC療法 60歳未満	104
HD-AraC療法 60歳以上	105
HD-AraC療法	106
HD-ETP	107
HD-EX (PBSCH)	108
HD-EX	109
HD-MA+DAS療法	110
HD-MA+IMA	111
HD-MA+ponatinib療法	112
HD-MTX	113
High Dose MTX-AraC	114
Hyper CVAD	115
Hyper CVAD+DAS療法	116
Hyper CVAD+ponatinib療法	117
Hyper-CVAD+IMA	118

ICE療法(変法)	119
ICE療法	120
IDR+AraC療法 (APL地固め)	121
IDR+AraC	122
Increased-Dose BEACOPP	123
Isa+D療法 (1サイクル)	124
Isa+D療法 (2サイクル以降)	125
IsaPd療法 (1サイクル目)	126
IsaPd療法 (2サイクル目以降)	127
IsaKd療法 (1サイクル)	128
IsaKd療法 (2サイクル以降)	129
Isatuximab単剤療法(1 サイクル)	130
Isatuximab単剤療法(2 サイクル以降)	131
IVAC療法	132
JALSG ALL202 Over25 (Ph-)地固め療法 C1	133
JALSG ALL202 Over25(Ph-)地固め療法 C2	134
JALSG ALL202 Over25 (Ph-) 地固め療法C3	135
ALSG ALL202 Over25(Ph-) 維持療法	136
JALSG ALL202 Over25 (Ph-) 寛解導入療法	137
Kd療法(1サイクル目)	138
Kd療法(2 サイクル目以降)	139
Kd療法(once weekly 1サイクル目)	140
Kd(once weekly 2-9サイクル目)	141
Kd療法(once weekly 10サイクル目以降)	142

KdD療法(1、2サイクル)	143
KdD療法(3-6サイクル)	144
KdD療法(7サイクル以降)	145
KRd療法(1サイクル目)	146
KRd療法(2-12サイクル目)	147
KRd療法(13サイクル目以降)	148
MCEC療法：自家PBSCT用	149
MEC療法	150
MEC療法(原法)	151
Medium-dose VP-16+CY(+TBI)	152
MEL100	153
MEL200 (一括)	154
MEL200 (分割)	155
MEP	156
Mini-MEAM	157
MIT+HD-AraC(4日間：4 g /m ² /day)	158
MIT-Ara-C	159
MIT単独療法	160
mLSG-15+mogamulizumab①(VCAP)1コース目	161
mLSG-15+mogamulizumab①(VCAP)2コース目以降	162
mLSG-15+mogamulizumab②(AMP)1コース目	163
mLSG-15+mogamulizumab②(AMP)2コース目以降	164
mLSG-15+mogamulizumab③(VECP)1コース目	165
mLSG-15+mogamulizumab③(VECP)2コース目以降	166

mLSG15療法① (VCAP)	167
mLSG15療法② (AMP)	168
mLSG15療法③ (VECP)	169
NICE療法	170
PAD療法	171
Ph (+) ALL202寛解導入療法	172
Ph (+) ALL202地固めC1コース療法	173
Ph (+) ALL202地固めC2コース療法	174
Pola-BR (1コース目)	175
Pola-BR (2コース目以降)	176
Pola-R-CHP (1サイクル)	177
Pola-R-CHP (2-6サイクル)	178
PVD療法 (1-8サイクル目)	179
PVD療法 (9サイクル目以降)	180
R-ACES療法	181
R-BAC療法	182
R-BEAM変法 (R-MEAM療法) : 自家PBSCT用	183
R-CHOP21	184
R-CHOP-E療法	185
R-CODOX-M療法	186
R-CVP21	187
R-DeVIC療法	188
R-ESHAP	189
R-Flu療法 (経口)	190

R-Flu療法	191
R-FND	192
R-GDP療法(short hydration)	193
R-Gem(750)-CVP(2コース目以降)	194
R-Gem(875)-CVP(2コース目以降)	195
R-Gem(1000)-CVP(2コース目以降)	196
R-High Dose MTX-AraC	197
R-Hyper CAVD	198
R-ICE療法(変法)	199
R-ICE療法	200
R-IVAC	201
R-MEP療法	202
R-miniCHOP(1コース目)	203
R-miniCHOP(2コース目以降)	204
R-Mini-MEAM療法	205
R-MPV療法	206
R-THP-COP21(高齢者用)	207
R-THP-COP21	208
RVD lite(1-9c)	209
RVD lite 療法(10-15コース目)	210
R-トレアキシン	211
R-ベンダムスチン(DLBCL)	212
<SC>DBd療法(1サイクル)	213
<SC>DBd療法(2-3サイクル)	214

<SC>DBd療法（4-8サイクル）	215
<SC>DBd療法（9サイクル以降）	216
<SC>DCd療法（1サイクル）	217
<SC>DCd療法（2サイクル）	218
<SC>DCd療法（3-6サイクル）	219
<SC>DCd療法（7サイクル以降）	220
<SC>DLd療法（1-2サイクル）	221
<SC>DLd療法（3-6サイクル）	222
<SC>DLd療法（7サイクル以降）	223
<SC>DMPB療法（1サイクル）	224
<SC>DMPB療法（2-9サイクル）	225
<SC>DMPB療法（10サイクル以降）	226
SMILE療法	227
G-CSF combined CA+CY（TBI+）	228
THP-COP21（高齢者用）	229
THP-COP21	230
VAD療法	231
VEN+AZA（1コース目）	232
VEN+AZA（2コース目以降）	233
VEN+low dose Ara-C（1コース目）	234
VEN+low dose Ara-C（2コース目以降）	235
VMP療法（once-week）	236
VMP療法（twice-week）	237
VR-CAP療法	238

VRd(twice week)療法	239
VRd療法(Once Week)	240
VRD療法	241
VTd療法 (once-week)	242
VTd療法 (twice-week)	243
VTd-PACE療法(寛解導入)	244
VTd-PACE療法(地固め)	245
Weekly Obinutuzumab	246
Weekly RTX (Zevalin前投与)	247
weeklyRTX	248
アザシチジン 7Days	249
アザシチジン 7Days (皮下)	250
アザシチジン (5days)	251
アザシチジン (7days)	252
イノツス`マフ`オゾ`カ`マイシン単剤(投与1サイクル 目および寛解せずの1日目)	253
イノツス`マフ`オゾ`カ`マイシン単剤(投与1サイクル 目の8日目と15日目および寛解例)	254
イブルチニブ+リツキシマブ療法(1サイクル目)	255
イブルチニブ+リツキシマブ療法(2-4サイクル, 6サイクル 目以降)	256
イブルチニブ+リツキシマブ療法(5サイクル目)	257
エプコリタマブC1	258
エプコリタマブC2-3	259
エプコリタマブC4-9	260
エプコリタマブC10以降	261

エボルトラ単独	262
エルラナタマブ D1, 4, 8	263
エルラナタマブ (76mg)	264
エンドキサンプレフェーズ療法	265
オフアツムマブ単独 (2回目以降)	266
オフアツムマブ単独 (初回)	267
キザルチニブ+HD-AraC療法 (60歳以上)	268
キザルチニブ+HD-AraC療法 (60歳未満)	269
クラドリビン療法	270
ダリナパルシン	271
デニロイキンジフチトクス単剤	272
ドキシル (KS)	273
トレアキシン単独	274
ニボルマブ	275
ネララビン単独療法	276
ビンクリスチン単剤	277
ファリーダック+BD (twice-week)療法	278
フィルデシン単独	279
フ° ララトレキセート単剤	280
フ° リナツモマブ° 単剤 (1サイクル目1?7日目)	281
フ° リナツモマブ° 単剤 (1サイクル目8?28日目)	282
フ° リナツモマブ° 単剤 (2?9サイクル目)	283
ブレンツキシマブ単独	284
ベネトクラクス維持療法	285

ヘ° ムフ° ロリス° マフ°	286
ベルケイド	287
ポテリジオ単剤	288
マブキャンパス単剤（開始量）	289
マブキャンパス単剤（標準量）	290
ラニムスチン	291
ロイナーゼ単剤	292
ロミテ° フ° シン	293
亜ヒ酸療法	294

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
2/3DeVIC+RT療法	限局期NK/T細胞 リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	グラニセロンバッグ3mg デキサート6.6mg	1袋 33mg/body	点滴 (側管)	30分	day1～3
②	イホマイド [®] 生理食塩液	1000mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	3時間	day1～3
③	カルボプラチン 生理食塩液	200mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	60分	day1
④	エトポシド [®] 5%ブドウ糖液	67mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	2時間	day1～3
⑤	ウロミテキサン [®] 生理食塩液	200mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day1～3 イホマイド投与時、4、8時間後
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 原則3コース		
その他(特記事項など) ・生理食塩水またはソルデム3A等でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する。 ・イホマイドによる出血性膀胱炎予防のため、1日2000mL以上程度の輸液を行い、尿のアルカリ化も行う。 ・放射線治療と2/3DeVICは同日に開始するか、放射線治療開始日と2/3DeVIC療法開始日のずれが7日以内となるように開始することが望ましい。放射線治療は総線量を50Gyとし、病変＋2cm＋浸潤臓器全体を照射野とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
A+AVD療法	古典的ホジキンリンパ腫（進行期）	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液破棄	day1, 15
②	アロキシバッグ0.75mg ソル・コーテフ	1袋 200mg	点滴 (側管)	30分	day1, 15
③	ダカルバジン 生理食塩液	375mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	120分	day1, 15
④	ドキシソルビン 生理食塩液	25mg/m ² 50mL	点滴 (側管)	20分	day1, 15
⑤	エクザール 生理食塩液	6mg/m ² 50mL	点滴 (側管)	20分	day1, 15
⑥	生理食塩液	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	day1, 15
	レスタミン錠	5錠	経口	点滴開始前	day1, 15
⑦	アドセトリス 注射用水 生理食塩液	1.2mg/kg 10.5mL 100mL	点滴 (側管)	30分	day1, 15
⑧	生理食塩液 (投与後フラッシュ)	50mL	点滴 (側管)		day1, 15
1コースの期間 4週(28日間)			投与スケジュール及び総コース数 6サイクル		

その他(特記事項など)

- ・進行期古典的ホジキンリンパ腫初発の患者に適応する。
- ・ダカルバジンは血管痛防止のため、調整後直ちに遮光袋に入れ、速やかに点滴するとともに、点滴ルート等も遮光すること。
- ・ダカルバジン投与時に血管痛が出る場合は、水溶性プレドニン注20mgを静注する場合あり。
- ・アドセトリスはInfusion reactionに注意が必要である。投与時にInfusion reactionを認めた症例では次回よりソル・コーテフ200mgの前投与を行う。
- ・生理食塩液でルート確保し、抗がん剤はすべて側管から投与する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ABVD	ホジキンリンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液廃棄	day1,15
②	アロキシバッグ0.75mg ソルコーテフ	1袋 200mg	点滴 (側管)	30分	day1,15
③	ダカルバジン 生理食塩液	375mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	120分	day1,15
④	ドキシソルビシン 生理食塩液	25mg/m ² 50mL	点滴 (側管)	20分	day1,15
⑤	ブレオ 生理食塩液	10mg/m ² 50mL	点滴 (側管)	20分	day1,15
⑥	エクザール 生理食塩液	6mg/m ² 50mL	点滴 (側管)	20分	day1,15
1コースの期間 28日間(4週間)			投与スケジュール及び総コース数 隔週ごとに2回投与する4週間を1コースとして繰り返す。 6～8コース実施		
その他(特記事項など) ・ダカルバジンは血管痛防止のため、調製後直ちに遮光袋に入れ、速やかに点滴するとともに、点滴ルート等も遮光すること。 ・ダカルバジン投与時に血管痛が出る場合は、プレドニン注20mgを静注する場合あり。 ・生理食塩液でルート確保し、抗がん剤はすべて側管から投与する(A型ポンプは使用しない)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ACES	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ0.75mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1
②	ソル・メドロール 生理食塩液	500mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1～day5
③	エトポシド 5%ブドウ糖液	80mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	60分	day1～day4
④	カルボプラチン 5%ブドウ糖液	100mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	24時間持続	day1～day4
⑤	キロサイド 生理食塩液	2000mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	180分	day5
⑥	リンデロン点眼0.1%5mL	1日5回(両眼)	点眼		day5
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週(21日間)			1投2～3休の3～4週間を1コースとして繰り返す。 最大6コースまで		

その他(特記事項など)

・生理食塩水または3号液等でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ACR+ AraC療法(地固め)	急性骨髄性白血病の寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
側①	アロキシバック0.75mg	1袋	点滴	30分	day 1
側②	アクラシノン 生食100ml	20 mg/m2	点滴	30分	day 1からday 5までの 5日間
側③	キロサイド 5%ブドウ糖液500ml	200mg/m2	点滴	24時間	day 1からday 5までの 5日間
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 地固め療法として原則的に血球数が好中球 1500/ μ L, 白血球数 3000/ μ L, 血小板数10万/ μ Lまで回復すれば開始する。		
その他(特記事項など) 生食でルートキープし、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。 末梢静脈路より投与する場合はA型ポンプは使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ALL 202U 寛解導入療法	急性リンパ性白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ0.75mg デキサート	1袋 5mg/m ²	点滴 (側管)	30分	day1
②	生理食塩液 デキサート	100 mL 5mg/m ²	点滴 (側管)	30分	day1
①'	生理食塩液 デキサート	100 mL 5mg/m ² × 2回	点滴 (側管)	30分	day2-7
③	オンコビン 生理食塩液	1.5 mg/m ² (最大 2mg/body) 50 mL	点滴 (側管)	15分	day1, 8, 15, 22
④	ピノルビン 5%ブドウ糖液	25 mg/m ² 100 mL	点滴 (側管)	60分	day1, 2
⑤	エンドキサン 生理食塩液	1200 mg/m ² 250 mL	点滴 (側管)	60分	day3
⑥	プレドニン	40 mg/2 (分3)	経口		day8-21
⑦	グラニセトロンバック3mg	1袋	点滴 (側管)	60分	day8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22
⑧	ロイナーゼ 注射用液 生理食塩液	6000 U/m ² 20 mL 250 mL	点滴 (側管)	4時間	day8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			1コース		

その他(特記事項など)

・day1, day15に抗癌剤髄腔内投与(メソトレキセート12mg+キロサイド30mg+ソルコーテフ25mg)を行う。

・ロイナーゼ初回投与時は、投与に先立って10K.U.を皮内注射して、注射後15～30分異常がないことを確認する。初回投与時は始めの15分程度点滴速度を減じて、アレルギー反応の有無に注意を払う。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ALL202-U Maintenance1-A療法(weeks 20-25) for CNS invasion negative cases	急性リンパ性 白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	ソルデム3A メイロン7%	500mL 20mL	点滴 (本体)	2時間	day1、day15、day29
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1、day15、day29
③	生理食塩液 メソトレキセート	50mL 150 mg/m ²	点滴 (側管)	15分	day1、day15、day29
④	ロイケリン散	50mg/m ²	経口	寝る前	day1-28
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
35日間			1コース		

その他(特記事項など)

- ・ロイケリン散は白血球数が2000/ μ L-3000 μ /Lとなるように調製する。
- ・Day29にIT-triple(MTX12mg、AraC30mg、ソルコーテフ25mg)を行う。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ALL202-U Reinduction療法	急性リンパ性 白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバック3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1,8,15
③	オンコビン 生理食塩液	1.5 mg/m2 (最大 2mg/body) 50 mL	点滴 (側管)	15分	day1,8,15
④	ピノルビン 5%ブドウ糖液	25 mg/m2 100 mL	点滴 (側管)	60分	day1,8
⑤	エンドキサン 生理食塩液	500 mg/m2 250 mL	点滴 (側管)	60分	day1,8
⑧	ロイナーゼ 注射用液 生理食塩液	6000 U/m2 20 mL 250 mL	点滴 (側管)	4時間	day1,3,5,8,10,12
⑥	プレドニン	40 mg/2 (分3)	経口		day1-14
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 1コース		
その他(特記事項など) ・day1に抗癌剤髄腔内投与(メソトレキセート12mg+キロサイド30mg+ソルコーテフ25mg)を行う。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ALL202-U sanctuary therapy(weeks10-11)	急性リンパ性 白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	グラニセロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1、day8
②	生理食塩液 メソトレキセート	total 500ml 3g/m2	点滴	24時間	day1、day8
③	生理食塩液 ロイコボリン	50mL 24mg	点滴	30分	day3-4,day10-11 1日4回、6時間毎
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
14日間			1コース		

その他(特記事項など)

ロイコボリンレスキューあり。MTX投与開始42時間後から6時間毎に6回投与。MTX投与開始48時間後のMTX濃度が1 μ M以上、投与開始72時間後のMTX濃度が、0.2 μ M以上の時はロイコボリンレスキューを3時間毎へと強化する。

ロイコボリンレスキューは、0.1 μ M未満になるまで継続。MTX濃度がロイコボリンレスキューはMTX濃度が、0.1 μ M以上0.2 μ M未満の場合、ロイコボリンは追加で6時間毎に4回のみ投与して終了する。Day2,Day9にIT-triple(MTX12mg、AraC30mg、ソルコーテフ25mg)を行う。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ALL 202U 地固め療法	急性リンパ性 白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ	1袋	点滴 (側管)	30分	day1,8
①'	グラニセトロンバッグ	1袋	点滴 (側管)	30分	day6,13
②	ピノルビン 生理食塩水	25mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	60分	day1-2
③	エンドキサン 生理食塩水	750mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	60分	day1、8
④	キロサイド 生理食塩水	75mg/body 100mL	点滴 (側管)	60分	day1-6、8-13
⑤	ロイケリン	50mg/m ²	内服		day1-14
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			1コース		
その他(特記事項など)					
・day1、day8に抗癌剤髄腔内投与IT-triple (メソトレキセート12mg+キロサイド30mg+ソルコーテフ25mg)を行う。 ・キロサイドは好中球数が0/μLになれば中止する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Ara-C単独療法	急性骨髄性白血病 の寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
側①	キロサイド 5%ブドウ糖液500ml	1.6mg/kg	点滴	24時間	day 1からday 21までの 21日間
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			1コース		

その他(特記事項など)

病状に応じ、適宜投与量・投与期間を減量して行う。
 生食でルートキープし、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。
 末梢静脈路より投与する場合はA型ポンプは使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ATRA+亜ヒ酸療法(寛解導入)	急性前骨髄性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	トリセノックス 5%ブドウ糖液	0.15mg/kg 250mL	点滴 (側管)	120分	day1～
②	ベサノイド	45mg/m ²	内服	分2	day1～
1コースの期間 寛解に至るまで(60回)			投与スケジュール及び総コース数 寛解導入療法		

その他(特記事項など)

・寛解導入療法では寛解に至るまで投与を継続する。最大投与回数は60回とする。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ATRA+亜ヒ酸療法（地固め療法）	急性前骨髄性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	トリセノックス 5%ブドウ糖液	0.15mg/kg 250mL	点滴 (側管)	120分	1-4,9-12 17-20,25-28週
②	ベサノイド	45mg/m2	内服	分2	1-2,5-6,9-10,13-14 17-18,21-22,25-26週
1コースの期間 28週間			投与スケジュール及び総コース数 地固め療法		
その他(特記事項など) トリセノックスは、5回/週投与とし、4週投与、4週休薬を1サイクルとし、計4サイクル行う。 ベサノイドは連日内服で2週間内服、2週間休薬を1サイクルとし、計7サイクル行う。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
A-triple V 療法(地固め)	急性骨髄性白血病の寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
側①	アロキシバック0.75mg	1袋	点滴	30分	day 1
側①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day 8・day 10
側②	エトポシド 生理食塩液	100 mg/m2 250ml	点滴	60分	day 1からday 5までの 5日間
側③	キロサイド 5%ブドウ糖液	200mg/m2 500ml	点滴	24時間	day 1からday 5までの 5日間
側②	オンコビン 生理食塩液	0.8mg/m2 50ml	点滴	全開で	day8
側②	フィルデシン 生理食塩液	2mg/m2 50ml	点滴	全開で	day10
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 地固め療法として原則的に血球数が好中球 1500/ μ L, 白血球数 3000/ μ L, 血小板数10万/ μ Lまで回復すれば開始する。		

その他(特記事項など)

生食でルートキープし、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。
末梢静脈路より投与する場合はA型ポンプは使用しない。

がん薬物療法レジメン

プロトコール名	対象がん種	適応分類
BCD	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ボルテゾミブ	1.3mg/m ²	SC		day1,4,8,11
②	パロノセトロン0.75mg	1袋	DIV	30分	day1
②	シクロホスファミド 生食500mL	900mg/m ² 1袋	DIV	1時間	day1
③	生食50mL	1瓶	DIV	フラッシュ	day1
④	デキサメタゾン	40mg/body	PO		day1,2,4,5,8,9, 11,12
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日(3週間)			3週間を1コースとして繰り返す。 3コース施行		

その他(特記事項など)

- ・移植適応多発性骨髄腫の導入療法 特に腎機能低下例でIMiDsが使用できないときに推奨する
- ・3サイクル終了後にharvestを行い、自家移植を予定する
- ・自家移植後はレナリドマイドの維持療法を行う

PMID:25787915

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
BDR療法(1コース目)	原発性マクログロブリン血症	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	生理食塩水 ベルケイド	2.5mg/mL 1.3 mg/m2	皮下注射	緩徐に	1, 4, 8, 11日目
1コースの期間 21日			投与スケジュール及び総コース数 上記スケジュール3週間を1コース		
その他(特記事項など)					
初発原発性マクログロブリン血症に使用する。自家移植前の寛解導入療法として使用される。 2～5コース目以降は投与方法が異なるため、プロトコルに準じる。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
BDR療法(2, 5コース目)	原発性マクログロブリン血症	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	250ml	点滴 (本体)	40ml/hr 残液破棄	1, 8, 15, 22日目
②	カロナール500mg	2錠	経口	点滴開始 60分前	1, 8, 15, 22日目
③	デキサート 生理食塩水	33mg 50ml	点滴 (側管)	点滴開始 60分前	1, 8, 15, 22日目
④	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 60分前	1, 8, 15, 22日目
⑤	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	1, 8, 15, 22日目
⑥	生理食塩水 ベルケイド	2.5mg/mL 1.3 mg/m ²	皮下注射	リツキサン投 与終了後 緩徐に	1, 8, 15, 22日目
1コースの期間 35日			投与スケジュール及び総コース数 上記スケジュール5週間を1コース		

その他(特記事項など)

- ・初発原発性マクログロブリン血症に使用する。自家移植前の寛解導入療法として使用される。
- ・1, 3, 4コース目は投与方法が異なるため、プロトコルに準じる。
- ・リツキサンは初回投与では25ml/hrから開始し、1時間後に100ml/hrに増量、さらに1時間後に200ml/hrに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用が生じていなければ、100ml/hrから開始し、1時間後に200ml/hrに増量点滴とする。
- ・原著論文ではベルケイドの投与量は1.6mg/m²とされているが、本国では1.3mg/m²までが投与量として規定されているため、1.3mg/m²としている。
- ・ベルケイドは毒性に応じて1.3mg/m²、0.8mg/m²まで減量可能。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
BDR療法(3, 4コース目)	原発性マクログロブリン血症	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	生理食塩水 ベルケイド	2.5mg/mL 1.3 mg/m2	皮下注射	緩徐に	1, 8, 15, 22日目
1コースの期間 35日			投与スケジュール及び総コース数 上記スケジュール5週間を1コース		
その他(特記事項など)					
初発原発性マクログロブリン血症に使用する。自家移植前の寛解導入療法として使用される。 1, 2, 5コース目は投与方法が異なるため、プロトコールに準じる。原著論文ではベルケイドの投与量は1.6mg/m2とされているが、本国では1.3mg/m2までが投与量として規定されているため、1.3mg/m2としている。 ベルケイドは毒性に応じて0.8mg/m^2まで減量可能。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
BEAM変法(MEAM療法): 自家PBSCT用	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg (day 2,3,4,5は2回/日)	1袋	点滴	30分	day 1,2,3,4,5,6
②	サイメリン 生理食塩水	250mg/m2 100ml	点滴	60分	day 1
③	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/m2 × 2回 250ml	点滴	12hr毎に 60分で	day 2,3,4,5
④	キロサイド 5%ブドウ糖液	400mg/m2 500ml	点滴	24時間	day 2,3,4,5
⑤	アルケラン 生理食塩水250mL	140mg/m2 100ml	点滴	30分	day 6
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
約28日					

その他(特記事項など)

- ・エトポシドは非DEHPルートを使用
- ・アルケランは生食250mLを使用し、150mL廃棄、100mLとしてから混注。
- ・調製後は90分以内に投与を完了すること。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
BEAM変法(MEAM療法): 自家PBSCT用	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバック0.75mg	1袋	点滴	30分	day 1
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day6
②	サイメリン 生理食塩液	250mg/m2 100ml	点滴	60分	day 1
③	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/m2 250ml	点滴	60分	day 2,3,4,5 12時間毎に2回/日投与
④	キロサイド(2回/日12時間毎) 5%ブドウ糖液	400mg/m2 500ml	点滴	24時間	day 2,3,4,5
⑤	アルケラン 生理食塩液250mL	140mg/m2 100ml	点滴	30分	day 6
⑥					
1コースの期間 約28日			投与スケジュール及び総コース数		
その他(特記事項など) ・エトポシドは非DEHPルートを使用。 ・アルケランは生食250mLを使用し、100mLとしてから混注 ・調製後は90分以内に投与を完了すること					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Biweekly RTX	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ注 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴	約240分	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
14日間(2週間)			biweeklyで繰り返す 4～8コース実施		
その他(特記事項など)					
・リツキサンは最初の1時間は100mL/hで開始し、以後200mL/hで点滴する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Bor-Mel200療法	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ベルケイド 生理食塩水	1 mg/m ² 適量(※)	皮下注		day -6, -3, 1, 4
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day-2
③	アルケラン 生理食塩水	200mg/m ² 100mL	点滴	30分	day-2
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
約2カ月			自家末梢血幹細胞が十分採取されていれば 2～3コースの施行を考慮する。		

その他(特記事項など)

- ・自家末梢血幹細胞移植の前処置として行う化学療法である。自家末梢血幹細胞移植日をday0と設定する。
- ・ベルケイドは2.5mg/mLに調製して施行する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Bu(一括投与)+CY	同種 造血幹細胞 移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
①	グラニセロンバグ3mg	1袋	点滴	30分	day6
②	ブスルフェクス 生理食塩液	3.2mg/kg × 1回/day 500mL	点滴	3時間	day 1-4 (1回/日)
③	エンドキサン メイロン7%注20mL 生理食塩液	60mg/kg 40mL 500mL	点滴	3時間	day5~6
④	ウロミテキサン注400mg/4mL 生理食塩液	0.2mL/kg 50mL	点滴	30分	day5~6 (CY開始時)
⑤	ウロミテキサン注400mg/4mL 生理食塩液	0.2mL/kg 50mL	点滴	30分	day5~6 (CY投与4時間後)
⑥	ウロミテキサン注400mg/4mL 生理食塩液	0.2mL/kg 50mL	点滴	30分	day5~6 (CY投与8時間後)
1コースの期間 6日間			投与スケジュール及び総コース数 幹細胞移植7日前より開始 1コース		

その他(特記事項など)

ブスルフェクスの投与48時間前から、投与終了後48時間後まで、けいれん予防に抗けいれん薬の内服を行う。
ブスルフェクスの投与速度は別表を参照する。
エンドキサンはday5~6の11時に投与、ウロミテキサンはday5~6の11時、15時、19時の3回投与する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Bu+L-PAM	再発性急性 前骨髄性白血病 移植前処置	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day-6～day-2
②	ブスルフェクス 生理食塩水100mL	0.8mg/kg × 4回/day 1瓶	点滴 (側管)	120分	day-6～day-4
③	アルケラン 生理食塩水100mL	70mg/m ² 1瓶	点滴 (側管)	30分	day-3～day-2

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
day0を幹細胞輸注日とする。	移植前処置として行う。

その他(特記事項など)

- ・ブスルフェックスは0.8mg/kgを6時間おきに1日4回、3日間投与する。中枢神経障害による痙攣予防の目的で、デパケン200mg 3T分3で内服をブスルフェックス投与開始2日前より終了後24時間まで行う。なお、肝障害時、カルバペネム投与時はフェニトインで代用する。
- ・アルケラン投与時は、投与当日から投与終了まで2000mL～3000mL/dayの輸液負荷をかけ、十分な尿量を確保する。また、尿のアルカリ化のためメイロンを併用する。
- ・G-CSF(グラン200 μg/m²またはノイトロジン5 μg/kg)をday3より連日点滴投与する。
- ・アルケランは作成後、90分以内に投与を完了すること。

がん薬物療法レジメン

プロトコール名	対象がん種	適応分類
Bu + Mel (BU:一括投与)	再発性急性 前骨髄性白血病 移植前処置として	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	パロノセトロン ホスネツピタント	0.75mg 235mg	点滴 (側管)	30分	day1
②	ブスルファン 生理食塩水	3.2mg/kg 100mL	点滴 (側管)	120分	day1－3
③	メルファラン 生理食塩水	70mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day4－5
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数 移植前処置として行う		
その他(特記事項など) ・ブスルファン投与2日前から投与終了2日後まで痙攣予防薬を投与すること ・メルファラン投与時は、口腔内のクライオセラピーを行う					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Bu-CY	同種 造血幹細胞移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
①	グラニセトロンバグ3mg	1袋	点滴	30分	day6
②	ブスルフェクス 生理食塩水	3.2mg/kg 100ml	点滴	2時間	day1～4 (6時間毎に4回/日)
③	エンドキサン メイロン7%注20ml 生理食塩水	60mg/kg 40ml 500ml	点滴	3時間	day5～6
④	ウロミテキサン注 生理食塩水	0.2ml/kg 50ml	点滴	30分	day5～6 (CY開始時)
⑤	ウロミテキサン注 生理食塩水	0.2ml/kg 50ml	点滴	30分	day5～6 (CY投与4時間後)
⑥	ウロミテキサン注 生理食塩水	0.2ml/kg 50ml	点滴	30分	day5～6 (CY投与8時間後)
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
6日間			移植前処置として		
その他(特記事項など)					
・ブスルフェクスの投与48時間前から、投与終了48時間後まで、痙攣予防にデパケン600mg/日分3で内服を行う。					
・エンドキサンはday5～6の11時に投与、ウロミテキサンはday1～2の11時、15時、19時の3回投与する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
BuTT療法（自家移植前処置）	悪性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバック0.75mg	50 mL	点滴	30分	day1
②	ブスルフェクス 生理食塩液	3.2 mg/kgx1回/日 500 mL	点滴	3時間	day1～4
③	リサイオ 生理食塩液	5 mg/kg 250 mL	点滴	2時間	day5～6
④	グラニセトロンバック3mg	100 mL	点滴	30分	day6
⑤					
⑥					
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
6日間			移植前処置として		
その他（特記事項など）					
・ブスルフェクスの投与48時間前から、投与終了48時間後まで、痙攣予防に抗痙攣薬の内服を行う。 ・ブスルフェクスの投与速度は別表を参照する。 ・リサイオ投与時は0.2μmのインラインフィルターを使用すること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CAG療法	急性骨髄性白血病 骨髄異形成症候群	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	キロサイド	10mg/m ² × 2回 12時間毎	皮下注		day1～14
②	グラニセトロンバッグ 3mg	1袋	点滴	30分	day1～4
③	アクラシノン 生理食塩液	14mg/m ² 100ml	点滴	30分	day1～4
④	フィルグラスチム	50 μg/m ²	皮下注		day1～14
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日(4週間)			最大6コース施行		

その他(特記事項など)

フィルグラスチムは初回のキロサイド投与直前までに開始し、キロサイドの最終投与の12時間前までで終了。好中球5000/μLを超えた時は一時的にフィルグラスチムを休薬する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CAG+GO療法	急性骨髄性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	キロサイド	10mg/m ² × 2回 12時間毎	皮下注		day1～10
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1～4
③	アクラシノン 生理食塩液100mL	14mg/m ² 1瓶	点滴	30分	day1～4
④	フィルグラスチム	50 μg/m ²	皮下注		day1～2回目GO投与 後、WBC 5000/μlを 超えるまで
⑤	グラニセトロンバッグ3mg ソル・メドロール125mg	1袋 1瓶	点滴	30分	day18以降WBC 500/ μl以上に回復した日、 1回目GO投与から15 日目
⑥	生理食塩液100mL 注射用水 マイロターグ(GO)	1瓶 GO1瓶につき5ml 9mg/m ²	点滴	2時間	day18以降WBC 500/ μl以上に回復した日、 1回目GO投与から15 日目
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
56日間(8週)			1コースのみ		
その他(特記事項など)					
Infusion reaction 予防のため、GO投与30分前にロキソニン1錠とオロパタジン1錠を内服。投与開始時から投与終了4時間はバイタルサインをモニターする。 GO投与時は、ポリエーテルスルホン製等の蛋白結合性の低いメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを使用し、同一の点滴ラインで他の薬剤を使用しない。 フィルグラスチムは、途中でWBC 5000/μlを超えると、一時休薬。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CALGB study 8811 CourseⅢ	急性リンパ性 白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ロイケリン	60mg/m2	内服	分3	day1-70
②	メソトレキセート	20mg/m2	内服	分3	day36,43,50,57,64
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
12週間			1コース		
その他(特記事項など)					
CNS浸潤が認められる場合はday1-12にCranial irradiation 2400cGy施行。Day1,8,15,22,29にMTX 15mg/bodyの髄注施行。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
CALGB study 8811 Course I 寛解導入療法	急性リンパ性白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	エンドキサン 生食500mL	1200 mg/m ² (≥ 60 歳800mg/m ²)	点滴	3時間	day 1
②	ダウノマイシン 生食100mL	45 mg/m ² (≥ 60 歳30mg/m ²)	点滴	30分	day 1, 2, 3
③	オンコビン 生食50mL	2.0mg/body	点滴	5分	day 1, 8, 15, 22
④	プレドニン	60 mg/m ²	経口		day 1-21 (≥ 60 歳day1-7)
⑤	ロイナーゼ 生食250ml, 注水20ml	3000 IU/m ²	点滴	2時間	day 5,8,11,15,18,22
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 左記以降は、血球回復後速やかに、 地固め1コース療法へ。		

その他(特記事項など)

○アプロリノール300mg/dayを寛解導入療法以前より経口服用し、十分量の補液にて化学療法中1日尿量2000ml以上に保つ。ロイナーゼは投与前に必ず皮内反応を行い、陽性例には投与しない。投与時にはアナフィラキシーショックの発生に十分注意する。凝固因子(特にフィブリノゲン)、肝機能、膵酵素、血糖の検査を頻回に行い、異常をみる場合は適切な処置を行う。ロイナーゼ投与により①ショック症状②急性膵炎③重篤な過血糖④肝障害(血清ビリルビン値 >2.0 mg/dL)が生じた場合、その後のロイナーゼの投与を中止する。Day1～21までは、PCP予防目的にパクタ4錠(分2)を1週間に2日(月、木)投与する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CALGB study 8811 Course II	急性リンパ性白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	エンドキサン 生食500mL	1000mg/m ²	点滴	3時間	day1
②	ロイケリン	60mg/m ²	内服	分3	day1-14
③	キロサイド	75mg/m ²	皮下注		day1-4, 8-11
④	オンコビン 生食50ml	2.0mg/body	点滴	5分	day15, 22
⑤	ロイナーゼ 生食250ml, 注水20ml	3000IU/m ²	点滴	2時間	day15,18,22,25
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 28日サイクルで2コース施行		

その他(特記事項など)

○Day1にMTX 15mg/bodyの髄注施行。ロイナーゼは投与前に必ず皮内反応を行い、陽性例には投与しない。投与時にはアナフィラキシーショックの発生に十分注意する。凝固因子(特にフィブリノゲン)、肝機能、膵酵素、血糖の検査を頻回に行い、異常をみる場合は適切な処置を行う。ロイナーゼ投与により①ショック症状②急性膵炎③重篤な過血糖④肝障害(血清ビリルビン値>2.0mg/dL)が生じた場合、その後のロイナーゼの投与を中止する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CALGB study 8811 CourseIV	急性リンパ性白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ドキシソルビシン 生食100mL	30 mg/m ²	点滴	30分	day 1,8,15
②	オンコビン 生食50mL	2.0 mg/body	点滴	5分	day 1,8,15
③	デキサート 生食50mL	10mg/m ²	点滴	30分	day 1-14
④	エンドキサン 生食500mL	1000 mg/m ²	点滴	3時間	day 29
⑤	ロイケリン	60mg/m ²	内服		day 29-42
⑥	キロサイド	75 mg/m ²	皮下注		day 29-32, 36-39
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
56日間			1コース		

その他(特記事項など)

○オンコビンの有害事象による代替薬としてはフィルデシン3.0mg/bodyを同日数投与。CALGB studyでは6-Thioguanine 60mg/m² PO day29-42であるが、本邦未承認薬であるため、代替薬として同当の効果が期待できる6-MP (ロイケリン) 60mg/m² day29-42とする。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CALGB study 8811 Course V	急性リンパ性白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	オンコビン 生食50mL	2.0mg/body	点滴	5分	4週毎のday1 (day1, 29, 57...)
②	プレドニゾン錠	60mg/m2	内服		4週毎のday1-5 (day1-5, 29-33...)
③	メソトレキセート	20mg/m2	内服		day1,8,15,22
④	ロイケリン	60mg/m2	内服		day1-28
1コースの期間 28日間 (VCR, PSLは診断から24か月まで)			投与スケジュール及び総コース数 診断から24か月まで維持療法として施行		
その他(特記事項など) ○オンコビンの有害事象に対する代替薬としてはフィルデシン3.0mg/bodyを同日数投与。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CHOP21	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液廃棄	day1
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1
③	オンコビン 生理食塩液	1.4mg/㎡ (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
④	ドキシソルビシン 生理食塩液	50mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	30分	day1
⑤	エンドキサン 生理食塩液	750mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	60分	day1
⑥	プレドニゾン錠	60～100mg/body	経口		day1～5
1コースの期間 21日間(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 1投2休(プレドニンはday1から5日間連続で内服)の3週間を1コースとして繰り返す 6コース実施 (最大8コースまで実施する場合有り)		
その他(特記事項など) ・標準的なコース数は6コースとし、患者の状態に応じ、最大8コースまでの実施とする。 ・生理食塩液でルート確保し、抗がん剤はすべて側管から投与する(A型ポンプは使用しない)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CHOP-E療法	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	250ml	点滴 (本体)	20ml/H (残液破棄)	day1
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1
②	オンコビン 生理食塩水	1.4mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
③	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day1
④	ドキシソルビン	50mg/m ²	点滴 (側管)	30分	day1
	生理食塩水	100mL			
	生理食塩水	100ml			
⑤	エンドキサン 生理食塩水	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day1
⑥	プレドニゾロン錠	60～100mg/body	経口		day1～5
⑦	ベプシド	200mg/m ²	経口		day2,3
1コースの期間 約21日間			投与スケジュール及び総コース数 ⑥はday1から5日間連続で内服。 最大8コース実施。		
その他(特記事項など) ・標準的なコース数は6コースとし、患者の状態に応じて、最大8コースまで実施する。 ・生理食塩水でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する(A型ポンプは使用しない)。 ・エトポシドはnon DEHPのルートを使用する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
C-MOPP	ホジキンリンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液廃棄	day1,8
②	グラニセトロンバッグ 3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1,8
④	オンコビン 生理食塩液	1.4mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day1,8
③	エンドキサン 生理食塩液	650mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day1,8
⑤	塩酸プロカルバジン錠	100mg/m ²	経口		day1～14
⑤	プレドニン錠	40mg/m ²	経口		day1～14
1コースの期間 28日間(4週間)			投与スケジュール及び総コース数 2投2休の4週間を1コースとして繰り返す。 (塩酸プルカルバジンとプレドニンはday1から14日間連続で内服以後2週間休薬) 6～8コース実施		
その他(特記事項など) ・生理食塩液でルート確保し、抗がん剤はすべて側管から投与する(A型ポンプは使用しない) ・オンコビンによる末梢神経障害が出現した場合には、フィルデシン(0.06mg～0.09mg/kg、最大3mg/body)に変更し、生理食塩液50mLに溶解後、15分で点滴静注する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CODOX-M療法	再発または難治性の非ホジキンリンパ腫およびバーキットリンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバック3mg	1袋	点滴	30分	day 1-5,8,10
②	オンコビン 生食50ml	1.5 mg/m ² (Max 2mg)	点滴	5分 (全開)	day 1, 8
③	ドキシソルビン 生食100ml	40 mg/m ²	点滴	30分	day 1
④	エンドキサン 生食500ml	800 mg/m ²	点滴	2時間	day 1
②	エンドキサン 生食500ml	200 mg/m ²	点滴	2時間	day 2-5
②	メソトレキセート ソルデム3A 200ml	536 mg/m ²	点滴	1時間	day 10
③	メソトレキセート 生食500ml	2460 mg/m ²	点滴	23時間	day 10
側管	ロイコボリン 生食100ml	85.7 mg/m ²	点滴	30分	day 11よりMTX開始時より36時間 後に投与
側管	ロイコボリン 生食50ml	15 mg 6時間おき	点滴	30分	上記に引き続きまず4日間6時間 おき。MTX血中濃度が 5×10^{-8} に なるまで継続
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			4週間の間をあけて最大3コース		

その他(特記事項など)

- ・Day13よりG-CSF 5 μ g/kg使用開始.
- ・髄注: day1, 3でキロサイド40mg+プレドニン20mg. Day15でMTX15mg+プレドニン10mg
- ・中枢神経浸潤を認める場合にはday 5にキロサイド、day17にMTXの髄注を追加(1コース目のみ)する。
- ・生食でルートキープし、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。A型ポンプは使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CyBorD療法(Once Week)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	50ml	点滴	本体用 40mL/h	1、8、15、22日目
②	生理食塩水 ベルケイド	20ml 1.3～1.5 mg/m ²	静注	緩徐に 静注	1、8、15、22日目
③	エンドキサン錠	300mg/m ²	経口		1、8、15、22日目
④	デカドロン錠 又はレナデックス錠	40mg/body	経口		1～4日目 9～12日目 17～20日目
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日(4週間)			4週間を1コースとして繰り返す。 4コース施行		

その他(特記事項など)

・総コース数については治療効果や副作用発現をみながら適宜検討する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DA-EPOCH-R療法(dose level 1)	B細胞リンパ腫 バーキットリンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤		1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg		5錠	経口	点滴開始前 30分	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩液		200mg 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液		375mg/m2 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1
④	アロキシバッグ		50mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑤	オンコビン ドキソルビシン 生理食塩液		0.4mg/m2 10mg/m2 500mL	点滴 (側管)	24時間	day2-5
⑥	エトポシド 生理食塩液		50mg/m2 1000mL	点滴 (側管)	24時間	day2-5
⑦	エンドキサン 生理食塩液		750mg/m2 500mL	点滴 (側管)	120分	day6
⑧	プレドニン		60mg/m2 × 2回	経口		day2-6
1コースの期間				投与スケジュール及び総コース数		
21日間				6～8コース		
その他(特記事項など)						
・day8より好中球数回復までG-CSF製剤の投与を行う。 ・各コースごとに好中球のnadirが500/μL以上ならETP、DXR、CPAを20%ずつ増量する。 好中球500/μL未満が1週間以上もしくはPLTが25000未満に減少した場合、CPAのみを20%減量する。 VCRは神経毒性が出現した場合に減量を考慮する。						

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DA-EPOCH-R療法(dose level 2)	B細胞リンパ腫 バーキットリンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始前 30分	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1
④	アロキシバッグ	50mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑤	オンコビン ドキソルビシン 生理食塩液	0.4mg/m ² 12mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	24時間	day2-5
⑥	エトポシド 生理食塩液	60mg/m ² 1000mL	点滴 (側管)	24時間	day2-5
⑦	エンドキサン 生理食塩液	900mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day6
⑧	プレドニン	60mg/m ² × 2回	経口		day2-6
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			6～8コース		

その他(特記事項など)

- ・day8より好中球数回復までG-CSF製剤の投与を行う。
- ・コースを繰り返すときは心機能に注意を払う。特に再発時の使用ではドキソルビシン総投与量に注意する。
- ・神経障害にあわせてオンコビン減量を考慮する。・ST合剤の予防内服を行う。
- ・好中球のnadirが500/ μ L以上ならETP、DXR、CPAを20%ずつ増量する。好中球500/ μ L未満が1週間以上もしくはPLTが25000未満に減少した場合、ETP、DXR、CPAを20%ずつ減量する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DA-EPOCH-R療法(dose level 3)	B細胞リンパ腫 バーキットリンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始前 30分	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1
④	アロキシバッグ	50mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑤	オンコビン ドキソルビシン 生理食塩液	0.4mg/m ² 14.4mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	24時間	day2-5
⑥	エトポシド 生理食塩液	72mg/m ² 1000mL	点滴 (側管)	24時間	day2-5
⑦	エンドキサン 生理食塩液	1080mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day6
⑧	プレドニン	60mg/m ² × 2回	経口		day2-6
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			6～8コース		

その他(特記事項など)

- ・day8より好中球数回復までG-CSF製剤の投与を行う。
- ・コースを繰り返すときは心機能に注意を払う。特に再発時の使用ではドキソルビシン総投与量に注意する。
- ・神経障害にあわせてオンコビン減量を考慮する。・ST合剤の予防内服を行う。
- ・好中球のnadirが500/ μ L以上ならETP、DXR、CPAを20%ずつ増量する。好中球500/ μ L未満が1週間以上もしくはPLTが25000未満に減少した場合、ETP、DXR、CPAを20%ずつ減量する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DA-EPOCH-R療法(dose level 4)	皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫 B細胞リンパ腫 バーキットリンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始前 30分	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1
④	アロキシバッグ	50mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑤	オンコビン ドキソルビシン 生理食塩液	0.4mg/m ² 17.3mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	24時間	day2-5
⑥	エトポシド 生理食塩液	86.4mg/m ² 1000mL	点滴 (側管)	24時間	day2-5
⑦	エンドキサン 生理食塩液	1296mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day6
⑧	プレドニン	60mg/m ² × 2回	経口		day2-6
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			6～8コース		

その他(特記事項など)

- ・day8より好中球数回復までG-CSF製剤の投与を行う。
- ・コースを繰り返すときは心機能に注意を払う。特に再発時の使用ではドキソルビシン総投与量に注意する。
- ・神経障害にあわせてオンコビン減量を考慮する。・ST合剤の予防内服を行う。
- ・好中球のnadirが500/ μ L以上ならETP、DXR、CPAを20%ずつ増量する。好中球500/ μ L未満が1週間以上もしくはPLTが25000未満に減少した場合、ETP、DXR、CPAを20%ずつ減量する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DA-EPOCH-R療法(dose level 5)	皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫 B細胞リンパ腫 バーキットリンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始前 30分	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1
④	アロキシバッグ	50mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑤	オンコビン ドキソルビシン 生理食塩液	0.4mg/m ² 20.7mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	24時間	day2-5
⑥	エトポシド 生理食塩液	103.7mg/m ² 1000mL	点滴 (側管)	24時間	day2-5
⑦	エンドキサン 生理食塩液	1555mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day6
⑧	プレドニン	60mg/m ² × 2回	経口		day2-6
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			6～8コース		

その他(特記事項など)

- ・day8より好中球数回復までG-CSF製剤の投与を行う。
- ・コースを繰り返すときは心機能に注意を払う。特に再発時の使用ではドキソルビシン総投与量に注意する。
- ・神経障害にあわせてオンコビン減量を考慮する。・ST合剤の予防内服を行う。
- ・好中球のnadirが500/ μ L以上ならETP、DXR、CPAを20%ずつ増量する。好中球500/ μ L未満が1週間以上もしくはPLTが25000未満に減少した場合、ETP、DXR、CPAを20%ずつ減量する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DA-EPOCH療法(dose level 1)	B細胞リンパ腫 バーキットリンパ腫 SPTCL	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
④	アロキシバグ	50mL	点滴 (側管)	30分	day1
⑤	オンコビン ドキシソルビシン 生理食塩液	0.4mg/m ² 10mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	24時間	day1-4
⑥	エトポシド 生理食塩液	50mg/m ² 1000mL	点滴 (側管)	24時間	day1-4
⑦	エンドキサン 生理食塩液	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day5
⑧	プレドニン	60mg/m ² × 2回	経口		day1-5
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			6～8コース		

その他(特記事項など)

- ・day8より好中球数回復までG-CSF製剤の投与を行う。
- ・各コースごとに好中球のnadirが500/ μ L以上ならETP、DXR、CPAを20%ずつ増量する。
好中球500/ μ L未満が1週間以上もしくはPLTが25000未満に減少した場合、CPAのみを20%減量する。
VCRは神経毒性が出現した場合に減量を考慮する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DA-EPOCH療法(dose level 2)	B細胞リンパ腫 バーキットリンパ腫 SPTCL	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
④	アロキシバッグ	50mL	点滴 (側管)	30分	day1
⑤	オンコビン ドキシソルビシン 生理食塩液	0.4mg/m2 12mg/m2 500mL	点滴 (側管)	24時間	day1-4
⑥	エトポシド 生理食塩液	60mg/m2 1000mL	点滴 (側管)	24時間	day1-4
⑦	エンドキサン 生理食塩液	900mg/m2 500mL	点滴 (側管)	120分	day5
⑧	プレドニン	60mg/m2 × 2回	経口		day1-5
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			6～8コース		

その他(特記事項など)

- ・day8より好中球数回復までG-CSF製剤の投与を行う。
- ・コースを繰り返すときは心機能に注意を払う。特に再発時の使用ではドキシソルビシン総投与量に注意する。
- ・神経障害にあわせてオンコビン減量を考慮する。・ST合剤の予防内服を行う。
- ・好中球のnadirが500/ μ L以上ならETP、DXR、CPAを20%ずつ増量する。好中球500/ μ L未満が1週間以上もしくはPLTが25000未満に減少した場合、ETP、DXR、CPAを20%ずつ減量する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DA-EPOCH療法(dose level 3)	B細胞リンパ腫 バーキットリンパ腫 SPTCL	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
④	アロキシバッグ	50mL	点滴 (側管)	30分	day1
⑤	オンコビン ドキシソルビシン 生理食塩液	0.4mg/m ² 14.4mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	24時間	day1-4
⑥	エトポシド 生理食塩液	72mg/m ² 1000mL	点滴 (側管)	24時間	day1-4
⑦	エンドキサン 生理食塩液	1080mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day5
⑧	プレドニン	60mg/m ² × 2回	経口		day1-5
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			6～8コース		

その他(特記事項など)

- ・day8より好中球数回復までG-CSF製剤の投与を行う。
- ・コースを繰り返すときは心機能に注意を払う。特に再発時の使用ではドキシソルビシン総投与量に注意する。
- ・神経障害にあわせてオンコビン減量を考慮する。・ST合剤の予防内服を行う。
- ・好中球のnadirが500/ μ L以上ならETP、DXR、CPAを20%ずつ増量する。好中球500/ μ L未満が1週間以上もしくはPLTが25000未満に減少した場合、ETP、DXR、CPAを20%ずつ減量する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DBd療法（1～3サイクル）	再発又は難治性の多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコフ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 60分前	day1, 8, 15
②	カロナール錠500mg	2錠	経口	点滴開始 60分前	day1, 8, 15
③	デカドロン 生理食塩液	20mg 50mL	点滴 (側管)	点滴開始 60分前	day1, 8, 15
④	ダラツムマブ 生理食塩液	16mg/kg 1000mL (初回総量) 500mL (2回目以降の総量)	点滴 (側管)	240～420分	day1, 8, 15
⑤	ボルテゾミブ 生理食塩水	1.3mg/m ² 2.5mg/mL	皮下注	ダラツムマブ 投与終了後	day1, 8

①	デキサメタゾン 4mg	5錠	経口	分2 朝食後	day2, 4, 5, 9, 11, 12
---	-------------	----	----	--------	-----------------------

①	ボルテゾミブ 生理食塩水	1.3mg/m ² 2.5mg/ml	皮下注		day4, day11
---	-----------------	----------------------------------	-----	--	-------------

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
3週(21日間)	3サイクル

その他(特記事項など)

- ・生理食塩水でルート確保し、ダラツムマブは全て側管から投与する。
- ・ダラツムマブは初回投与では、希釈後の総量は1000mLと調整する。50mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に150mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/h (投与速度上限)に増量し点滴可能とする。初回投与から3時間以内にinfusion reactionが認めなければ、2回目以降は総量を500mLにできる。
- ・初回及び2回目投与時に最終速度が100mL/h以上でinfusion reactionが認めなければ、3回目以降は100mL/hで開始できる。

1サイクル目のday1のみモンテルカスト10mg内服

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DBd療法（4～8サイクル）	再発又は難治性の多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 60分前	day1
②	カロナール錠500mg	2錠	経口	点滴開始 60分前	day1
③	デカドロン 生理食塩液	20mg 50mL	点滴 (側管)	点滴開始 60分前	day1
④	ダラツムマブ 生理食塩液	16mg/kg 500mL（希釈後総量）	点滴 (側管)	180分	day1
⑤	ボルテゾミブ 生理食塩水	1.3mg/m2 2.5mg/mL	皮下注	ダラツムマブ 投与終了後	day1

①	デキサメタゾン 4mg	5錠	経口	分2 朝食食後	day2, 4, 5, 8, 9, 11, 12
---	-------------	----	----	---------	--------------------------

①	ボルテゾミブ 生理食塩水	1.3mg/m2 2.5mg/ml	皮下注		day4, 8, 11
---	-----------------	----------------------	-----	--	-------------

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
3週(21日間)	5サイクル

その他（特記事項など） ・生理食塩水でルート確保し、ダラツムマブは全て側管から投与する。 ・ダラツムマブは、希釈後の総量は500mLと調整する。100mL/hから開始し、1時間後に150mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。
--

がん化学療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DBd療法（9サイクル以降）	再発又は難治性の多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 60分前	day1
②	カロナール錠500mg	2錠	経口	点滴開始 60分前	day1
③	デカドロン 生理食塩液	20mg 50mL	点滴 (側管)	点滴開始 60分前	day1
④	ダラツムマブ 生理食塩液	16mg/kg 500mL (希釈後総量)	点滴 (側管)	180分	day1
1コースの期間 4週(28日間)			投与スケジュール及び総コース数 until PD		
その他(特記事項など) ・生理食塩水でルート確保し、ダラツムマブは全て側管から投与する。 ・ダラツムマブは、希釈後の総量は500mLと調整する。100mL/hから開始し、1時間後に150mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
DCyBorD療法(1サイクル)	全身性 ALアミロイドーシス	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg	2錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day1, 8, 15, 22
②	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day1, 8, 15, 22
③	モンテルカスト錠10mg	1錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day1
④	デカドロン錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day1, 8, 15, 22
⑤	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 8, 15, 22
⑥	エンドキサン錠50mg	300mg/m ² (最大500mg)	経口	ダラキューロ 投与終了後	day1, 8, 15, 22
⑦	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m ² 2.5mg/mL	皮下注	エンドキサン 投与終了後	day1, 8, 15, 22
①	デカドロン錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day2, 9, 16, 23

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週(28日間)	1サイクル

その他(特記事項など) ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。 ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。 ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。 ・ベルケイドの用量は1.3mg/m ² より開始し、毒性の応じて、1.0mg/m ² 、0.7mg/m ² 、投与中止に調節する。 ・70歳を超える、過少体重(BMI: 18.5kg/m ² 未満)、コントロール不良の糖尿病又はステロイド療法に対する認容性がない、若しくは有害事象を発現した患者では、デカドロンを20mg/週に減量してもよい。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
DCyBorD療法(2サイクル)	全身性 ALアミロイドーシス	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg	2錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day1, 8, 15, 22
②	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day1, 8, 15, 22
③	デカドロン錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day1, 8, 15, 22
④	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 8, 15, 22
⑤	エンドキサン錠50mg	300mg/m2 (最大500mg)	経口	ダラキューロ 投与終了後	day1, 8, 15, 22
⑥	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m2 2.5mg/mL	皮下注	エンドキサン 投与終了後	day1, 8, 15, 22
①	デカドロン錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day2, 9, 16, 23

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週(28日間)	2サイクル
その他(特記事項など) ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。 ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。 ・ベルケイドの用量は1.3mg/m2より開始し、毒性の応じて、1.0mg/m2、0.7mg/m2、投与中止に調節する。 ・70歳を超える、過少体重(BMI: 18.5kg/m2未満)、コントロール不良の糖尿病又はステロイド療法に対する認容性がない、若しくは有害事象を発現した患者では、デカドロンを20mg/週に減量してもよい。	

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
DCyBorD療法(3-6サイクル)	全身性 ALアミロイドーシス	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg	2錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day1, 15
②	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day1, 15
③	デカドロン錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day1, 15
④	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 15
⑤	エンドキサン錠50mg	300mg/m2 (最大500mg)	経口	ダラキューロ 投与終了後	day1, 8, 15, 22
⑥	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m2 2.5mg/mL	皮下注	エンドキサン 投与終了後	day1, 8, 15, 22
①	デカドロン錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day2, 8, 9, 16, 22, 23

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週(28日間)	3-6サイクル

その他(特記事項など)

- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。
- ・ベルケイドの用量は1.3mg/m2より開始し、毒性の応じて、1.0mg/m2、0.7mg/m2、投与中止に調節する。
- ・70歳を超える、過少体重(BMI: 18.5kg/m2未満)、コントロール不良の糖尿病又はステロイド療法に対する認容性がない、若しくは有害事象を発現した患者では、デカドロンを20mg/週に減量してもよい。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
DCyBorD療法(7サイクルー)	全身性 ALアミロイドーシス	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg	2錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day1
②	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day1
③	デカドロン錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 投与60分前	day1
④	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週(28日間)	7サイクルー

その他(特記事項など)

- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DeVIC療法	再発・難治性非ホジキンリンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg デキサート6.6mg	1袋 33mg/body	点滴 (側管)	30分	day1～3
②	イホマイド 生理食塩液	1500mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	2時間	day1～3
③	カルボプラチン 5%ブドウ糖液	300mg/㎡ 250mL	点滴 (側管)	1時間	day1
④	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	2時間	day1～3
⑤	ウロミテキサン 生理食塩液	300mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	30分	day1～3 イホマイド投与時、4、8時間後
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 1投2～3休の3～4週間を1コースとして繰り返す。 6コース		
その他(特記事項など) ・生理食塩水またはソルデム3A等でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する。 ・70歳以上では各薬剤を25-30%減量。 ・G-CSFをday4より顆粒球が治療前値に回復するまで投与。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DLd療法（1～2サイクル）	再発又は難治性の多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	レスタミンコワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 60分前	day1, 8, 15, 22
②	カロナール錠500mg	2錠	経口	点滴開始 60分前	day1, 8, 15, 22
③	デカドロン 生理食塩液	20mg 50mL	点滴 (側管)	点滴開始 60分前	day1, 8, 15, 22
④	ダラツムマブ 生理食塩液	16mg/kg 1000mL (初回総量) 500mL (2回目以降の総量)	点滴 (側管)	240～420分	day1, 8, 15, 22
⑤	レナリドミド 5mg	5錠	経口	眠前	day1～21

①	デキサメタゾン 4mg	5錠	経口	分2 朝食後	day2, 9, 16, 23
---	-------------	----	----	--------	-----------------

1コースの期間 4週(28日間)	投与スケジュール及び総コース数 2サイクル
その他(特記事項など) ・レナリドミドはCrCL 30～60ml/minの患者では、5mg 2錠に減量する。 ・生理食塩水でルート確保し、ダラツムマブは全て側管から投与する。 ・ダラツムマブは初回投与では、希釈後の総量は1000mLと調整する。50mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に150mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/h (投与速度上限)に増量し点滴可能とする。初回投与から3時間以内にinfusion reactionが認めなければ、2回目以降は総量を500mLにできる。 ・初回及び2回目投与時に最終速度が100mL/h以上でinfusion reactionが認めなければ、3回目以降は100mL/hで開始できる。 1サイクル目のday1のみモンテルカスト10mg内服	

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DLd療法（3～6サイクル）	再発又は難治性の多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 60分前	day1, 15
②	カロナール錠500mg	2錠	経口	点滴開始 60分前	day1, 15
③	デカドロン 生理食塩液	20mg 50mL	点滴 (側管)	点滴開始 60分前	day1, 15
④	ダラツムマブ 生理食塩液	16mg/kg 500mL（希釈後総量）	点滴 (側管)	約180分	day1, 15
⑤	レナリドミド 5mg	5錠	経口	眠前	day1～21

①	デキサメタゾン 4mg	5錠	経口	分2 朝昼食後	day2, 8, 9, 16, 22, 23
---	-------------	----	----	---------	------------------------

1コースの期間 4週(28日間)	投与スケジュール及び総コース数 4サイクル
その他(特記事項など) ・レナリドミドはCrCL 30～60ml/minの患者では、5mg 2錠に減量。 ・生理食塩水でルート確保し、ダラツムマブは全て側管から投与する。 ・ダラツムマブは、希釈後の総量は500mLと調整する。100mL/hから開始し、1時間後に150mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。	

がん化学療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DLd療法（7サイクル以降）	再発又は難治性の多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 60分前	day1
②	カロナール錠500mg	2錠	経口	点滴開始 60分前	day1
③	デカドロン 生理食塩液	20mg 50mL	点滴 (側管)	点滴開始 60分前	day1
④	ダラツムマブ 生理食塩液	16mg/kg 500mL (希釈後総量)	点滴 (側管)	約180分	day1
1コースの期間 4週(28日間)			投与スケジュール及び総コース数 until PD		
その他(特記事項など) ・レナリドミド5mg 5錠 経口 (1日1回寝る前) で day1～21 処方 (CrCl 30～60ml/minの患者では、5mg 2錠に減量) ・デキサメタゾン4mg 5錠 (1日1回朝食後) day2, 8, 9, 15, 16, 22, 23 処方 ・生理食塩水でルート確保し、ダラツムマブは全て側管から投与する。 ・ダラツムマブは、希釈後の総量は500mLと調整する。100mL/hから開始し、1時間後に150mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DMPB療法(1サイクル)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg カロナール錠500mg	5錠 2錠	経口	点滴開始 60分前	day1,8,15,22,29,36
②	デキサート注射液 生理食塩液	19.8mg 50mL	点滴 (側管)	60分	day1,8,15,22,29,36
③	ダラツムマブ 生理食塩液	16mg/kg 1000mL(初回総量) 500mL(2回目以降の総量)	点滴 (側管)	240～420分	day1,8,15,22,29,36
④	ボルテゾミブ 生理食塩液	1.3mg/m ² 2.5mg/mL	皮下注	ダラツムマブ 投与終了後	day1,4,8,11 day22,25,29,32
⑤	メルファラン錠	9mg/m ²	経口		day1-4
⑥	プレドニン錠	60mg/m ²	経口		day2-4
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
6週(42日間)			1サイクル		

その他(特記事項など)

- ・生理食塩水でルート確保し、ダラツムマブは全て側管から投与する。
- ・ダラツムマブは初回投与では、希釈後の総量は1000mLと調整する。50mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に150mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/h(投与速度上限)に増量し点滴可能とする。初回投与から3時間以内にinfusion reactionが認めなければ、2回目以降は総量を500mLにできる。
- ・初回及び2回目投与時に最終速度が100mL/h以上でinfusion reactionが認めなければ、3回目以降は100mL/hで開始できる。
- ・1サイクル目のday1のみモンテルカスト10mg内服

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DMPB療法(2-9サイクル)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg カロナール錠500mg	5錠 2錠	経口	点滴開始 60分前	day1,22
②	デキサート注射液 生理食塩液	19.8mg 50mL	点滴 (側管)	60分	day1,22
③	ダラツムマブ 生理食塩液	16mg/kg 1000mL(初回総量) 500mL(2回目以降の総量)	点滴 (側管)	240~420分	day1,22
④	ボルテゾミブ 生理食塩液	1.3mg/m ² 2.5mg/mL	皮下注	ダラツムマブ 投与終了後	day1,8,22,29
⑤	メルファラン錠	9mg/m ²	経口		day1-4
⑥	プレドニン錠	60mg/m ²	経口		day2-4
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
6週(42日間)			8サイクル		

その他(特記事項など)

- ・生理食塩水でルート確保し、ダラツムマブは全て側管から投与する。
- ・ダラツムマブは初回投与では、希釈後の総量は1000mLと調整する。50mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に150mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/h(投与速度上限)に増量し点滴可能とする。初回投与から3時間以内にinfusion reactionが認めなければ、2回目以降は総量を500mLにできる。
- ・初回及び2回目投与時に最終速度が100mL/h以上でinfusion reactionが認めなければ、3回目以降は100mL/hで開始できる。

がん化学療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DNR+ AraC療法（地固め）	急性骨髄性白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ 3mg	1袋	点滴	30分	day1-5
②	ダウノマイシン 生食100mL	50 mg/m2	点滴	30分	day 1, 2, 3
③	キロサイド 5%ブドウ糖液500ml	200mg/m2	点滴	24時間	day1-5
1コースの期間 28日間(4週)			投与スケジュール及び総コース数 AML地固め第2コース。終了後血小板数 ≥ 10 万/ μ lに回復次第、MTX 15mg/body+Ara-C 40mg/body+PSL 10mg/bodyの脊髄腔内注入施行		
その他(特記事項など) 生食でルートキープし、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。 末梢静脈路より投与する場合はA型ポンプは使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DNR+ AraC	急性骨髄性白血病 の寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
側①	アロキシバック0.75mg	1袋	点滴	30分	day 1
側①	グラニセトロンバック3mg	1袋	点滴	30分	day 6-7 朝夜の2回投与
側②	ダウノマイシン 生食100ml	50 mg/m2	点滴	30分	day 1からday 5までの 5日間
側③	キロサイド 5%ブドウ糖液500ml	100mg/m2	点滴	24時間	day 1からday 7までの 7日間
1コースの期間 標準28日、最短14日			投与スケジュール及び総コース数 第一コースで非寛解症例は、第二コースも同じ治療で行う。第二コースは原則的にDay28以降に開始する。但し、day14以降で明らかに芽球増加が認められれば早期に開始する。		
その他(特記事項など) 生食でルートキープし、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。 末梢静脈路より投与する場合はA型ポンプは使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ダラキューロ+Pd療法 (2サイクル)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 8, 15, 22
②	レナデックス錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 8, 15, 22
③	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 8, 15, 22
④	ポマリスト4mg	1カプセル	経口	寝る前	day1-21
⑤	レナデックス錠4mg	5錠	経口	朝食後	day2, 9, 16, 23
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週(28日間)			2サイクル		

その他(特記事項など)

- ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。
- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・75歳以上の患者にはレナデックスを20mg/週に減量してもよい。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ダラキューロ+Pd療法 (3-6サイクル)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 15
②	レナデックス錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 15
③	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 15
④	ポマリスト4mg	1カプセル	経口	寝る前	day1-21
⑤	レナデックス錠4mg	5錠	経口	朝食後	day2, 16
⑥	レナデックス錠4mg	10錠	経口	朝食後	day8, 22

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週(28日間)	3-6サイクル

その他(特記事項など)

- ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。
- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・75歳以上の患者にはレナデックスを20mg/週に減量してもよい。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ダラキューロ+Pd療法 (7サイクル以降)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1
②	レナデックス錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1
③	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1
④	ポマリスト4mg	1カプセル	経口	寝る前	day1-21
⑤	レナデックス錠4mg	5錠	経口	朝食後	day2
⑥	レナデックス錠4mg	10錠	経口	朝食後	day8, 15, 22
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週(28日間)			7サイクル以降		

その他(特記事項など)

- ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。
- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・75歳以上の患者にはレナデックスを20mg/週に減量してもよい。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
eBEACOPP	悪性リンパ腫(ホジキンリンパ腫)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	パロノセトロン	1パック	点滴	30分	day 1
②	エトポシド 5%ブドウ糖液	200mg/m ² 500mL	点滴	120分	day1、2、3
③	ドキソルビシン 生理食塩水	35mg/m ² 100ml	点滴	60分	day 1
④	シクロホスファミド 生理食塩水	1250mg/m ² 500m l	点滴	120分	day 1
⑤	ブレオマイシン 生理食塩水	10mg/m ² 100m l	点滴	60分	day 8
⑥	ビンクリスチン 生理食塩水	*1.4mg/m ² 50ml	点滴	全開で	day 8
⑦	プロカルバジン	100mg 分1	内服		day1～7
⑧	プレドニゾロン	40mg 分1	内服		day1～14
1 コースの期間 21日（3週間）			投与スケジュール及び総コース数 2コース		
その他（特記事項など） ・ビンクリスチンはup to 2mg eBEACOPPは、毒性が強く臨床試験では、18-60歳に行われている。実臨床でも高齢者に対しては適応を慎重に考慮すること。プロカルバジンとプレドニゾロンは内服で処方すること。G-CSFはブレオマイシンが使用されているが、day8から投与を開始すること。 PMID 33539742					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
EPd療法 (1・2サイクル目)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デカドロン錠	4mg 7錠	内服	朝食後	day1、8、15、22
②	レスタミンコーワ錠 カロナール錠	10mg 5錠 500mg 1錠	内服	デキサート 点滴開始時	day1、8、15、22
②	デキサート ガスター 生理食塩液	6.6mg 20mg 50mL	点滴	全開	day1、8、15、22
③	生理食塩液	50mL	点滴	60分	day1、8、15、22
④	エロツズマブ 注射用水 5%ブドウ糖	10mg/kg 250mL	点滴	下記参照	day1、8、15、22
⑤	ポマリストカプセル	4mg 1カプセル	内服		day1～21
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 1・2サイクル目		

その他(特記事項など)

- ・エロツズマブは、1サイクル目の初回投与は30mL/hより開始する。30分ごとにバイタルを確認し、60mL/h、120mL/hに増量する。infusion reactionが生じなければ2回目は、180mL/hより開始し、30分後に240mL/hに増量する。3回目・4回目・2サイクル目は、300mL/hから開始する。
- ・エロツズマブ投与時は、インラインフィルターを使用する。
- ・デキサメタゾンを減量する際は、経口投与量を優先して減量する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
EPd療法 (3サイクル目以降)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デカドロン錠	4mg 7錠	内服	朝食後	day1
②	レスタミンコーワ錠 カロナール錠	10mg 5錠 500mg 1錠	内服	デキサート 点滴開始時	day1
②	デキサート ガスター 生理食塩液	6.6mg 20mg 50mL	点滴	全開	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	60分	day1
④	エロツズマブ 注射用水 5%ブドウ糖	20mg/kg 250mL	点滴	下記参照	day1
⑤	ポマリストカプセル	4mg 1カプセル	内服		day1～21
⑥	デカドロン錠	4mg 10錠	内服		day8、15、22
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 3サイクル目～PD		

その他(特記事項など)

- ・エロツズマブは、以前にinfusion reactionが出現していなければ、180mL/hから開始し、30分後に240mL/hに増量する。
- ・3サイクル目の2回目投与以降は、300mL/hから開始する。
- ・エロツズマブ投与時は、インラインフィルターを使用する。
- ・デキサメタゾンを減量する際は、経口投与量を優先して減量する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ERd療法 (1・2サイクル目)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デカドロン錠	4mg 7錠	内服	朝食後	day1、8、15、22
②	レスタミンコーワ錠 カロナール錠	10mg 5錠 500mg 1錠	内服	デキサート 点滴開始時	day1、8、15、22
②	デキサート ガスター 生理食塩液	6.6mg 20mg 50mL	点滴	全開	day1、8、15、22
③	生理食塩液	50mL	点滴	60分	day1、8、15、22
④	エロツズマブ 注射用水 5%ブドウ糖	10mg/kg 230mL	点滴	下記参照	day1、8、15、22
⑤	レブラミドカプセル	5mg 5カプセル	内服		day1～21
28日間			投与スケジュール及び総コース数 1・2サイクル目		

その他(特記事項など)

- ・エロツズマブは、1サイクル目の初回投与は30mL/hより開始する。30分ごとにバイタルを確認し、60mL/h、120mL/hに増量する。infusion reactionが生じなければ2回目は、180mL/hより開始し、30分後に240mL/hに増量する。3回目・4回目・2サイクル目は、300mL/hから開始する。
- ・エロツズマブ投与時は、インラインフィルターを使用する。
- ・デキサメタゾンを減量する際は、経口投与量を優先して減量する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ERd療法 (3サイクル目以降)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デカドロン錠	4mg 7錠	内服	朝食後	day1、15
②	レスタミンコーワ錠 カロナール錠	10mg 5錠 500mg 1錠	内服	デキサート 点滴開始時	day1、15
②	デキサート ガスター 生理食塩液	6.6mg 20mg 50mL	点滴	全開	day1、15
③	生理食塩液	50mL	点滴	60分	day1、15
④	エロツズマブ 注射用水 5%ブドウ糖	10mg/kg 230mL	点滴	下記参照	day1、15
⑤	レブラミドカプセル	5mg 5カプセル	内服		day1～21
⑥	デカドロン錠	4mg 10錠	内服		day8、22
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 3サイクル目～PD		
その他(特記事項など) ・エロツズマブは、以前にinfusion reactionが出現していなければ、300mL/hから開始する。 ・エロツズマブ投与時は、インラインフィルターを使用する。 ・デキサメタゾンを減量する際は、経口投与量を優先して減量する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ESHAP療法	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ0.75mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1
②	ソル・メドロール 生理食塩液	500mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1～day5
③	エトポシド 5%ブドウ糖液	40mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	120分	day1～day4
④	シスプラチン 生理食塩液	25mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	24時間持続	day1～day4
⑤	キロサイド 生理食塩液	2000mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	180分	day5
⑥	リンデロン点眼0.1%5mL	1日5回(両眼)	点眼		day5
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 1投2～3休の3～4週間を1コースとして繰り返す。 6-8コース実施		

その他(特記事項など)

・生理食塩水またはソリターT3等でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
FC療法 (Axi-cel_NHL)	r/rびまん性大細胞型B細胞リンパ腫、原発性縦隔大細胞型B細胞リンパ腫、形質転換濾胞性リンパ腫、高悪性度B細胞リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロン	3mg/50mL	点滴 (側管)	30分	day 1-3
②	フルダラビン 生理食塩水	30mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day 1-3
③	シクロホスファミド 生理食塩水	500mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	60分	day 1-3
1 コースの期間 3日間			投与スケジュール及び総コース数 アキシカブタゲン シロルユーセル投与前のリンパ球除去療法として使用する		
その他（特記事項など） ・ 適応に関しては、PMDAの最適使用推進ガイドラインを十分に参照すること ・ 治療開始前には、トシリズマブの在庫を確認すること ・ アキシカブタゲン シロルユーセル投与前のリンパ球除去療法として使用する ・ CPAの投与量が多いため十分量の補液を行う事（ZUMA-1試験では、投与前後に生食を1L毎投与されていた） ・ 早期再発のDLBCLに対して自家移植に優越性を示している（ZUMA-7 PMID:34891224） PMID: 29226797（ZUMA-1）					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
FCR療法(FC内服)	慢性リンパ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
	レスタミンコーワ錠	5錠	内服	点滴開始時	day1
①	ソル・コーテフ注 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1～3
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/㎡ 1mg/mL	点滴	約240分	day1
	フルダラ錠	40mg/㎡	内服		day1～3
	エンドキサン錠	250mg/㎡	内服		day1～3
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間(4週間)			4週間を1コースとして 6コース		
その他(特記事項など)					
・総コース数については治療効果や副作用発現をみながら適宜検討する。 ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。 ・初回のリツキサン投与はday0に行う。 ・初回治療時、末梢血中腫瘍細胞が25000/μL以上のときは、リツキサン投与はday1ではなく、腫瘍量減量後に行う。 ・リツキサンは、2コース目以降500mg/㎡で投与する					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
FLAGM	AML	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	フィルグラスチム	300 μg/m2	皮下		day1～4
②	パロノセトロン	0.75mg/50mL	点滴	30分	day2
③	フルダラビン 注射用水 生理食塩液	15mg/m2 フルダラビン溶解用 100mL	点滴	30分	day2～5 12時間毎
④	シタラビン 生理食塩液	2g/m2 500mL	点滴	3時間	day2～5 12時間毎
⑤	ミトキサントロン 生理食塩液	10mg/m2 100mL	点滴	30分	day4～6
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			再発/難治性AMLに対して1コース施行する		
その他(特記事項など)					
65歳未満の患者への適応を推奨する。シタラビンが大量投与されるため、結膜炎予防にday1～6までステロイド点眼を併用し、シタラビン症候群予防としてシタラビン投与中はヒドロコルチゾンなど全身ステロイドの併用も積極的に考慮する。血球減少期に感染が制御できない場合は、G-CSF製剤の投与も許容されている。 主に、再発/難治性AMLに対して、同種移植へのブリッジングとして適応する。 (PMID: 30725360)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Flu+BU2	同種造血幹細胞移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	フルダラ静注用50mg 生理食塩液100mL	30mg/m ² 1瓶	点滴	1時間	day1～4
②	マブリン散	4mg/kg	内服（分4）		day2
③					
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4日間			マブリン散は分4、6時間毎に内服		

その他（特記事項など）

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Flu+BU2+ATG	同種造血幹細胞移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1～6
②	フルダラ静注用50mg 注射用水 生理食塩液	30mg/m ² フルダラ溶解用 100ml	点滴	1時間	day1～6
③	ブスルフェクス 生理食塩液	0.8mg/kg × 4回/day 100ml	点滴	2時間	day3、4 (6時間毎に4回/日)
④	ソル・メドロール 生理食塩液	2mg/kg 100ml	点滴	30分	day7 ⑤の投与前より 6時間毎に4回/日
⑤	サイモグロブリン 生理食塩液	2.5mg/kg 500ml	点滴	12時間	day7
⑥					

1コースの期間

投与スケジュール及び総コース数

その他（特記事項など）

TBI併用

フルダラは注射用水で溶解してから生食で希釈して使用する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Flu+BU2+移植後CY	同種造血幹細胞移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1～5、day10、day11
②	フルダラ静注用50mg 注射用水 生理食塩液	30mg/m ² 20ml 100ml	点滴	1時間	day1～5
③	エンドキサン 生理食塩液	14.5mg/kg 500ml	点滴	2時間	day1、2
③	ブスルフェクス 生理食塩液	3.2mg/kg 100ml	点滴	2時間	day4、5 (6時間毎に4回/日)
④	エンドキサン 生理食塩液	50mg/kg 500ml	点滴	3時間	day10、11
⑤	ウロミテキサン 生理食塩液	6.7mg/kg 50ml	点滴	30分	day10、11 エンドキサン投与時、4、8時間後
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
day7を造血幹細胞移植日とする			1コース		

その他(特記事項など)

- ・上記日数は移植日(移植day0)をday7として表示している。
- ・非寛解症例などで腫瘍量減量を目的に化学療法を追加する場合は、移植前14日(移植day-14)までとする。
- ・治療薬投与量は実体重と標準体重より算出する。フルダラは腎機能低下がある場合には規定に基づき減量する。(臨床研究プロトコルに従う場合は下記に注意のこと)
- ・TBIはday6(移植day-1)またはday7(移植day0)に2Gy/1frを施行する。
- ・移植片輸注時より大量CYの投与終了24時間後までステロイドを含むすべての免疫抑制剤は使用禁止とする。特に移植片輸注時や発熱時などにステロイドを投与しないように注意する。
- ・プログラフはday12(移植day5)より24時間持続静注を開始する。同日よりMMF内服を3回/日で行う。
- ・グランはday12(移植day5)より好中球生着まで投与する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Flu+Bu4(一括投与)	同種 造血幹細胞 移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1
①	アロキシバッグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day2
②	フルダラ静注用50mg 注射用水 生理食塩液	30mg/m2 フルダラ溶解用 100mL	点滴	1時間	day1～6
③	ブスルフェクス 生理食塩液	3.2mg/kg×1回/day 500mL	点滴	3時間	day2～5 (1回/日)
1コースの期間 6日間			投与スケジュール及び総コース数 幹細胞移植7日前より開始 1コース		
その他(特記事項など) ブスルフェクスの投与48時間前から、投与終了後48時間後まで、けいれん予防に抗けいれん薬の内服を行う。 ブスルフェクスの投与速度は別表を参照する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Flu+BU4	同種造血幹細胞移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1
①	アロキシバッグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day2
②	フルダラ静注用50mg 注射用水 生理食塩液100mL	30mg/m2 フルダラ溶解用 1瓶	点滴	1時間	day1～6
③	ブスルフェクス 生理食塩液100mL	0.8mg/kg×4回/day 1瓶	点滴	2時間	day 2、3、4、5 (6時間毎に4回/日)
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
その他(特記事項など) ブスルフェクスの投与48時間前から、投与終了後48時間後まで、痙攣予防にデパケン300mg/日分3で内服を行なう。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Flu+BU4+G-CSF combined Ara-C(JSCT FB13)	同種 造血幹細胞移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	フィルグラスチム 生理食塩液	200 μ g/m ² total 24ml	点滴	24時間	day 1～7
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day 2～7
③	キロサイド 生理食塩液	100mg/m ² 250ml	点滴	24時間	day 2～5
④	フルダラ静注用50mg 注射用水20ml 生理食塩液	30mg/m ² 2.5ml 100ml	点滴	1時間	day 2～7
⑤	ブスルフェクス 生理食塩液	3.2mg/kg 100ml	点滴	2時間	day 2、3、4、5 (6時間毎に4回/日)
⑥	キロサイド 生理食塩液	4g/m ² 500ml	点滴	3時間	day 6、7 (12時間毎に2回/日)
1コースの期間 7日間			投与スケジュール及び総コース数 移植前処置として		

その他(特記事項など)

- ・day9を移植日とする。
- ・day6、day7のキロサイドは3時間点滴を厳守する。60歳以上とCL_{Cr}<60mL/minでは、キロサイド1.5g/m² 3h×2 div.に減量する。
- ・フルダラはクレアチニンクリアランス 20-47 mL/min/m²以下では、腎機能に応じて減量する。
- ・TBIはday1～day8のいずれかにHLA不一致血縁・非血縁では2Gy、臍帯血では2Gy×2回を照射する。
- ・ブスルフェクスの投与48時間前から、投与終了後48時間後まで、痙攣予防にデパケン300mg/日分3で内服を行なう。
- ・角膜・結膜障害の対策として副腎皮質ホルモン剤(リンデロン)を1日数回以上点眼すること。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Flu+BU4+Mel	同種 造血幹細胞移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ	1袋	点滴	30分	day1
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day6
③	ブスルフェクス 生理食塩液	3.2mg/kg 100ml	点滴	2時間	day1～4 (8時間毎に4回/日)
④	アルケラン 生理食塩液	40mg/m ² 100ml	点滴	30分	day5～6
⑤	フルダラ静注用50mg 生理食塩液	30mg/m ² 100ml	点滴	1時間	day1～6
1コースの期間 day7を造血幹細胞移植日とする			投与スケジュール及び総コース数 1コース		
その他(特記事項など) ・上記日数は移植日(移植day0)をday8として表示している。 ・ブスルフェクスによる痙攣予防にバルプロ酸をブスルフェクス投与前日から投与翌日(day5)まで内服する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
FLU+BU4+MEL100	同種造血幹細胞移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day6
③	フルダラ静注用50mg 生理食塩液	30mg/m2 100ml	点滴	1時間	day1～5
④	ブスルフェクス点滴静注用60mg 生理食塩液	3.2mg/kg 500ml	点滴	3時間	day1～4
⑤	アルケラン静注用50mg 生理食塩液	50mg/m2 100mL	点滴	30分	day5～6
1コースの期間 day8を造血幹細胞移植日とする			投与スケジュール及び総コース数 1コース		
その他(特記事項など) 上記日数は移植日(移植day0)をday8として表示している。 ブスルフェクスによる痙攣予防にバルプロ酸をブスルフェクス投与前日から投与翌日(day5)まで内服する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Flu+CY(120mg/kg)	同種造血幹細胞 移植前処置	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day-7~-2
②	フルダラ注 注射用水 生理食塩液	30mg／m ² 1A(溶解用) 100mL	点滴 (側管)	30分	day-7~-2
②	エンドキサン メイロン7%20mL 生理食塩液	60mg／kg 2A 500mL	点滴 (側管)	3時間	day-4~-3
③	ウロミテキサン 生理食塩液	20mg/kg 50mL	点滴 (側管)	30分	day-4~-3
④	ウロミテキサン 生理食塩液	20mg/kg 50mL	点滴 (側管)	30分	day-4~-3
⑤	ウロミテキサン 生理食塩液	20mg/kg 50mL	点滴 (側管)	30分	day-4~-3
1コースの期間 6日間 day0を幹細胞輸注日とする			投与スケジュール及び総コース数 移植前処置として		
その他(特記事項など) ・エンドキサンはday-4～day-3の11時に投与し、ウロミテキサンはday-4～day-3の11時、15時、19時の3回投与する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Flu+CY	同種造血幹細胞 移植前処置	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day-5～day-2
②	フルダラ 生理食塩水	30mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	30分	day-5～day-2
③	エンドキサン 生理食塩水	500mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	180分	day-5～day-2
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
day0を幹細胞輸注日とする。			移植前処置として行う。		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Flu+L-PAM(180)	同種造血幹細胞移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1～4
②	生理食塩液 メルファラン	100ml 90mg/m2	点滴	30分	day2～3
③	フルダラビン 生理食塩液	30mg/m2 100ml	点滴	1時間	day1～4
⑤					
⑥					
1コースの期間 4日間			投与スケジュール及び総コース数 day1, 4はフルダラビンのみ投与、Day2, 3はメルファラン、フルダラビンの順に投与する。		
その他(特記事項など) ・メルファランは調製後、90分以内に点滴終了すること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Flu+L-PAM	同種造血幹細胞移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ 3mg	1袋	点滴	30分	day1～4
②	生理食塩液100mL アルケラン静注用50mg	1瓶 40～70mg/m2	点滴	30分	day2～3
③	フルダラ静注用50mg 生理食塩液100mL	30mg/m2 1瓶	点滴	1時間	day1～4
⑤					
⑥					
1コースの期間 4日間			投与スケジュール及び総コース数 day1, 4はフルダラのみ投与、Day2, 3はアルケラン、フルダラの順に投与する。		
その他（特記事項など） ・アルケランは調製後、90分以内に点滴終了すること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Flu+TBI	同種造血幹細胞 移植前処置	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	(TBI)	8～12Gy			day-9～-2のいずれか4日
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day-5～-2
③	フルダラ注	30mg/m2	点滴	30分	day-5～-2
	注射用水	適量(溶解用)			
	生理食塩液	100mL			
④					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
day0を幹細胞輸注日として、10日			移植前処置として行う		
その他(特記事項など)					
臨床研究(IRB承認済み)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Flu療法	慢性リンパ性白血病、悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	250ml	点滴 （本体）	20ml/H 残液破棄	day1～5
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 （側管）	30分	day1～5
③	フルダラ 生理食塩水	25mg/㎡ 100mL	点滴 （側管）	60分	day1～5
1コースの期間 約28日間			投与スケジュール及び総コース数		
その他（特記事項など） ・標準的なコース数は6コースとし、患者の状態に応じて、実施する。 ・生理食塩水でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する（A型ポンプは使用しない）。 ・フルダラは注射用水に溶解してから生食に希釈する					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
FND療法	再発または難治性の低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫およびマントル細胞リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	フルダラ錠	40 mg/m ²	経口		day 1からday 3までの3日間
	デカドロン	20mg/body	経口		day 1からday 5までの5日間
①	生食100ml		点滴	40mL/H 本体ルート用	
側①	グラニセトロンバッグ 3mg	1袋	点滴	30分	day 1
側②	ノバントロン 生食100ml	10mg/m ²	点滴	30分	day 1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間（4週間）			4週間の間をあけて最大8コース		

その他（特記事項など）

生食でルートキープし、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。A型ポンプは使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
GCD(R)療法	再発・難治性の 悪性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day8
②	ソル・コーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day8
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day8
①	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液破棄	day1,8
②	グラニセトロンバッグ3mg	1バッグ	点滴 (側管)	30分	day1,8
③	ジェムザール注 生理食塩液	1000mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day1,8
④	カルボプラチン 生理食塩液	AUC=5 250mL	点滴 (側管)	60分	day1
⑤	デカドロン錠0.5mg	40mg/body	経口		day1-4
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週(21日間)			4サイクル		
その他(特記事項など)					
・生理食塩液でルート確保し、抗がん剤は全て側管から投与する。					
・リツキサンはこれまでinfusion reaction等の副作用を生じていなければ					
100mL/hrから開始し、1時間後に200mL/hrに増量点滴とする。					
・day8に血小板5万-10万/μLあるいは好中球500-1000/μLの場合にはday8のジェムザールを75%に減量。					
それぞれ5万/μL未満あるいは500/μL未満でジェムザール中止。(リツキサンは投与してもよい。)					
・次コースは血小板数5万/μL以上、好中球1000/μL以上で開始する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
G-CHOP21(1サイクル)	CD20陽性 濾胞性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術後化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	水溶性プレドニン 生理食塩液	100mg 50mL	点滴	全開	day1, 8, 15
②	生理食塩液	100mL	点滴	60分	day1, 8, 15
③	カロナール錠 レスタミンコーワ錠	1000mg 5錠	経口	ガザイバ開始 30分前	day1, 8, 15
④	ガザイバ 生理食塩液	1000mg 250mL(溶液総量)	点滴	255分 195分	day1 day8, 15
⑤	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/h 残液廃棄	day2
⑤	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2
⑥	オンコビン 生理食塩液	1.4mg/㎡ (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
⑦	ドキシソルビシン 生理食塩液	50mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑧	エンドキサン 生理食塩液	750mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	120分	day2
⑨	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 8, 15
⑩	プレドニゾロン錠	100mg	経口		day2-5
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 1サイクル (2-8サイクルは別紙参照)		
その他(特記事項など) ・ガザイバは初回投与では12.5mL/時で開始し、30分毎に12.5mL/時ずつ、最大100mL/時まで上げることができる。 ・2回目以降では、前回の投与でGrade 2以上のinfusion reactionが発現しなかった場合は、25mL/時で投与を開始し、30分毎に25mL/時ずつ、最大100mL/時まで上げることができる。 ・Grade3以下のinfusion reactionが発現した場合は、投与中断し、回復後投与中断前の半分の速度で投与再開する。投与再開、infusion reactionが認められない場合は、30分ごとに12.5mL/時ずつ最大100mL/時まで上げることができる。 ・蛋白微粒子を認めることがあるので、インラインフィルターを通して投与する。 ・水溶性プレドニン100mgの投与はガザイバ投与1時間前までに投与を完了する。 ・カロナールとレスタミンコーワはガザイバ投与の30分以上前に投与を完了する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
G-CHOP21(2-6サイクル)	CD20陽性 濾胞性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術後化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	水溶性プレドニン 生理食塩液	100mg 50mL	点滴	全開	day1
②	生理食塩液	100mL	点滴	60分	day1
③	カロナール錠 レスタミンコーワ錠	1000mg 5錠	経口	ガザイバ開始 30分前	day1
④	ガザイバ 生理食塩液	1000mg 250mL(溶液総量)	点滴	195分	day1
⑤	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/h 残液廃棄	day2
⑤	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2
⑥	オンコビン 生理食塩液	1.4mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
⑦	ドキソルビシン 生理食塩液	50mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑧	エンドキサン 生理食塩液	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day2
⑧	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
⑩	プレドニゾン錠	100mg	経口		day2-5
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 5サイクル (1, 7-8サイクルは別紙参照)		
その他(特記事項など) ・ガザイバは前回の投与でGrade 2以上のinfusion reactionが発現しなかった場合は、25mL/時で投与を開始し、30分毎に25mL/時ずつ、最大100mL/時まで上げることができる。 ・蛋白微粒子を認めることがあるので、インラインフィルターを通して投与する。 ・水溶性プレドニン100mgの投与はガザイバ投与1時間前までに投与を完了する。 ・カロナールとレスタミンコーワはガザイバ投与の30分以上前に投与を完了する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
G-CHOP21(7-8サイクル)	CD20陽性 濾胞性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術後化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	水溶性プレドニン 生理食塩液	100mg 50mL	点滴	全開	day1
②	生理食塩液	100mL	点滴	60分	day1
③	カロナール錠 レスタミンコーワ錠	1000mg 5錠	経口	ガザイバ開始 30分前	day1
④	ガザイバ 生理食塩液	1000mg 250mL(溶液総量)	点滴	195分	day1
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 2サイクル (1, 2-6サイクルは別紙参照)		
その他(特記事項など) ・ガザイバは前回の投与でGrade 2以上のinfusion reactionが発現しなかった場合は、25mL/時で投与を開始し、30分毎に25mL/時ずつ、最大100mL/時まで上げることができる。 ・蛋白微粒子を認めることがあるので、インラインフィルターを通して投与する。 ・水溶性プレドニン100mgの投与はガザイバ投与1時間前までに投与を完了する。 ・カロナールとレスタミンコーワはガザイバ投与の30分以上前に投与を完了する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
G-CVP21(1サイクル)	CD20陽性 濾胞性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術後化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	水溶性プレドニン 生理食塩液	100mg 50mL	点滴	全開	day1, 8, 15
②	生理食塩液	100mL	点滴	60分	day1, 8, 15
③	カロナール錠 レスタミンコーワ錠	1000mg 5錠	経口	ガザイバ開始 30分前	day1, 8, 15
④	ガザイバ 生理食塩液	1000mg 250mL(溶液総量)	点滴	255分 195分	day1 day8, 15
⑤	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/h 残液廃棄	day2
⑤	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2
⑥	オンコビン 生理食塩液	1.4mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
⑦	エンドキサン 生理食塩液	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day2
⑧	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 8, 15
⑨	プレドニゾロン錠	100mg	経口		day2-5
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 1サイクル (2-8サイクルは別紙参照)		

その他(特記事項など)

- ・ガザイバは初回投与では12.5mL/時で開始し、30分毎に12.5mL/時ずつ、最大100mL/時まで上げることができる。
- ・2回目以降では、前回の投与でGrade 2以上のinfusion reactionが発現しなかった場合は、25mL/時で投与を開始し、30分毎に25mL/時ずつ、最大100mL/時まで上げることができる。
- ・Grade3以下のinfusion reactionが発現した場合は、投与中断し、回復後投与中断前の半分の速度で投与再開する。投与再開、infusion reactionが認められない場合は、30分ごとに12.5mL/時ずつ最大100mL/時まで上げることができる。
- ・蛋白微粒子を認めることがあるので、インラインフィルターを通して投与する。
- ・水溶性プレドニン100mgの投与はガザイバ投与1時間前までに投与を完了する。
- ・カロナールとレスタミンコーワはガザイバ投与の30分以上前に投与を完了する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
G-CVP21(2-8サイクル)	CD20陽性 濾胞性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術後化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	水溶性プレドニン 生理食塩液	100mg 50mL	点滴	全開	day1
②	生理食塩液	100mL	点滴	60分	day1
③	カロナール錠 レスタミンコーワ錠	1000mg 5錠	経口	ガザイバ開始 30分前	day1
④	ガザイバ 生理食塩液	1000mg 250mL(溶液総量)	点滴	195分	day1
⑤	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/h 残液廃棄	day2
⑤	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2
⑥	オンコビン 生理食塩液	1.4mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
⑧	エンドキサン 生理食塩液	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day2
⑨	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 2
⑩	プレドニゾロン錠	100mg	経口		day2-5
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 7サイクル (1サイクルは別紙参照)		
その他(特記事項など) ・ガザイバは前回の投与でGrade 2以上のinfusion reactionが発現しなかった場合は、25mL/時で投与を開始し、30分毎に25mL/時ずつ、最大100mL/時まで上げることができる。 ・蛋白微粒子を認めることがあるので、インラインフィルターを通して投与する。 ・水溶性プレドニン100mgの投与はガザイバ投与1時間前までに投与を完了する。 ・カロナールとレスタミンコーワはガザイバ投与の30分以上前に投与を完了する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
GDP療法	再発・難治性の 悪性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	500ml	点滴	2時間	day 1
②	生理食塩液	500ml	点滴	2時間	day 1
③	ソルデム3A	500ml	点滴	2時間	day 1
④	ソルデム3A	500ml	点滴	2時間	day 1
側①	アロキシ0.75mg/バック デキサート6.6mg	100ml 3V	点滴	30分	day 1
側②	ジェムザール 生理食塩液	1000mg/m2 100ml	点滴	30分	day 1
側③	シスプラチン 生理食塩液	75mg/m2 合計500ml	点滴	2時間	day 1
側④	マンニトール	300ml	点滴	1時間	day 1
側⑤	フロセミド 生理食塩液	10mg 50ml	点滴	30分	day 1
	デカドロン錠	20mg(夜のみ)	内服		day 1
	デカドロン錠	20mg × 2回	内服		day 2-4
側①	グラニセトロンバック3mg デキサート1.65mg	1V 2A	点滴	30分	day 8
側②	ジェムザール 生理食塩液	1000mg/m2 100ml	点滴	30分	day 8
1コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 PDまで		

その他(特記事項など)

・イメンドを併用する

・シスプラチンの腎障害を予防するため、十分量の輸液(2L～3L)と飲水を行い、尿量を確保する。心機能の悪い症例では輸液速度に注意する。尿量、体重測定を行い、適宜利尿剤を使用する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
GEM3投1休	再発又は難治性 悪性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1,8,15
②	ジェムザール注 生理食塩液	1000mg/m ² 100mL	点滴	30分	day1,8,15
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1,8,15
④					
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間(4週間)			3投1休で繰り返す PDまで		

その他(特記事項など)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Gem(750)-CVP	悪性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day1
②	グラニセトロン	3mg/body	点滴 (側管)	30分	day1
③	オンコビン 生理食塩水	1.4mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
④	ジェムザール 生理食塩水	750mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day1,8
⑤	エンドキサン 生理食塩水	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day1
⑥	プレドニゾン	100mg/body	経口		day1～5
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			6コース		
その他（特記事項など）					
心機能が低下している症例への適応を推奨する。G-CSFの1次予防は必須。 GEMは750mg/m ² →875mg/m ² →1000mg/m ² の順に増量する。 Day1にG3の好中球減少、G2の血小板減少が生じた場合、Gem、VCR、CPAを75%doseに減量する。 Day1にG4の好中球減少、G3以上の血小板減少が生じた場合は化学療法を延期する。 Day8にG4の好中球減少、G3以上の血小板減少が生じた場合はゲムシタビンの投与を中止する。 上記毒性が生じた場合は、GEMは次コースdose up を行わない。 PMID: 24220559					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Gem(875)-CVP	悪性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day1
②	グラニセトロン	3mg/body	点滴 (側管)	30分	day1
③	オンコビン 生理食塩水	1.4mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
④	ジェムザール 生理食塩水	875mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day1,8
⑤	エンドキサン 生理食塩水	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day1
⑥	プレドニゾン	100mg/body	経口		day1～5
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			6コース		
その他（特記事項など）					
心機能が低下している症例への適応を推奨する。G-CSFの1次予防は必須。 GEMは750mg/m ² →875mg/m ² →1000mg/m ² の順に増量する。 Day1にG3の好中球減少、G2の血小板減少が生じた場合、Gem、VCR、CPAを75%doseに減量する。 Day1にG4の好中球減少、G3以上の血小板減少が生じた場合は化学療法を延期する。 Day8にG4の好中球減少、G3以上の血小板減少が生じた場合はゲムシタビンの投与を中止する。 上記毒性が生じた場合は、GEMは次コースdose up を行わない。 PMID: 24220559					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Gem(1000)-CVP	悪性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day1
②	グラニセトロン	3mg/body	点滴 (側管)	30分	day1
③	オンコビン 生理食塩水	1.4mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
④	ジェムザール 生理食塩水	1000mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day1,8
⑤	エンドキサン 生理食塩水	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day1
⑥	プレドニゾン	100mg/body	経口		day1～5
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			6コース		
その他（特記事項など）					
心機能が低下している症例への適応を推奨する。G-CSFの1次予防は必須。 GEMは750mg/m ² →875mg/m ² →1000mg/m ² の順に増量する。 Day1にG3の好中球減少、G2の血小板減少が生じた場合、Gem、VCR、CPAを75%doseに減量する。 Day1にG4の好中球減少、G3以上の血小板減少が生じた場合は化学療法を延期する。 Day8にG4の好中球減少、G3以上の血小板減少が生じた場合はゲムシタビンの投与を中止する。 上記毒性が生じた場合は、GEMは次コースdose up を行わない。 PMID: 24220559					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
GO単独療法	急性骨髄性白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg ソル・メドロール125mg	1袋 1瓶	点滴	30分	day1,15
②	生理食塩液100mL 注射用水 マイロターグ(GO)	1瓶 GO1瓶につき5ml 9mg/m2	点滴	2時間	day1,15
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間(4週)			1コースのみ		
その他(特記事項など)					
Infusion reaction予防のため、GO投与30分前にロキソニン1錠とオロパタジン1錠を内服。投与開始時から投与終了4時間はバイタルサインをモニターする。 GO投与時は、ポリエーテルスルホン製等の蛋白結合性の低いメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを使用し、同一の点滴ラインで他の薬剤を使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
G-ベンダムスチン(1サイクル)	CD20陽性 濾胞性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術後化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート 生理食塩液	19.8mg 50mL	点滴	全開	day1, 8, 15
②	生理食塩液	100mL	点滴	60分	day1, 8, 15
③	カロナール錠 レスタミンコーワ錠	1000mg 5錠	経口	ガザイバ開始 30分前	day1, 8, 15
④	ガザイバ 生理食塩液	1000mg 250mL(溶液総量)	点滴	255分 195分	day1 day8, 15
⑤	アロキシバグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
⑥	デキサート 生理食塩液	6.6mg 50mL	点滴	30分	day2
⑦	トレアキシン 注射用水 生理食塩液	90mg/m ² 40mL/1バイアル 250mL(溶液総量)	点滴	60分	day1, 2
⑧	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 2, 8, 15
1コースの期間 4週(28日間)			投与スケジュール及び総コース数 1サイクル (2-6サイクルは別紙参照)		

その他(特記事項など)

- ・ガザイバは初回投与では12.5mL/時で開始し、30分毎に12.5mL/時ずつ、最大100mL/時まで上げることができる。
- ・2回目以降では、前回の投与でGrade 2以上のinfusion reactionが発現しなかった場合は、25mL/時で投与を開始し、30分毎に25mL/時ずつ、最大100mL/時まで上げることができる。
- ・Grade3以下のinfusion reactionが発現した場合は、投与中断し、回復後投与中断前の半分の速度で投与再開する。投与再開、infusion reactionが認められない場合は、30分ごとに12.5mL/時ずつ最大100mL/時まで上げることができる。
- ・蛋白微粒子を認めることがあるので、インラインフィルターを通して投与する。
- ・デキサート19.8mgの投与はガザイバ投与1時間前までに投与を完了する。
- ・カロナールとレスタミンコーワはガザイバ投与の30分以上前に投与を完了する。
- ・ST合剤とアシクロビルの予防内服を併用する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
G-ベンダムスチン(2-6サイクル)	CD20陽性 濾胞性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術後化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート 生理食塩液	19.8mg 50mL	点滴	全開	day1
②	生理食塩液	100mL	点滴	60分	day1
③	カロナール錠 レスタミンコーワ錠	1000mg 5錠	経口	ガザイバ開始 30分前	day1
④	ガザイバ 生理食塩液	1000mg 250mL(溶液総量)	点滴	195分	day1
⑤	アロキシバグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
⑥	デキサート 生理食塩液	6.6mg 50mL	点滴	30分	day2
⑦	トレアキシン 注射用水 生理食塩液	90mg/m ² 40mL/1バイアル 250mL(溶液総量)	点滴	60分	day1, 2
⑧	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 2
1コースの期間 4週(28日間)			投与スケジュール及び総コース数 5サイクル (1サイクルは別紙参照)		

その他(特記事項など)

- ・ガザイバは前回の投与でGrade 2以上のinfusion reactionが発現しなかった場合は、25mL/時で投与を開始し、30分毎に25mL/時ずつ、最大100mL/時まで上げることができる。
- ・蛋白微粒子を認めることがあるので、インラインフィルターを通して投与する。
- ・デキサート19.8mgの投与はガザイバ投与1時間前までに投与を完了する。
- ・カロナールとレスタミンコーワはガザイバ投与の30分以上前に投与を完了する。
- ・ST合剤とアシクロビルの予防内服を併用する。

がん薬物療法レジメン

プロトコール名	対象がん種	適応分類
HD-AraC療法 60歳未満	急性骨髄性白血病の地 固め療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	パロノセトロンバッグ0.75mg ソル・コーテフ	1袋 100mg	点滴	30分	day1
②	ソル・コーテフ 生食50mL	100mg 1び	点滴	30分	day 3 5
③	キロサイド 生食500ml	3000 mg/m2 1袋	点滴	3時間	day 1 3 5
④	ソル・コーテフ 生食50mL	100mg 1瓶	点滴	30分	day 1 3 5
⑤	キロサイド 生食500ml	3000mg/m2 1袋	点滴	3時間	day 1 3 5
1コースの期間 19日間			投与スケジュール及び総コース数 地固め療法として3コース施行する.		
その他(特記事項など)					
大量AraCレジメンであり、ステロイド点眼を併用すること					

がん薬物療法レジメン

プロトコール名	対象がん種	適応分類
HD-AraC療法 60歳以上	急性骨髄性白血病の地 固め療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	パロノセトロンバッグ0.75mg ソル・コーテフ	1袋 100mg	点滴	30分	day1
②	ソル・コーテフ 生食50mL	100mg 1び	点滴	30分	day 3 5
③	キロサイド 生食500ml	1000 mg/m2 1袋	点滴	3時間	day 1 3 5
④	ソル・コーテフ 生食50mL	100mg 1瓶	点滴	30分	day 1 3 5
⑤	キロサイド 生食500ml	1000mg/m2 1袋	点滴	3時間	day 1 3 5
1コースの期間 19日間			投与スケジュール及び総コース数 地固め療法として3コース施行する.		
その他(特記事項など)					
大量AraCレジメンであり、ステロイド点眼を併用すること 臨床試験では89歳までの患者が含まれている。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
HD- AraC療法	急性骨髄性白血病の地固め療法、又は難治性再発性急性骨髄性白血病の再寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
側①	アロキシバッグ0.75mg ソル・コーテフ	1袋 100mg	点滴	30分	day1
側①	ソル・コーテフ 生理食塩水	100mg 50mL	点滴	30分	day 2からday 5までの 4日間
側②	キロサイド 生食500ml	2000 mg/m2	点滴	3時間	day 1からday 5までの 5日間
側③	ソル・コーテフ 生理食塩水	100mg 50mL	点滴	30分	day 1からday 5までの 5日間
側④	キロサイド 生食500ml	2000mg/m2	点滴	3時間	day 1からday 5までの 5日間
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 地固め療法として3コース施行する。前治療の影響がなくなり十分に骨髄機能が回復後に施行。 好中球1,500/ μ l、白血球数 3,000/ μ l 以上かつ血小板数 100,000/ μ l以上が望ましい。		
その他(特記事項など)					
中心静脈を確保して施行する。感染巣のないことを確認したうえで開始すること。 中枢神経系障害や遷延性の骨髄抑制を防ぐために点滴時間3時間を厳守すること。 抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。角膜・結膜障害の対策として副腎皮質ホルモン剤(フルメロンなど)を1日数回以上点眼すること。体液貯留傾向があるため毎日体重測定を行い、体液管理を厳重に行うこと。抗白血病剤の髄注は行わない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
HD- ETP療法	難治性再発性悪性リンパ腫の自己末梢血幹細胞採取術前処置	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
側①	アロキシバック0.75mg	1袋	点滴	30分	day 1
側②	エトポシド (原液で)	500mg/m2	点滴	4(～8)時間	day 1からday 3(4)までの 3(4)日間
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3(4)日間			好中球低下時よりG-CSF投与を開始する.		
その他(特記事項など)					
中心静脈を確保して施行する. 感染巣のないことを確認したうえで開始すること.					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
HD-EX (PBSCHの前処置)	自家造血幹細胞 移植（ハーベス トの前処置）	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1～2
②	エンドキサン メイロン7%20mL 生理食塩液	2g／m ² 2A 500mL	点滴	3時間	day1～2
③	ウロミテキサン 生理食塩液	0.7g／m ² 50mL	点滴	30分	day1～2
④	ウロミテキサン 生理食塩液	0.7g／m ² 50mL	点滴	30分	day1～2
⑤	ウロミテキサン 生理食塩液	0.7g／m ² 50mL	点滴	30分	day1～2
1 コースの期間 2日間			投与スケジュール及び総コース数 エンドキサンはday1～2の10時に投与 ウロミテキサンはday1～2の10時、14時、18時の3回 投与する		
その他（特記事項など）					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
HD-EX	同種造血幹細胞移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 エンドキサン メイロン7%注20ml	500ml 60mg/kg 40ml	点滴	3時間	day1～2
③	生理食塩液 ウロミテキサン注400mg/4ml	50ml 0.2ml/kg	点滴	30分	day1～2
④	生理食塩液 ウロミテキサン注400mg/4ml	50ml 0.2ml/kg	点滴	30分	day1～2
⑤	生理食塩液 ウロミテキサン注400mg/4ml	50ml 0.2ml/kg	点滴	30分	day1～2
⑥					
1コースの期間 2日間			投与スケジュール及び総コース数 エンドキサンはday1～2の10時に投与、ウロミテキサンはday1～2の10時、14時、18時の3回投与する。		
その他(特記事項など) TBI併用					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
HD-MA+DAS療法	フィラデルフィア 染色体陽性 急性リンパ性 白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 メソトレキセート	500ml 200mg/m2	点滴	2時間	day1
③	生理食塩液 メソトレキセート	50ml 800mg/m2	点滴	22時間	day1
④	5%ブドウ糖液 キロサイド	500ml 2g/㎡×2(12h毎)	点滴	3時間	day2,3
⑤	生理食塩液 ロイコボリン	50ml 50mg	点滴	30分	day2 MTX終了12時間 後に投与
⑥	生理食塩液 ロイコボリン	50ml 15mg	点滴	30分	day3-4,1日4回 6時間毎
	スプリセル	70mg 分1(寛解導入 時のみ100mg 分1)	内服		連日併用(寛解導入時 のみ14日間)
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
約21日			Hyper CVAD +DAS療法と交互に行う 両方合わせて計8コースの予定		
その他(特記事項など)					
・1コースに1～2回程度(主治医判断)tripple ITを行なう。 ・メソトレキセート投与終了後12時間後にロイコボリン50mg/bodyを点滴後、6時間ごとに15mg/bodyを最低8回、MTX濃度が0.1 μ M未満に低下するまで投与する。 ・標準的なAraC投与量は4g/m2を分2とし、60歳以上は50%に減量し、2g/m2の分2への減量を考慮する。AraCによる角膜炎予防にリンデロン点眼を行なう。 ・スプリセルは初回化学療法時(寛解導入療法に相当し、通常はDasa+hyerCVAD)の際のみ100mg分1で14日間のみ投与を行うが、2コース目(地固め療法に相当し、通常はDasa+MA)からは70mg分1で日数制限無しに併用する。毒性出現時は適宜減量・休薬を行なう。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
HD-MA+IMA	フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ 0.75mg	1袋	点滴	30分	day 1
②	メソトレキセート 生食500mL	200mg/m ²	点滴	2時間	day 1
③	メソトレキセート 生食500mL	800mg/m ²	点滴	22時間	day 1
④	キロサイド 5%ブドウ糖液	2g/m ² ×2(12h毎) 500ml	点滴	3時間	day 2, 3
⑤	ロイコボリン 生食	50mg 50ml	点滴	30分	day 2 メソトレキセート終了12h時間後に投与
⑥	ロイコボリン 生食	15mg 50ml	点滴	30分	day 3-4, 1日4回、6時間毎
	グリベック	600mg/body	内服		day 1-14
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
約21日間			血球回復後 HyperCVAD+IMAへ		
その他(特記事項など)					
Day1にIT:メソトレキセート15mg/body+ キロサイド40mg/body+ 水溶性プレドニン20mg/body HyperCVAD+IMAとHD-MA+IMAを交互に4サイクル繰り返す。 ロイコボリンレスキューを行う。メソトレキセート投与終了後12時間後にロイコボリン50mg/bodyを点滴後、6時間ごとに15mg/bodyを最低計8回、MTX濃度が0.1μM未満に低下するまで投与する。 標準的なAraC投与量は4g/m2を分2とし、60歳以上は50%に減量し2g/m2の分2とする。 AraCによる角膜炎予防にリンデロン点眼を行う。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
HD-MA+ponatinib療法	フィラデルフィア 染色体陽性 急性リンパ性 白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 メソトレキセート	500ml 200mg/m2	点滴	2時間	day1
③	生理食塩液 メソトレキセート	500ml 800mg/m2	点滴	22時間	day1
④	5%ブドウ糖液 キロサイド	500ml 6g/m2(分2 12h毎)	点滴	3時間	day2, 3
⑤	生理食塩液 ロイコボリン	50ml 50mg	点滴	30分	day2 MTX終了12時間 後に投与
⑥	生理食塩液 ロイコボリン	50ml 15mg	点滴	30分	day3-4, 1日4回 6時間毎
	アイクルシグ	45mg 分1	内服		連日併用
1 コースの期間 約21日			投与スケジュール及び総コース数 HyperCVAD+ponatinib療法と交互に行う 両方合わせて計8コースの予定		
その他（特記事項など） ロイコボリンレスキューを行う。メソトレキセート投与終了後 1 2 時間後にロイコボリン 5 0 mg/bodyを点滴後、6 時間ごとに15mg/bodyを最低 8 回、MTX濃度が0. 1 μ M未満に低下するまで投与する。標準的なAraC投与量は4g/m2を分2とし、60歳以上は50%に減量し、2g/m2の分 2 とする。AraCによる角膜炎予防にリンデロン点眼を行なう。 1コースあたり1-2回髄注(tripple IT)を行う。 アイクルシグは30mgまたは15mgに減量可能。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
High Dose MTX	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 メソトレキセート	total 500ml 8g/m2	点滴	3時間	day1
③	生理食塩液 ロイコボリン	50mg 15mg	点滴	30分	day2-4 1日6回、4時間毎
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
約10日			最大6コース施行		

その他(特記事項など)

Primary CNS Lymphomaで行う。
 MTXの投与量は、3.5g/m2から8g/m2まで
 ロイコボリンレスキューあり。MTX投与開始24時間後から4時間毎に15回投与。MTX 0.1μM未満になるまで継続。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
High Dose MTX/Ara-C	悪性リンパ腫 急性リンパ球性 白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 メソトレキセート	500ml 200mg/m2	点滴	2時間	day1
③	生理食塩液 メソトレキセート	500ml 800mg/m2	点滴	22時間	day1
④	5%ブドウ糖液 キロサイド(※)	500ml 2g/m2 × 2(12h毎)	点滴	3時間	day2,3
⑤	生理食塩液 ロイコボリン	50ml 50mg	点滴	30分	day2 メソトレキセート終了12時間後に投与
⑤	生理食塩液 ロイコボリン	50ml 15mg	点滴	30分	day3-4 1日4回、6時間毎
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
約21日			Hyper CVAD療法と交互に投与を行う。 両方合わせて計8コースの予定		
その他(特記事項など)					
・ロイコボリンレスキューを行う。メソトレキセート投与終了12時間後にロイコボリン50mg/bodyを点滴後、6時間毎に15mg/bodyを最低計8回、MTX血中濃度が0.1μM未満に低下するまで投与する。					
・標準的なAraC投与量は、4000mg/m2を分2とし、60歳以上は2000mg/m2の分2への減量を検討する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Hyper CVAD	悪性リンパ腫 急性リンパ球性白血 血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 エンドキサン	500mL 300mg/m2 × 2回	点滴	2時間 (12h毎)	day1-3、 計6回投与
③	生理食塩液 オンコビン	50mL 2mg/body	点滴	全開	day4,11
④	生理食塩液 ドキソルビシン	250mL 50mg/m2	点滴	2時間	day4
⑤	生理食塩液 デキサート6.6mg	50mL 6V	点滴	30分	day1-4,11-14
1コースの期間 約21日			投与スケジュール及び総コース数 High dose MTX/Ara-C療法と交互に投与を行う。 両方合わせて計8コースの予定		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Hyper CVAD+DAS療法	フィラデルフィア 染色体陽性 急性リンパ性 白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 エンドキサン	500ml 300mg/m2 × 2回	点滴	2時間	day1～3 12時間毎 1日2回、計6回
③	生理食塩液 オンコビン	50ml 2mg/body	点滴	全開	day4,11
④	生理食塩液 ドキソルビシン	250ml 50ml/m2	点滴	2時間	day4
⑤	生理食塩液 デキサート	50ml 40mg	点滴	30分	day1-4,11-14
	スプリセル	70mg 分1(寛解導入時のみ100mg 分1)	内服		連日併用(寛解導入時のみ14日間)
1コースの期間 約21日			投与スケジュール及び総コース数 High dose MTX/Ara-C+DAS療法と交互に行う 両方合わせて計8コースの予定		
その他(特記事項など) ・1コースに1～2回程度(主治医判断)triple ITを行なう。 ・スプリセルは初回化学療法時(寛解導入療法に相当し、通常はDasa+hyerCVAD)の際のみ100mg分1で14日間のみ投与を行うが、2コース目(地固め療法に相当し、通常はDasa+MA)からは70mg分1で日数制限無しに併用する。毒性出現時は適宜減量・休薬を行なう。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Hyper CVAD+ponatinib療法	フィラデルフィア 染色体陽性 急性リンパ性 白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 エンドキサン	500ml 300mg/m2 × 2回	点滴	2時間	day1～3 12時間毎 1日2回、計6回
③	生理食塩液 オンコビン	50ml 2mg/body	点滴	全開	day4,11
④	生理食塩液 ドキソルビシン	250ml 50mg/m2	点滴	2時間	day4
⑤	生理食塩液 デキサート	50ml 40mg	点滴	30分	day1-4, 11-14
	アイクルシグ	45mg 分1	内服		1コース目：day1-14 その他：連日併用
1 コースの期間 約21日			投与スケジュール及び総コース数 High dose MTX/Ara-C+ponatinib療法と交互 に行う。両方合わせて計8コースの予定		
その他（特記事項など） 1コースあたり1-2回髄注(tripple IT)を行う。 アイクルシグは30mgまたは15mgに減量可能。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Hyper CVAD+IMA	フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ球性白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 エンドキサン	500ml 300mg/m2 X 2回	点滴	2時間	day1-3、12時間毎 1日2回、計6回投与
③	生理食塩液 オンコビン	50ml 2mg	点滴	全開	day4,11
④	生理食塩液 ドキソルビン	250ml 50mg/m2	点滴	2時間	day4
⑤	生理食塩液 デキサート	50ml 40mg	点滴	30分	day1-4,11-14
	グリベック	600mg/Body	内服		day1-14
1コースの期間 約21日			投与スケジュール及び総コース数 HD-MA+IMA療法と交互4サイクル行う。 両方合わせて8コースの予定		
その他(特記事項など) Day1にIT:メソトレキセート15mg/body+ キロサイド40mg/body+ 水溶性プレドニン20mg/body					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ICE療法(変法)	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1～day5
②	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	120分	day1～day5
③	イホマイド 生理食塩水	1200mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	120分	day1～day5
④	カルボプラチン 5%ブドウ糖液	400mg/㎡ 250mL	点滴 (側管)	60分	day1
側①	ウロミテキサン 生理食塩水	400mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	30分	day1～day5 イホマイド投与時、 4時間後、8時間後
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週(28日間)			PDまで		
その他(特記事項など)					
・生理食塩水またはソルデム3A等でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する。 ・カルボプラチンはmax 800mgとする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ICE療法	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1～day3
②	イホマイド 生理食塩水	5000mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	24時間持続	day2
③	カルボプラチン 5%ブドウ糖液	AUC＝5 250mL	点滴 (側管)	60分	day2
④	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	60分	day1～day3
側①	ウロミテキサン 生理食塩水	5000mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	24時間持続	day2
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 1投2～3休の3～4週間を1コースとして繰り返す。 最大6コース施行		
その他(特記事項など) ・生理食塩水またはソルデム3A等でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する。 ・カルボプラチンは5×(GFR＋25)mgで計算するが、max 800mgとする。 ・G-CSFをday5～day12に使用する。 ・ウロミテキサンは混注する量の生食を抜いて、total500mLに調製し、イホマイドと同時に点滴。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
IDR+ AraC (APL地固め)療法	急性前骨髄性白血病の地固め療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
側①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day 1からday 5での 5日間
側②	イダマイシン 生食100ml	12 mg/m2	点滴	30分	day 1からday 3までの 3日間
側③	キロサイド 5%ブドウ糖液500ml	140mg/m2	点滴	24時間	day 1からday 5までの 5日間
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間(4週)			原則的に前コース後の血球回復を 確認して開始する。		
その他(特記事項など)					
生食でルートキープし、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。 末梢静脈路より投与する場合はA型ポンプは使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
IDR+ AraC	急性骨髄性白血病 の寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
側①	アロキシバック0.75mg	1袋	点滴	30分	day 1
側①	グラニセトロンバック3mg	1袋	点滴	30分	day 6～7 朝夜の2回投与
側②	イダマイシン 生食100ml	12 mg/m2	点滴	30分	day 1からday 3までの 3日間
側③	キロサイド 5%ブドウ糖液500ml	100mg/m2	点滴	24時間	day 1からday 7までの 7日間
1コースの期間 標準28日、最短14日			投与スケジュール及び総コース数 第一コースで非寛解症例については、第二コースも 同じ治療で行う。第二コースは原則的にDay28以降 に開始する。但し、day14以降で明らかに芽球増加が 認められれば早期に開始する。		
その他(特記事項など) 生食でルートキープし、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。 末梢静脈路より投与する場合はA型ポンプは使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Increased-Dose BEACOPP	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day 1,2,3,8
②	エトポシド 5%ブドウ糖液	200mg/m ² 500mL	点滴	120分	day1、2、3
③	ドキソルビシン 生理食塩水	35mg/m2 100ml	点滴	60分	day 1
④	エンドキサン 生理食塩水	1200mg/m2 500ml	点滴	120分	day 1
⑤	ブレオ ソルコーテフ、生理食塩水	10mg/m2 200mg、100ml	点滴	60分	day 8
⑥	オンコビン 生理食塩水	* 1.4mg/m2 50ml	点滴	全開で	day 8
⑦	塩酸プロカルバジン	150mg 分3	内服		day1～7
⑧	プレドニゾン	40mg 分1	内服		day1～14
1コースの期間 21日（3週間）			投与スケジュール及び総コース数 8コース		
その他（特記事項など） ・エトポシドは非DEHPルートを使用。 ・* オンコビンはMAX 2mgです。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Isa+D療法 (1サイクル)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	点滴開始時	day1, 8, 15, 22
②	デキサート ガスター 生理食塩水	40mg 20mg 50mL	点滴	全開	day1, 8, 15, 22
③	生理食塩水	50mL	点滴	60分	day1, 8, 15, 22
④	サークリサ 5%ブドウ糖液	20mg/kg 250mL	点滴	下記参照	day1, 8, 15, 22
⑤	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 8, 15, 22
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週(28日間)			1サイクル		

その他(特記事項など)

- ・75歳以上の高齢者の場合にはデキサートを20mgに減量する。
- ・サークリサは希釈後総量を250mLに調整し、インラインフィルターを用いて投与する。
- ・投与速度はサークリサ®投与マニュアルを参照する。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Isa+D療法 (2サイクル以降)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	点滴開始時	day1, 15
②	デキサート ガスター 生理食塩水	40mg 20mg 50mL	点滴	全開	day1, 15
③	生理食塩水	50mL	点滴	60分	day1, 15
④	サークリサ 5%ブドウ糖液	20mg/kg 250mL	点滴	下記参照	day1, 15
⑤	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 15
⑤	レナデックス錠4mg	10錠	経口	朝食後	day8, 22

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週(28日間)	2サイクル以降

その他(特記事項など)

- ・75歳以上の高齢者の場合にはデキサート・レナデックスを20mgに減量する。
- ・サークリサは希釈後総量を250mLに調整し、インラインフィルターを用いて投与する。
- ・投与速度はサークリサ®投与マニュアルを参照する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
IsaPd療法 (1サイクル目)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠 カロナール錠	10mg 5錠 500mg 2錠	内服	点滴開始時	day1, 8, 15, 22
②	デキサート ガスター 生理食塩水	40mg 20mg 50mL	点滴	全開	day1, 8, 15, 22
③	生理食塩水	50mL	点滴	60分	day1, 8, 15, 22
④	サークリサ 5%ブドウ糖液	10mg/kg 250mL	点滴	下記参照	day1, 8, 15, 22
⑤	ポマリストカプセル	4mg 1カプセル	内服		day1～21
1 コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 1サイクル目		

その他（特記事項など）

75歳以上ではデキサートを20mgに減量する。
サークリサは希釈後総量を250mLに調整し、インラインフィルターを用いて投与する。
投与速度はサークリサ®投与マニュアルを参照。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
IsaPd療法 (2サイクル目以降)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠 カロナール錠	10mg 5錠 500mg 2錠	内服	点滴開始時	day1, 15
②	デキサート ガスター 生理食塩水	40mg 20mg 50mL	点滴	全開	day1, 15
③	生理食塩水	50mL	点滴	60分	day1, 15
④	サークリサ 5%ブドウ糖液	10mg/kg 250mL	点滴	下記参照	day1, 15
⑤	デカドロン錠	4mg 10錠	内服		day8, 22
⑥	ポマリストカプセル	4mg 1カプセル	内服		day1～21
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			2サイクル目以降		

その他（特記事項など）

75歳以上ではデキサートを20mg，デカドロン錠を4mg 5錠に減量する。
サークリサは希釈後総量を250mLに調整し、インラインフィルターを用いて投与する。
投与速度はサークリサ®投与マニュアルを参照。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
IsaKd療法 (1サイクル)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	点滴開始時	day1, 8, 15, 22
②	デキサート ガスター 生理食塩水	20mg 20mg 50mL	点滴	全開	day1, 8, 15, 22
②	デキサート 生理食塩水	20mg 50mL	点滴	全開	day9, 16
②	レナデックス錠4mg	5錠	経口	朝食後	day23
③	生理食塩水	50mL	点滴	60分	day1, 8, 15, 22
③	生理食塩水	50mL	点滴	30分	day2, 9, 16
④	サークリサ 5%ブドウ糖液	10mg/kg 250mL	点滴	下記参照	day1, 8, 15, 22
⑤	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 8, 15, 22
⑥	カイプロリス点滴静注用 注射用水 5%ブドウ糖液	20mg/m ² 20mL 100mL	点滴	全開	day1, 2
⑥	カイプロリス点滴静注用 注射用水 5%ブドウ糖液	56mg/m ² 100mL 250mL	点滴	全開	day8, 9, 15, 16
⑦	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 2, 8, 9, 15, 16, 22

1コースの期間

4週(28日間)	1サイクル
その他(特記事項など) ・サークリサは希釈後総量を250mLに調整し、インラインフィルターを用いて投与する。 ・投与速度はサークリサ®投与マニュアルを参照する。	

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
IsaKd療法 (2サイクル以降)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	点滴開始時	day1, 15
②	デキサート ガスター 生理食塩水	40mg 20mg 50mL	点滴	全開	day1, 15
②	デキサート 生理食塩水	20mg 50mL	点滴	全開	day2, 8, 9, 16
②	レナデックス錠4mg	5錠	経口	朝食後	day22, 23
③	生理食塩水	50mL	点滴	60分	day1,15
③	生理食塩水	50mL	点滴	30分	day2, 8, 9, 16
④	サークリサ 5%ブドウ糖液	10mg/kg 250mL	点滴	下記参照	day1, 15
⑤	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 15
⑥	カイプロリス点滴静注用 注射用水 5%ブドウ糖液	56mg/m ² 100mL 250mL	点滴	全開	day1,2, 8, 9, 15, 16
⑦	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	day1,2, 8, 9, 15, 16

1コースの期間

4週(28日間)	2サイクル以降
----------	---------

その他(特記事項など)

- ・サークリサは希釈後総量を250mLに調整し、インラインフィルターを用いて投与する。
- ・投与速度はサークリサ®投与マニュアルを参照する。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Isatuximab単剤療法 (1サイクル)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	点滴開始時	day1, 8, 15, 22
②	ソルメドロール ガスター 生理食塩水	125mg 20mg 50mL	点滴	全開	day1, 8, 15, 22
③	生理食塩水	50mL	点滴	60分	day1, 8, 15, 22
④	サークリサ 5%ブドウ糖液	20mg/kg 250mL	点滴	下記参照	day1, 8, 15, 22
⑤	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 8, 15, 22
1コースの期間 4週(28日間)			投与スケジュール及び総コース数 1サイクル		

その他(特記事項など)

- ・75歳以上の患者にはデキサートを20mlに減量する。
- ・サークリサは希釈後総量を250mLに調整し、インラインフィルターを用いて投与する。
- ・投与速度はサークリサ®投与マニュアルを参照する。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Isatuximab単剤療法 (2サイクル以降)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	点滴開始時	day1, 15
②	ソルメドロール ガスター 生理食塩水	125mg 20mg 50mL	点滴	全開	day1, 15
③	生理食塩水	50mL	点滴	60分	day1, 15
④	サークリサ 5%ブドウ糖液	20mg/kg 250mL	点滴	下記参照	day1, 15
⑤	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 15
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週(28日間)			2サイクル以降		

その他(特記事項など)

- ・サークリサは希釈後総量を250mLに調整し、インラインフィルターを用いて投与する。
- ・投与速度はサークリサ®投与マニュアルを参照する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
IVAC療法	再発または難治性の 非ホジキンリンパ腫 およびバーキットリン パ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバック3mg ソル・コーテフ100mg	1袋 1瓶	点滴	30分	day 1-5 (ソル・コーテフはday1,2のみ)
②	エトポシド 生食250ml	60 mg/m ² 1袋	点滴	60分	day 1-5,
③	イホマイド 生食250ml	1500 mg/m ² 1袋	点滴	60分	day 1-5,
④	ウロミテキサン 生食100ml	500mg/m ² × 3回 1瓶	点滴	30分	day 1-5,
⑤	キロサイド 生食500ml	2000mg/m ² 1袋	点滴	3時間	day 1とday 2,
⑥	グラニセトロンバック3mg ソル・コーテフ100mg	1袋 1瓶	点滴	30分	day 1-5 (ソル・コーテフはday1,2のみ)
⑦	キロサイド 生食500ml	2000mg/m ² 1袋	点滴	3時間	day 1とday 2,
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			4週間の間をあけて最大3コース		

その他(特記事項など)

- ・Day 7よりG-CSF 5 μ g/kg使用開始。
- ・髄注: day5で、MTX 15mg+プレドニン10mg。
- ・中枢神経浸潤を認める場合にはday 7, 9にキロサイド40mg+プレドニン20mgの髄注を追加(1コース目のみ)する。
- ・ウロミテキサンは、イホマイド投与と同時に、その4時間後、8時間後に投与。
- ・生食でルートキープし、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。A型ポンプは使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
JALSG ALL202-Over25(Ph-) 地固め療法C1	急性リンパ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	アロキシ点滴バッグ	0.75mg/50mL	点滴	30分	day1
	デキサート注射液 生食50ml	39.6mg/body	点滴	1時間	day1-3
	キロサイド 生食500mL(①番目)	2 g/m ² (60歳以上で1 g/m ²)	点滴	3時間	day 1, 2, 3
	キロサイド 生食500mL(②番目)	2 g/m ² (60歳以上で1 g/m ²)	点滴	3時間	day 1, 2, 3
	エトポシド 生食500ml	100mg/m ²	点滴	1時間	day1, 2, 3
1コースの期間 3週			投与スケジュール及び総コース数 地固め1コース目、4コース目に投与する。		
その他(特記事項など) 60歳未満でもCr > 2mg/dlの時はキロサイドを1 g/m ² に減量する。キロサイド投与前後に結膜炎予防のステロイド点眼を行なう。脳症出現時はシタラビン投与を中止する。 空腹時血糖が250 mg/dl以上の場合はデキサート減量を検討する。 day1にMTX 15mg/body + Dex 4mg/bodyの抗癌剤髄腔内投与を行う。 Day5以降はG-CSFの投与を積極的行なう。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
JALSG ALL202-Over25(Ph-) 地固め療法C2	急性リンパ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	グラニセトロン	3mg/100mL	点滴	30分	day1, 15
	オンコビン 生食50mL	1.3mg/m ² (最大2.0mg/body)	点滴	5分	day1,15
	メソトレキサート 5%ブドウ糖液500mL	3g/m ² (≥50歳 1.5g/m ²)	点滴	24時間	day1,15
	ロイケリン散10%	25mg/m ²	経口	眠前	day1-21
	ロイコボリン 生食50mL	50mg/body	点滴	30分	MTX投与終了後12時間
	ロイコボリン 生食50mL	15mg/body	点滴	30分	MTX投与終了後18時間 から、6時間毎
3週			地固め2コース目,5コース目に投与する		

その他(特記事項など)

OVCRはMTX開始の1時間前に投与する。イレウスが見られる場合は中止、GradeⅢ以上の末梢神経障害が見られる場合は減量または中止する。
 OMTXは50歳以上は1.5g/m²に減量する。また1.5≤Cre≤2.0の場合は25%減量、2.0<Creの場合は中止する。
 Oday1,15にMTX 15mg/body+Dex 4mg/bodyの抗癌剤髄腔内投与を行う。髄注はMTX開始2時間後から終了するまでの間に施行する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
JALSG ALL202-Over25(Ph-) 地固め療法C3	急性リンパ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	アロキシ点滴バッグ	0.75mg/50mL	点滴	30分	day1,8,15,29
	オンコビン 生食50mL	1.3mg/㎡ (最大2.0mg/body)	点滴	5分	day1,8,15
	ドキソルビシン 生食100mL	30mg/㎡	点滴	1時間	day1,8,15
	デカドロン	10mg/㎡	経口		day1-8,15-22
	エンドキサン 生食500mL	1g/㎡	点滴	3時間	day29
	ロイケリン散10%	60mg/㎡	経口	眠前	day29-42
	キロサイド 生食500mL	75mg/㎡	点滴	1時間	day29-33,36-40
6週			地固め3コース目に投与する		
OVCRはイレウスが見られる場合は中止、GradeⅢ以上の末梢神経障害が見られる場合は減量または中止する。前回VCR投与にて麻痺性イレウスを発症した場合は、VDS(3.0mg/㎡, max 4.0mg/body)に変更する。VDSでも麻痺性イレウスが起こった場合は投与を行わない。 ODEXは空腹時血糖が250mg/dL以上の場合はデカドロン減量を検討する。 Oロイケリンは尿酸生成阻害薬使用時は減量する。 Oday1,29にMTX 15mg/body+Ara-C 40mg/body+Dex 4mg/bodyの抗癌剤髄腔内投与を行う。 Oday36以降の化学療法は好中球数0になった時点で中止し、すみやかにG-CSFを開始する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
JALSG ALL202-Over25(Ph-) 維持療法	急性リンパ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	オンコビン 生食50mL	1.3mg/㎡ (最大2.0mg/body)	点滴	5分	day1
	プレドニン	60mg/㎡	経口		day1-5
	メソトレキセート	20mg/㎡	経口	朝食後or 就寝前	day1,8,15,22
	ロイケリン散10%	60mg/㎡	経口	眠前	day1-28
4週			地固め療法5コース終了後に行う。 寛解導入療法開始日より満2年の日まで行う。		
OVCRはイレウスが見られる場合は中止、GradeⅢ以上の末梢神経障害が見られる場合は減量または中止する。 OMTX、6MPは白血球数2500-3500/μLのレベルを保つよう調節する。白血球数1500μ/L以下、好中球数750/μL、血小板数5万/μL以下、ALT正常値上限の3倍以上のいずれかが出現した場合はMTX、6MPの投与を中止する。血球が回復すれば前回投与の50%量から再開し、可能であれば規定量まで増量する。 ○ロイケリンは尿酸生成阻害薬使用時は減量する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
JALSG ALL202-Over25(Ph-) 寛解導入療法	急性リンパ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバグ	3mg/100ml	点滴	30分	day 1
②	オンコビン 生食50mL	1.3mg/m ² (max 2mg)	点滴	5分	day 1,8,15,22
③	ダウノマイシン 生食100mL	60mg/m ² (≥60歳30mg/m ²)	点滴	1時間	day 1,2,3
④	エンドキサン 生食500mL	1200mg/m ² (≥60歳800mg/m ²)	点滴	3時間	day 1
⑥	ロイナーゼ 注射用水 5%ブドウ糖	3000 U/m ² 1A 250mL	点滴	2時間	day 9,11,13,16,18,20
⑤	プレドニン	60mg/m ²	経口		day 1-21 (≥60歳や糖尿病患者は day1-7)
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 左記以降は 血球回復後速やかに地固め療法(C1)へ。 非寛解の場合も地固め療法(C1)へ。		

その他(特記事項など)

○エンドキサン投与前後は大量輸液と尿のアルカリ化(尿pH≥7.0)を行なう。
 ○オンコビンはイレウスの際は中止、GradeⅢ以上の末梢神経障害の場合は減量または中止する。麻痺性イレウスを来した場合は次回使用時からフィルデシン(3mg/m², max 4mg)に変更する。
 ○プレドニンはいずれの場合も1週間以内にテーパリングを行なう。
 ○ロイナーゼは投与前に必ず皮内反応(0.1ml)を行い、陽性例には投与しない。投与時にはアナフィラキシーショックの発生に十分注意する。点滴静注時にアレルギー症状が起こった場合は投与ルートを経路に変更する。凝固因子(特にフィブリノゲン・ATⅢ)、肝機能、膵酵素、血糖の検査を頻回に行い、異常をみる場合は適切な処置を行う。ロイナーゼ投与により①ショック症状②急性膵炎③肝障害(血清総ビリルビン値>2.0mg/dL)が生じた場合、その後のロイナーゼの投与を中止する。
 ○OG-CSFをday4以降は積極的に使用する(抗癌剤投与前後24hは避ける)。

がん化学療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Kd療法(1サイクル目)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カルフィルゾミブ 注射用水 5%ブドウ糖液	20mg/m2 20mL 100mL	点滴	30分	day1、2
②	生理食塩液	50 mL	点滴	フラッシュ	day1、2
③	カルフィルゾミブ 注射用水 5%ブドウ糖液	56mg/m2 100mL 250mL	点滴	30分	day8、9、15、16
④	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day8、9、15、16
⑤	デカドロン錠	20mg	経口		day1、2、8、9、15、16、 22、23
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 1サイクル		
その他(特記事項など) ・腫瘍崩壊の可能性があるときは、day1、2にハイドレーションを行う。 ・支持療法として、抗ヘルペスウイルス薬の投与を検討する。					

がん化学療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Kd療法(2サイクル目以降)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カルフィルゾミブ 注射用水 5%ブドウ糖液	56mg/m2 100mL 250mL	点滴	30分	day1、2、8、9、15、16
②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1、2、8、9、15、16
③	デカドロン錠	20mg	経口		day1、2、8、9、15、16、 22、23
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 2サイクル～PD		
その他(特記事項など) ・支持療法として、抗ヘルペスウイルス薬の投与を検討する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Kd療法(once weekly 1サイクル目)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カルフィルゾミブ	20mg/m2	点滴	30分	day1
	注射用水	20mL			
	5%ブドウ糖液	100mL			
②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
③	カルフィルゾミブ	70mg/m2	点滴	30分	day8、15
	注射用水	100mL			
	5%ブドウ糖液	250mL			
④	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day8、15
⑤	デカドロン錠	40mg	経口		day1、8、15、22
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			1サイクル		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Kd療法(once weekly 2-9サイクル目)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カルフィルゾミブ 注射用水 5%ブドウ糖液	70mg/m2 100mL 250mL	点滴	30分	day1、8、15
②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1、8、15
③	デカドロン錠	40mg	経口		day1、8、15、22
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 2-9サイクル		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Kd療法(once weekly 10サイクル目以降)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カルフィルゾミブ	70mg/m2	点滴	30分	day1、8、15
	注射用水	100mL			
	5%ブドウ糖液	250mL			
②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1、8、15
③	デカドロン錠	40mg	経口		day1、8、15
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			2-9サイクル		
その他(特記事項など)					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称			対象がん種		適応分類	
KdD療法(1・2サイクル)			再発又は難治性 多発性骨髄腫		■ 進行・再発癌 □ 術前補助化学療法 □ 術前化学療法(進行) □ 術後補助化学療法 □ その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日	
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg モンテルカスト錠10mg	2錠 5錠 1錠	経口	点滴開始 60分前	day1,8,15,22	
②	デキサート注射液 生理食塩液	19.8mg 50mL	点滴	点滴開始 60分前	day1,2,8,9,15,16,22	
③	ダラザレックス 生理食塩液	8mg/kg 500mL	点滴 (側管)	240～420分	day1,2	
③	ダラザレックス 生理食塩液	16mg/kg 500mL	点滴 (側管)	240～420分	day8,15,22	
④	カイプロリス点滴静注用 注射用水 5%ブドウ糖液	20mg/m2 20mL 100mL	点滴 (側管)	30分	day1,2	
⑤	生理食塩液	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	day1,2	
④	カイプロリス注 注射用水 5%ブドウ糖液	56mg/m2 100mL 250mL	点滴 (側管)	30分	day8,9,15,16	
⑤	生理食塩液	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	day8,9,15,15	
1コースの期間 4週(28日間)			投与スケジュール及び総コース数 1・2サイクル			
その他(特記事項など) ・生理食塩液でルート確保し、デキサート・ダラザレックス・カイプロリスは全て側管から投与する。 50mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に150mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/h(投与速度 上限)に増量し点滴可能とする。 ・初回及び2回目投与時に最終速度が100mL/h以上でinfusion reactionが認めなければ、3回目以降は100mL/hで開始で きる。 ・ST合剤、アシクロビルの予防内服について検討する。 ・1サイクル目のday3にメチルプレドニゾロン20mgの経口投与を追加してもよい。 ・カルフィルゾミブは、毒性に応じて、45mg/m2, 36mg/m2, 27mg/m2, 20mg/m2に調節する。 ・カルフィルゾミブは、ベースライン時に慢性肝機能障害(軽度, 中等度)を有する患者には初回及び以降の用量を25%に減 量する。 ・デキサートの用量は、75歳を超える患者の場合、適正使用ガイドを参考に減量する。						

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
KdD療法(3-6サイクル)	再発又は難治性 多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg モンテルカスト錠10mg	2錠 5錠 1錠	経口	点滴開始 60分前	day1,15
②	デキサート注射液 生理食塩液	19.8mg 50mL	点滴	点滴開始 60分前	day1,2,8,9,15,16,22
③	ダラザレックス 生理食塩液	16mg/kg 500mL	点滴 (側管)	約180分	day1,15
④	カイクロリス注 注射用水 5%ブドウ糖液	56mg/m ² 100mL 250mL	点滴 (側管)	30分	day1,2,8,9,15,16
⑤	生理食塩液	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	day1,2,8,9,15,16
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週(28日間)			3-6サイクル		

その他(特記事項など)

- ・生理食塩液でルート確保し、デキサート・ダラザレックス・カイクロリスは全て側管から投与する。
- ・ダラザレックスは、希釈後の総量は500mLに調整する。100mL/hから開始し、1時間後に150mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。
- ・ST合剤、アシクロビルの予防内服について検討する。
- ・カルフィルゾミブは、毒性に応じて、45mg/m²、36mg/m²、27mg/m²、20mg/m²に調節する。
- ・カルフィルゾミブは、ベースライン時に慢性肝機能障害(軽度、中等度)を有する患者には初回及び以降の用量を25%に減量する。
- ・デキサートの用量は、75歳を超える患者の場合、適正使用ガイドを参考に減量する。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
KdD療法(7サイクル以降)	再発又は難治性 多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg モンテルカスト錠10mg	2錠 5錠 1錠	経口	点滴開始 60分前	day1
②	デキサート注射液 生理食塩液	19.8mg 50mL	点滴	点滴開始 60分前	day1,2,8,9,15,16,22
③	ダラザレックス 生理食塩液	16mg/kg 500mL	点滴 (側管)	約180分	day1
④	カイプロリス注 注射用水 5%ブドウ糖液	56mg/m ² 100mL 250mL	点滴 (側管)	30分	day1,2,8,9,15,16
⑤	生理食塩液	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	day1,2,8,9,15,16
1コースの期間 4週(28日間)			投与スケジュール及び総コース数 7サイクル以降(PDまで)		

その他(特記事項など)

- ・生理食塩液でルート確保し、デキサート・ダラザレックス・カイプロリスは全て側管から投与する。
- ・ダラザレックスは、希釈後の総量は500mLに調整する。100mL/hから開始し、1時間後に150mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。
- ・ST合剤、アシクロビルの予防内服について検討する。
- ・カルフィルゾミブは、毒性に応じて、45mg/m²、36mg/m²、27mg/m²、20mg/m²に調節する。
- ・カルフィルゾミブは、ベースライン時に慢性肝機能障害(軽度、中等度)を有する患者には初回及び以降の用量を25%に減量する。
- ・デキサートの用量は、75歳を超える患者の場合、適正使用ガイドを参考に減量する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
KRd療法(1サイクル目)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カルフィルゾミブ 注射用水 5% ブドウ糖液	20mg/m2 20mL 100mL	点滴	10分	day1, 2
②	カルフィルゾミブ 注射用水 5% ブドウ糖液	27mg/m2 20mL 100mL	点滴	10分	day8, 9, 15, 16
③	レナリドミド	25mg/body	経口		day1～21
④	デカドロン錠	40mg	経口		day1, 8, 15, 22
⑤	デカドロン錠	4mg	経口		day2, 9, 16
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			1サイクル目		
その他(特記事項など)					
・腫瘍崩壊の可能性があるときは、day1, 2にハイドレーションを行う。 ・支持療法として、抗ヘルペスウイルス薬の投与、レナリドミドによる血栓症予防としての抗血小板薬投与を検討する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
KRd療法(2-12サイクル目)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カルフィルゾミブ 注射用水 5% ブドウ糖液	27mg/m2 20mL 100mL	点滴	10分	day1, 2, 8, 9, 15, 16
②	レナリドミド	25mg/body	経口		day1～21
③	デカドロン錠	40mg	経口		day1, 8, 15, 22
④	デカドロン錠	4mg	経口		day2, 9, 16
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			2～12サイクル目		
その他(特記事項など)					
・支持療法として、抗ヘルペスウイルス薬の投与、レナリドミドによる血栓症予防としての抗血小板薬投与を検討する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
KRd療法(13サイクル目以降)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カルフィルゾミブ 注射用水 5% ブドウ糖液	27mg/m2 20mL 100mL	点滴	10分	day1, 2, 15, 16
②	レナリドミド	25mg/body	経口		day1～21
③	デカドロン錠	40mg	経口		day1, 8, 15, 22
④	デカドロン錠	4mg	経口		day2, 16
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			13サイクル目以降		
その他(特記事項など)					
・支持療法として、抗ヘルペスウイルス薬の投与、レナリドミドによる血栓症予防としての抗血小板薬投与を検討する。					

がん薬物療法レジメン

プロトコール名	対象がん種	適応分類
MCEC療法：自家PBSCT用	悪性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ホスアプレピタント 生理食塩水	150mg/body 100mL	点滴 (側管)	30分	day1
②	グラニセトロン	3mg/body	点滴 (側管)	15分	day 1 2 3 4
③	ラニムスチン 生理食塩水	200mg 100mL	点滴 (側管)	15分	day1 6
④	シクロホスファミド 生理食塩水	50mg/kg 500mL	点滴 (側管)	120分	day 6 7
⑤	メスナ 生理食塩水	24mg/kg 100mL	点滴 (側管)	30分	day6,7 (シクロホス ファミド投与時、4h 後、8h後)
⑤	エトポシド 5%ブドウ糖液	500mg/m2 2000mL	点滴 (側管)	6時間	day 3 4 5
⑤	カルボプラチン 生理食塩水	300mg/m2 100mL	点滴 (側管)	30分	day2 3 4 5
1コースの期間 4日間			投与スケジュール及び総コース数 4日間		
その他(特記事項など) 十分量の補液を行うこと ホスアプレピタントを含有しており、内服のアプレピタントは処方不要である メルファランを含有しない、自家移植レジメンである G-CSFの投与は必須である					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
MEC療法	難治性再発性急性骨髄性白血病の再寛解導入療法など	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
側①	アロキシバッグ0.75mg ソル・コーテフ	1袋 100mg	点滴	30分	day 1
側①	ソル・コーテフ 生理食塩液	100mg 50mL	点滴	30分	day2-5
側①	グラニセトロンバッグ3mg ソル・コーテフ	1袋 100mg	点滴	30分	day6
側②	ノバントロン 生理食塩液	3 mg/m2 100ml	点滴	30分	day 1からday6
側②	エトポシド 生理食塩液	30 mg/m2 250ml	点滴	60分	day 1からday6
側③	キロサイド 生理食塩液	1g/m2 500ml	点滴	6時間	day 1からday6
1コースの期間 21日間(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 前治療の影響がなくなり十分に骨髄機能が回復した後に施行する。好中球1,500/ μ l、白血球数 3,000/ μ l以上かつ血小板数 10万/ μ l以上が望ましい。		

その他(特記事項など)

中心静脈を確保して施行する。感染巣のないことを確認したうえで開始すること。
 中枢神経系障害や遷延性の骨髄抑制を防ぐために点滴時間3時間を厳守すること。
 抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。角膜・結膜障害の対策として副腎皮質ホルモン剤(フルメトロ
 ンなど)を1日数回以上点眼すること。体液貯留傾向があるため毎日体重測定を行い、体液管理を厳重に
 行うこと。抗白血病剤の髄注は行わない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
MEC療法(原法)	難治性 急性骨髄性白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
側①	アロキシバッグ0.75mg ソル・コーテフ	1袋 100mg	点滴	30分	day1
側①	ソル・コーテフ 生理食塩液	100mg 50mL	点滴	30分	day2-5
側①	グラニセトロンバッグ3mg ソル・コーテフ	1袋 100mg	点滴	30分	day6
側②	エトポシド 生理食塩液	80mg/m ² 250mL	点滴	60分	day1からday6
側③	キロサイド 生理食塩液	1g/m ² 500mL	点滴	6時間	day1からday6
側④	ノバントロン 生理食塩液	6mg/m ² 100mL	点滴	30分	day1からday6
1コースの期間 約4週間			投与スケジュール及び総コース数 2コース目は十分に骨髄機能が回復した後に開始する。 好中球1,500/ μ L以上かつ血小板10万/ μ L以上が望ましい。		

その他(特記事項など)

中心静脈路を確保して施行する。感染のないことを確認した上で開始すること。
 キロサイドは中枢神経系障害や遷延性の骨髄抑制を防ぐために点滴時間6時間を厳守すること。
 抗癌剤等の薬剤は全て側管から投与する。角膜・結膜障害の対策として副腎皮質ホルモン剤(フルメトロンなど)を1日数回以上点眼すること。体液貯留傾向があるため毎日体重測定を行い、体液管理を厳重に行うこと。
 抗白血病剤の髄注は行わない。

年齢、PSおよびこれまでの抗癌剤の投与歴を考慮し、以下を参考に抗癌剤を適宜減量すること。
 ノバントロン: 6日間→3日間あるいは6mg/m²→3mg/m²。
 エトポシド: 80→30mg/m²。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Medium-dose VP-16+CY(+TBI)	同種造血 幹細胞移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	グラニセロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day-7～-4 (day-5～-2)
②	エトポシド(原液)	15 mg/kg	点滴	3時間	day-7、-6 (day-5、-4)
③	エンドキサン メイロン7% 20mL 生理食塩液	60 mg/kg 2A 500mL	点滴	3時間	day-5、-4 (day-3、-2)
④	ウロミテキサン 生理食塩液	20mg/kg 50mL	点滴	30分	day-5、-4 (day-3、-2)
⑤	ウロミテキサン 生理食塩液	20mg/kg 50mL	点滴	30分	day-5、-4 (day-3、-2)
⑥	ウロミテキサン 生理食塩液	20mg/kg 50mL	点滴	30分	day-5、-4 (day-3、-2)
1コースの期間 4日間			投与スケジュール及び総コース数 エンドキサンはday-5、-4の10時に投与。 ウロミテキサンはday-5、-4の10時、14時、18時の 3回投与(22時に4回目追加投与可)		
その他(特記事項など) ・エトポシド投与時はシリンジポンプを使用し、生理食塩液1000mL以上を側管より同時に点滴する。 ・TBIは原則としてday-3、-1に計12Gy施行するが、day-8、-8への変更も可能であり、その場合はエトポシドをday-5、-4に、エンドキサンをday-3、-2に投与する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
MEL100	多発性骨髄腫 (auto PBSCT)	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ 3mg	1袋	点滴	30分	day-2
②	アルケラン 生理食塩液100mL	100mg/m2 1瓶	点滴	30分	day-2
③					
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間 約2ヶ月			投与スケジュール及び総コース数 自家末梢血造血幹細胞が充分採取されていれば2～3コースの施行を考慮する。		

その他(特記事項など)

自家末梢血造血幹細胞移植術の前処置として行う化学療法である。
化学療法前に中心静脈カテーテルを挿入し、輸液負荷をかけながらその側管から投与を行う。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
MEL200(一括)	多発性骨髄腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day -2
②	アルケラン(※) 生理食塩液	200mg/m2 100ml	点滴	30分	day -2
③					
④					
1コースの期間 約2ヶ月			投与スケジュール及び総コース数 自家末梢血造血幹細胞が充分採取されていれば2～3コースの施行を考慮する。		

その他(特記事項など)

自家末梢血造血幹細胞移植術の前処置として行う化学療法である。(MEL100と異なり、一回の移植) Day2より、G-CSF(5μg/kg/day など)を開始。
 化学療法前に中心静脈カテーテルを挿入し、輸液負荷をかけながらその側管から投与を行う。
 PCP肺炎予防目的のバクタなどを、予防投与～半年間。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
MEL200(分割)	多発性骨髄腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day -3, -2
②	アルケラン 生理食塩液	100mg/m2 100ml	点滴	30分	day -3, -2
③					
④					
1コースの期間 約2ヶ月			投与スケジュール及び総コース数 自家末梢血造血幹細胞が充分採取されていれば2～3コースの施行を考慮する。		
その他(特記事項など) 自家末梢血造血幹細胞移植術の前処置として行う化学療法である。(MEL100と異なり、一回の移植) Day2より、G-CSF(5μg/kg/day など)を開始。 化学療法前に中心静脈カテーテルを挿入し、輸液負荷をかけながらその側管から投与を行う。 PCP肺炎予防目的のバクタなどを、予防投与～半年間。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
MEP療法	再発・難治性 悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液破棄	day1
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1
③	ノバントロン 生理食塩水	10mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	30分	day1
④	エトポシド 生理食塩水	100mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	120分	day1
⑤	プレドニゾン錠	25mg/㎡	経口		day1～10
⑥	ベプシド	200mg/㎡	経口		day2～3
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 1投2休(⑤はday1から10日間連続で内服) の3週間を1コースとして繰り返す。 最大8コース施行		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Mini-MEAM療法	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg (day 2,3,4,5は2回/日)	1袋	点滴	30分	day 1,2,3,4,5,6
②	サイメリン 生理食塩水	60mg/m2 100ml	点滴	60分	day 1
③	エトポシド 5%ブドウ糖液	75mg/m2 250ml	点滴	60分	day 2,3,4,5
④	キロサイド (1日2回 12時間毎) 5%ブドウ糖液	100mg/m2 (1回) × 2回 250ml	点滴	60分	day 2,3,4,5
⑤	アルケラン 生理食塩水	30mg/m2 100ml	点滴	30分	day 6
⑥					
1コースの期間 28日(4週間)			投与スケジュール及び総コース数 2～3コース以上で寛解に到達するまで		
その他(特記事項など) ・エトポシドは非DEHPルートを使用。 ・アルケランは調製後90分以内に点滴を終了すること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
MIT+ HD- AraC療法(4日間: 4g/m ² /day)	難治性再発性急性骨髄性白血病の再寛解導入療法など	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
側①	アロキシバック0.75mg ソル・コーテフ	1袋 100mg	点滴	30分	day 1
側②	ノバントロン 生理食塩液	10 mg/m2 100ml	点滴	30分	day 3からday 5までの 3日間
側③	ソル・コーテフ 生理食塩液	100mg 50mL	点滴	30分	day 2-4
側②	キロサイド 生理食塩液	2g/m2 500ml	点滴	3時間	day 1-4
側③	ソル・コーテフ 生理食塩液	100mg 50mL	点滴	30分	day 1-4
側③	キロサイド 生理食塩液	2g/m2 500ml	点滴	3時間	day 1-4
1コースの期間 5日間			投与スケジュール及び総コース数 前治療の影響がなくなり十分に骨髄機能が回復した後に施行する. 好中球1,500/ μ l, 白血球数3,000/ μ l 以上かつ血小板数 10万/ μ l以上が望ましい.		
その他(特記事項など) 中心静脈を確保して施行する. 感染巣のないことを確認したうえで開始すること. 中枢神経系障害や遷延性の骨髄抑制を防ぐために点滴時間3時間を厳守すること. 抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する. 角膜・結膜障害の対策として副腎皮質ホルモン剤(フルメロンなど)を1日数回以上点眼すること. 体液貯留傾向があるため毎日体重測定を行い, 体液管理を厳重に行うこと. 抗白血病剤の髄注は行わない.					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
MIT-Ara-C	急性骨髄性白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1～5
②	5%ブドウ糖液 キロサイド	500ml 200mg/m ²	点滴	24時間	day1～5
③	生理食塩液 ノバントロン	100ml 7mg/m ²	点滴	30分	day1～3
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間（3週間）			寛解導入としては寛解まで 地固め療法としては1コース		

その他（特記事項など）

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
MIT単独療法	急性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
側①	ノバントロン 生理食塩水100ml	12 mg/m ²	点滴	30分	day 1からday 5までの 5日間
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
5日間			1コース		

その他(特記事項など)

末梢静脈路より投与する場合はA型ポンプは使用しない。
 腫瘍量コントロール目的で本レジメンを適応する際は、適宜投与量・投与日数を減ずる。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
mLSG-15+mogamulizumab ①(VCAP) 1コース目	成人T細胞白血病 リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1
②	オンコビン 生理食塩液	1.0mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
③	ドキソルビシン 生理食塩液	40mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day1
④	エンドキサン 生理食塩液	350mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	60分	day1
⑤	プレドニン	40mg/m ²	内服		day1
⑥	レスタミンコーワ錠	5錠	内服	点滴開始時	day2
⑦	ソルコーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑧	ポテリジオ 生理食塩液	1mg/kg 250mL	点滴 (側管)	120分	day2
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
VCAP-AMP-VECPの28日を1コース			28日ごとに4クール行う。		

その他(特記事項など)

- ・標準的なコース数は4コースとする。
- ・2コース、4コース前に髄注を行う。
- ・ポテリジオ投与時はInfusion reactionに注意が必要である。初回投与時は心電図モニターを装着する。
- ・1回目のポテリジオ投与は原則day2であるが、day2-day5を可とする。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
mLSG-15+mogamulizumab ① (VCAP) 2コース目以降	成人T細胞白血病 リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	内服	点滴開始時	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩水	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1
③	ポテリジオ 生理食塩水	1mg/kg 250mL	点滴 (側管)	120分	day1
④	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2
⑤	オンコビン 生理食塩水	1.0mg/㎡ (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
⑥	ドキソルビシン 生理食塩水	40mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑦	エンドキサン 生理食塩水	350mg/㎡ 250mL	点滴 (側管)	60分	day2
⑦	プレドニン	40mg/㎡	内服		day2
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
VCAP-AMP-VECPの28日を1コース			28日ごとに4クール行う。		
その他(特記事項など)					
・標準的なコース数は4コースとする。					
・2コース、4コース前に髄注を行う。					
・ポテリジオ投与時はInfusion reactionに注意が必要である。					
・2回目以降のポテリジオ投与は原則抗癌剤投与の前日であるが、3日前までを可とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
mLSG-15+mogamulizumab②(AMP) 1コース目	成人T細胞白血病 リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day8
②	ドキシソルビシン 生理食塩水	30mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	30分	day8
③	サイメリン 生理食塩水	60mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	60分	day8
④	プレドニン	40mg/㎡	内服		day8
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
VCAP-AMP-VECPの28日を1コース			28日ごとに4クール行う。		
その他(特記事項など)					
・標準的なコース数は4コースとする。					
・サイメリンは遮光する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
mLSG-15+mogamulizumab②(AMP) 2コース目以降	成人T細胞白血病 リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day9
②	ドキシソルビシン 生理食塩水	30mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	30分	day9
③	サイメリン 生理食塩水	60mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	60分	day9
④	プレドニン	40mg/㎡	内服		day9
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
VCAP-AMP-VECPの28日を1コース			28日ごとに4クール行う。		
その他(特記事項など)					
・標準的なコース数は4コースとする。					
・サイメリンは遮光する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
mLSG-15+mogamulizumab③(VECP) 1コース目	成人T細胞白血病 リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	内服	点滴開始時	day14
②	ソルコーテフ 生理食塩水	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day14
③	ポテリジオ 生理食塩水	1mg/kg 250mL	点滴 (側管)	120分	day14
④	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day15-17
⑤	フィルデシン 生理食塩水	2.4mg/m ² 50mL	点滴 (側管)	15分	day15
⑥	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/m ² 300mL	点滴 (側管)	60分	day15-17
⑦	カルボプラチン 5%ブドウ糖液	250mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	60分	day15
⑧	プレドニン	40mg/m ²	内服		day15-17
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
VCAP-AMP-VECPの28日を1コース			28日ごとに4クール行う。		
その他(特記事項など)					
・標準的なコース数は4コースとする。					
・ポテリジオ投与時はInfusion reactionに注意が必要である。					
・ポテリジオ投与は原則抗癌剤投与の前日であるが、3日前までを可とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
mLSG-15+mogamulizumab③(VECP) 2コース目以降	成人T細胞白血病 リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	内服	点滴開始時	day15
②	ソルコーテフ 生理食塩水	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day15
③	ポテリジオ 生理食塩水	1mg/kg 250mL	点滴 (側管)	120分	day15
④	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day16-18
⑤	フィルデシン 生理食塩水	2.4mg/m ² 50mL	点滴 (側管)	15分	day16
⑥	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	60分	day16-18
⑦	カルボプラチン 5%ブドウ糖液	250mg/m ² 300mL	点滴 (側管)	60分	day16
⑧	プレドニン	40mg/m ²	内服		day16-18
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
VCAP-AMP-VECPの28日を1コース			28日ごとに4クール行う。		
その他(特記事項など)					
・標準的なコース数は4コースとする。					
・ポテリジオ投与時はInfusion reactionに注意が必要である。					
・ポテリジオ投与は原則抗癌剤投与の前日であるが、3日前までを可とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
mLSG-15療法① (VCAP)	成人T細胞白血病 リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1
②	オンコビン 生理食塩水	1.0mg/㎡ (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
③	ドキシソルビシン 生理食塩水	40mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	30分	day1
④	エンドキサン 生理食塩水	350mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	120分	day1
⑤	プレドニゾロン錠	40mg/㎡	経口		day1
1コースの期間 VCAP-AMP-VECPの28日を1コース			投与スケジュール及び総コース数 28日ごとに6クール行う。		
その他(特記事項など) ・標準的なコース数は6コースとする。 ・生理食塩水でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する(A型ポンプは使用しない)。 ・2コース、4コース、6コース前に髄注を行う。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
mLSG-15療法②(AMP)	成人T細胞白血病 リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day8
②	ドキシソルビシン 生理食塩水	30mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day8
③	サイメリン 生理食塩水	60mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	60分	day8
⑤	プレドニゾロン錠	40mg/m ²	経口		day8
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
VCAP-AMP-VECPの28日を1コース			28日ごとに6クール行う。		
その他(特記事項など)					
・標準的なコース数は6コースとする。 ・生理食塩水でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する(A型ポンプは使用しない)。 ・サイメリンは遮光する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
mLSG-15療法③(VECP)	成人T細胞白血病 リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day15-17
②	フィルデシン 生理食塩水	2.4mg/㎡ 50mL	点滴 (側管)	15分	day15
③	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/㎡ 250mL	点滴 (側管)	60分	day15-17
④	カルボプラチン 5%ブドウ糖液	250mg/㎡ 250mL	点滴 (側管)	60分	day15
⑤	プレドニゾロン錠	40mg/㎡	経口		day15-17
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
VCAP-AMP-VECPの28日を1コース			28日ごとに6クール行う。		
その他(特記事項など)					
・標準的なコース数は6コースとする。					
・生理食塩水でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する(A型ポンプは使用しない)。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
NICE療法	再発・難治性ホジキンリンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	ルートキープ	day1
②	ニボルマブ 生理食塩液100mL	240mg/body 1瓶	点滴	30分	day1
③	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1
側	パロセトロン点滴静注パック® 0.75mg	1袋	点滴	30分	day8
側	エトポシド 5%ブドウ糖液250mL	100mg/m ² 1袋	点滴	60分	day8-10
側	イホスファミド 生理食塩液500mL	5000mg/m ² 1袋	点滴	24時間	day9
側	カルボプラチン 5%ブドウ糖液250mL	AUC 5 1袋	点滴	1時間	day9
側	ウロミテキサン 生理食塩液500mL	5000mg/m ² 1袋	点滴	24時間	day9
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			2サイクル		
その他（特記事項など）					
・ 再発、難治性ホジキンリンパ腫に対して、Nivoによる治療効果がSD以下の場合に2サイクル行う					
・ ニボルマブはインラインフィルター使用					
・ カルボプラチンは最大750mgまで					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
PAD療法	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水 ベルケイド	適量(※) 1.3mg/m ²	皮下注		1、4、8、11日目
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	1～4日目
③	生理食塩水 ドキソルビシン	500ml 9mg/m ²	点滴	24時間	1～4日目
④	デカドロン錠	40mg	経口		1～4日目 9～12日目 17～20日目
⑤					
⑥					
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 上記スケジュールで4週間を1コースとし、3コース程度行う。		

その他(特記事項など)

- ・総コース数については治療効果や副作用発現をみながら適宜検討する。
- ・ベルケイドは2.5mg/mLに調製して施行する。
- ・ビリルビン値上昇の際は、アドリアシンは減量する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Ph+ALL202寛解導入療法	フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病の寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ 3mg	1袋	点滴	30分	day 1,2,3
②	オンコビン 生食50mL	1.3 mg/m ² (最大2.0mg/body)	点滴	5分 (全開)	day 1, 8, 15, 22
③	ダウノマイシン 生食100mL	60 mg/m ² (60歳以上で30mg/m ²)	点滴	1時間	day 1, 2, 3
④	エンドキサン 生食500mL	1200 mg/m ² (60歳以上で800mg/m ²)	点滴	3時間	day 1
	プレドニン	60 mg/m ²	経口		day 1-21 (60歳以上ではday1-7)
	グリベック	600 mg/body	経口		day 8-63
1コースの期間 63日間			投与スケジュール及び総コース数 左記以降は、血球回復(*)後速やかに、 地固めC1コース療法へ。		

その他(特記事項など)

生食でルートキープ(可能なら中心静脈)し、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。
 Day8までに、染色体キメラ遺伝子スクリーニング検査にてフィラデルフィア染色体陽性が確認できない場合は
 本プロトコールによる治療ではなく、Ph-ALL202寛解導入療法プロトコールとなる。
 Day29に髄腔内抗がん剤投与:メソトレキセート15mg/body+ キロサイド40mg/body+ デキサート4mg/body.
 (*)①好中球 $\geq 1,500/\text{mm}^3$ かつ②白血球 $\geq 3,000/\text{mm}^3$ かつ③血小板 $\geq 100,000/\text{mm}^3$.

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Ph+ALL202地固めC1コース療法	フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病の地固めC1コース療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	メソトレキセート 生食500mL	1 g/m ²	点滴	24時間	day 1
	キロサイド 生食500mL(①番目)	2 g/m ² (60歳以上で1 g/m ²)	点滴	3時間	day 2, 3
	キロサイド 生食500mL(②番目)	2 g/m ² (60歳以上で1 g/m ²)	点滴	3時間	day 2, 3
	ソル・メルコート (またはメドロール) 生食50mL	50 mg/body × 2回	点滴	1時間	day 1, 2, 3
	ロイコボリン 生理食塩液	15mg 50mL	点滴	30分	MTX開始36hr後より、 6hr毎に8回
1コースの期間 3日間			投与スケジュール及び総コース数 左記以降は、血球回復(*)後速やかに、 地固めC2療法コースへ。		

その他(特記事項など)

生食でルートキープ(中心静脈)し、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。
 Day1に髄腔内抗がん剤投与:メソトレキセート15mg/body+ キロサイド40mg/body+ デカドロン4mg/body.
 (*)①好中球 $\geq 1,000/\text{mm}^3$ かつ②白血球 $\geq 3,000/\text{mm}^3$ かつ③血小板 $\geq 80,000/\text{mm}^3$.
 C1/C2を1サイクルとして4サイクル繰り返す。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Ph+ALL202地固めC2コース療法	フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病の地固めC2コース療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	グリベック	600 mg/body	経口		day 1-28
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 左記以降は、血球回復(＊)後速やかに、 地固めC1療法コースへ。		
その他(特記事項など) Day1に髄腔内抗がん剤投与:メソトレキセート15mg/body+ キロサイド40mg/body+ デカドロン4mg/body. (＊)①好中球≧1,000/mm ³ かつ②白血球≧3,000/mm ³ かつ③血小板≧80,000/mm ³ . C1/C2を1サイクルとして4サイクル繰り返す。					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
PolabR (1サイクル)	再発又は難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキシマブ 5%ブドウ糖	375mg/m ² 1mg/mL	点滴	210分	day1
④	生理食塩液 (投与後フラッシュ)	50mL	点滴		day1

①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始時	day2
②	アロキシバグ0.75mg デキサート	1袋 6.6mg	点滴	30分	day2
③	ポライビー 注射用水 生理食塩液	1.8mg/kg 20mg/mL 100mL (40kg以上)	点滴	90分	day2
④	生理食塩液	50mL	点滴	30分	day2
①	デキサート 生理食塩液	6.6mg 50mL	点滴	30分	day3
⑤	トレアキシン 注射用水 生理食塩液	90mg/m ² 40mL/1バイアル 250mL (溶液総量)	点滴	60分	day2, 3
⑥	生理食塩液 (投与後フラッシュ)	50mL	点滴		day2, 3
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			1サイクル		

その他（特記事項など）

リツキシマブは最初の30分は50mL/時で開始し、患者の状態を十分観察しながら、その後30分毎に50mL/時ずつ上げて、最大400mL/時まで上げることができる。リツキシマブは2サイクル目以降は初回投与時に発現した副作用が軽微であった場合、100mg/時まで上げて投与を開始し、その後30分毎に100mg/時ずつ上げて、最大400mg/時まで上げることができる。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Pol-a-BR (2-6サイクル)	再発又は難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg 5錠		経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキシマブ 5%ブドウ糖	375mg/m ² 1mg/mL	点滴	180分	day1
④	アロキシバッグ0.75mg デキサート	1袋 6.6mg	点滴	30分	day1
⑤	ポライビー 注射用水 生理食塩液	1.8mg/kg 20mg/mL 100mL (40kg以上)	点滴	30分	day1
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	30分	day1
①	デキサート 生理食塩液	6.6mg 50mL	点滴	30分	day2
⑦	トレアキシシン 注射用水 生理食塩液	90mg/m ² 40mL/1バイアル 250mL (溶液総量)	点滴	60分	day1, 2
⑧	生理食塩液 (投与後フラッシュ)	50mL	点滴		day1, 2
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			2-6サイクル		

その他（特記事項など）

リツキシマブは2サイクル目以降は初回投与時に発現した副作用が軽微であった場合、100mg/時まで上げて投与を開始し、その後30分毎に100mg/時ずつ上げて、最大400mg/時まで上げることができる。
 初回投与時に忍容性が良好であれば、ポライビーは30分で投与可。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Pola-R-CHP (1サイクル)	初発のびまん性 大細胞型B細胞 リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day1
③	ソル・コーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1
④	リツキシマブ 5%ブドウ糖	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	210分	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴 (側管)	15分	day1

①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始時	day2
②	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day2
③	パロノセトロンバッグ0.75mg デキサート	1袋 6.6mg	点滴 (側管)	30分	day2
④	ポラツズマブベドチン 注射用水 生理食塩液	1.8mg/kg 20mg/mL 100mL (40kg以上)	点滴 (側管)	90分	day2
⑤	生理食塩液	50mL	点滴 (側管)	15分	day2
⑥	エンドキサン 生理食塩液	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	60分	day2
⑦	ドキシソルビシン 生理食塩水	50mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑧	プレドニゾン	100mg/body	経口		day2-6
1コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 1サイクル		

その他（特記事項など）

リツキシマブは最初の30分は50mL/時で開始し、患者の状態を十分観察しながら、その後30分毎に50mL/時ずつ上げて、最大400mL/時まで上げることができる。 IPI 2以上の患者に適応を推奨する。

PMID: 34904799

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Pola-R-CHP (2-6サイクル)	初発のびまん性 大細胞型B細胞 リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day1
③	ソル・コーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1
④	リツキシマブ 5%ブドウ糖	375mg/m ² 250mL (溶液総量)	点滴 (側管)	90分	day1
⑤	生理食塩水	50mL	点滴 (側管)	15分	day1

①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始時	day2
②	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day2
③	パロノセトロンバッグ0.75mg デキサート	1袋 6.6mg	点滴 (側管)	30分	day2
④	ボラツズマブベドチン 注射用水 生理食塩液	1.8mg/kg 20mg/mL 100mL (40kg以上)	点滴 (側管)	30分	day2
⑤	生理食塩液	50mL	点滴 (側管)	15分	day2
⑥	エンドキサン 生理食塩液	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	60分	day2
⑦	ドキシソルビシン 生理食塩水	50mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑧	プレドニゾロン	100mg/body	経口		day2-6
1 コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 2-6サイクル		

その他（特記事項など）

・ リツキシマブは、臨床的に重篤な心疾患がなく、初回投与時に発現した副作用が軽微であり、かつ投与前の末梢血リンパ球数が5000/uL未満である場合、90分間で投与することができる。最初の30分は100mL/時で投与し、その後200mL/時で投与する。

・ 初回投与時に忍容性が良好であれば、ボラツズマブベドチンは30分で投与可。

PMID: 34904799

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
PVD療法 (1-8サイクル目)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液20mL ベルケイド	1A 1.3mg/m2	皮下注		day1,4,8,11
②	ポマリスト	4mg/body	経口		day1-14
③	デカドロン錠	20mg	経口		day1,2,4,5,8,9,11,12
1コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 PDとなるまで		
その他(特記事項など) ・総コース数については治療効果や副作用発現をみながら適宜検討する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
PVD療法 (9サイクル目以降)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液20mL ベルケイド	1A 1.3mg/m2	皮下注		day1,8
②	ポマリスト	4mg/body	経口		day1-14
③	デカドロン錠	20mg	経口		day1,2,8,9
1コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 PDとなるまで		
その他(特記事項など) ・総コース数については治療効果や副作用発現をみながら適宜検討する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン	対象がん種	適応分類
R-ACES療法	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	ソル・コーテフ 生理食塩水	200mg 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1
①	アロキシバッグ0.75mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2
②	ソル・メドロール 生理食塩液	500mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day2～day6
③	エトポシド 5%ブドウ糖液	80mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	60分	day2～day5
④	カルボプラチン 5%ブドウ糖液	100mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	24時間持続	day2～day5
⑤	キロサイド 生理食塩液	2000mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	180分	day6
⑥	リンデロン点眼0.1%5mL	1日5回(両眼)	点眼		day6
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 1投2～3休の3～4週間を1コースとして繰り返す。 最大6コースまで		
その他(特記事項など) ・生理食塩水または3号液等でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する。 ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-BAC療法	再発・難治 マントル細胞リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1

①	グラニセロンバッグ3mg デキサート6.6mg	1袋 6.6mg/body	点滴 (側管)	30分	day2～4
②	トレアキシン 生理食塩液	70mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	1時間	day2, 3
③	キロサイド 生理食塩液	800mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	2時間	day2～4
1コースの期間 4週(28日間)			投与スケジュール及び総コース数 6サイクル		

その他(特記事項など)

- ・生理食塩水またはソルデム3A等でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する。
- ・キロサイドは、トレアキシンの投与終了から2時間空けて投与開始する。
- ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hrに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-BEAM変法(R-MEAM療法): 自家PBSCT用	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg ソルコーテフ(day 1のみ)	1袋 200mg(混注)	点滴	30分	day 1
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day6
②	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴	約240分	day1
③	サイメリン 生理食塩液	250mg/m2 100ml	点滴	60分	day 1
④	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/m2 250ml	点滴	60分	day 2,3,4,5 12時間毎に2回/日投与
⑤	キロサイド(2回/日12時間毎) 5%ブドウ糖液	400mg/m2 500ml	点滴	24時間	day 2,3,4,5
⑥	アルケラン 生理食塩液250mL	140mg/m2 100ml	点滴	30分	day 6
1コースの期間 約28日			投与スケジュール及び総コース数		
その他(特記事項など) ・エトポシドは非DEHPルートを使用。 ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。 ・アルケランは生食250mLを使用し、150mL廃棄、100mLとしてから混注。 ・調製後は90分以内に投与を完了すること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-CHOP21	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ注 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴	約240分	day1
①	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液廃棄	day2
②	グラニセトロンバッグ 3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2
③	オンコビン 生理食塩液	1.4mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
④	ドキシソルビシン 生理食塩液	50mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑤	エンドキサン 生理食塩液	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day2
⑥	プレドニゾロン錠	60～100mg/body	経口		day2～6
1コースの期間 21日間(3週間)		投与スケジュール及び総コース数 1投2休(リツキサンのみday1、他はday2投与。プレドニゾロンはday2から5日間連続で内服)の3週間を1コースとして繰り返す 6コース実施(最大8コースまで実施する場合有り)			
その他(特記事項など) ・標準的なコース数は6コースとし、患者の状態に応じ、最大8コースまでの実施とする。 ・リツキサンは最初の1時間は100mL/hで開始し、以後200mL/hで点滴する。 ・生理食塩液でルート確保し、抗がん剤はすべて側管から投与する(A型ポンプは使用しない)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-CHOP-E療法	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始前	day1
②	ソル・コーテフ 生理食塩水	200mg 50mL	点滴 (本体)	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (本体)	約240分	day1
④	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液破棄	day1
⑤	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1
⑥	オンコビン 生理食塩水	1.4mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
⑦	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day1
⑧	ドキソルビシン 生理食塩水	50mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day1
⑨	エンドキサン 生理食塩水	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day1
⑩	プレドニゾロン錠	60～100mg/body	経口		day1～5
⑪	ベプシド	200mg/m ²	経口		day2,3
1コースの期間 約21日間			投与スケジュール及び総コース数 ⑩はday1から5日間連続で内服。 最大8コース実施。		

その他(特記事項など)

- ・標準的なコース数は6コースとし、患者の状態に応じて、最大8コースまで実施する。
- ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。
- ・生理食塩水でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する(A型ポンプは使用しない)。
- ・エトポシドはnon DEHPのルートを使用する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名			対象がん種		適応分類	
R-CODOX-M療法			再発または難治性の非ホジキンリンパ腫およびバーキットリンパ腫		☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1	
②	ソル・コーテフ 生理食塩水	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1	
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1	

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日	
①	グラニセトンパック	3mg	点滴	30分	day 2-6,9,11	
②	オンコビン 生食50ml	1.5 mg/m ² (Max 2mg)	点滴	5分 全開	day 2, 9	
③	ドキシソルピシン 生食100ml	40 mg/m ²	点滴	30分	day 2	
④	エンドキサン 生食500ml	800 mg/m ²	点滴	2時間	day 2	
②	エンドキサン 生食500ml	200 mg/m ²	点滴	2時間	day 3-6	
②	メソトレキセート ソルデム3A 200ml	536 mg/m ²	点滴	1時間	day 11	
③	メソトレキセート 生食500ml	2460 mg/m ²	点滴	23時間	day 11	
側管	ロイコボリン 生食100ml	85.7 mg/m ²	点滴	30分	day 12よりMTX開始時より36時間後に投与	
側管	ロイコボリン 生食50ml	15 mg 6時間おき	点滴	30分	上記に引き続きまず4日間6時間おき。 MTX血中濃度が5×10 ⁻⁸ になるまで継続	
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数			
28日間			4週間の間をあけて最大3コース			

その他(特記事項など)

- ・Day14よりG-CSF 5 μg/kg使用開始.
- ・髄注: day1, 3でキロサイド40mg+プレドニン20mg. Day15でMTX15mg+プレドニン10mg.
- ・中枢神経浸潤を認める場合にはday 5にキロサイド、day17にMTXの髄注を追加(1コース目のみ)する。
- ・生食でルートキープし、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。A型ポンプは使用しない。

(CODOX-Mを開始日を基準とする)

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-CVP21	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ注 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/㎡ 1mg/mL	点滴	約240分	day1
①	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液廃棄	day2
②	グラニセトロンバッグ 3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2
③	オンコビン 生理食塩液	1.4mg/㎡ (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
⑤	エンドキサン 生理食塩液	750mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	120分	day2
⑥	プレドニン錠	60～100mg/body	経口		day2～6
1コースの期間 21日間(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 1投2休(リツキサンのみday1投与。他はday2投与。プレドニンはday1から5日間連続で内服)の3週間を1コースとして繰り返す 標準として4～6コース実施(最大8コースまで)		
その他(特記事項など) ・リツキサンは最初の1時間は100mL/hで開始し、以後200mL/hで点滴する。 ・生理食塩液でルート確保し、抗がん剤はすべて側管から投与する(A型ポンプは使用しない)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-DeVIC療法	再発・難治性非ホジキンリンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1

①	グラニセロンバッグ3mg デキサート6.6mg	1袋 33mg/body	点滴 (側管)	30分	day2～4
②	イホマイド 生理食塩液	1500mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	2時間	day2～4
③	カルボプラチン 5%ブドウ糖液	300mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	1時間	day2
④	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	2時間	day2～4
⑤	ウロミテキサン 生理食塩液	300mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day2～4 イホマイド投与時、4、8時間後

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
3週(21日間)	1投2～3休の3～4週間を1コースとして繰り返す。 6コース

その他(特記事項など) ・生理食塩水またはソルデム3A等でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する。 ・70歳以上では各薬剤を25-30%減量。 ・G-CSFをday4より顆粒球が治療前値に回復するまで投与。 ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hrに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。
--

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-ESHAP療法	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	ソル・コーテフ 生理食塩水	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/㎡ 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1
①	アロキシバグ0.75mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2
②	ソル・メドロール 生理食塩水	500mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day2～day6
③	エトポシド 5%ブドウ糖液	40mg/㎡ 250mL	点滴 (側管)	120分	day2～day5
④	シスプラチン 生理食塩液	25mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	24時間持続	day2～day5
⑤	キロサイド 生理食塩液	2000mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	180分	day6
⑥	リンデロン点眼0.1%5mL	1日5回(両眼)	点眼		day6
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 1投2～3休の3～4週間を1コースとして繰り返す。 6～8コース実施		
その他(特記事項など) ・生理食塩水またはソリター-T3等でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する。 ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-Flu療法(経口)	慢性リンパ性白血病、悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始前	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩水	200mg 50mL	点滴 (本体)	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (本体)	約240分	day1
④	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液破棄	day1
⑤	フルダラ	40mg/m ²	経口	/	day1～5
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
約28日間			6～8コース		

その他(特記事項など)

- ・標準的なコース数は6コースとし、患者の状態に応じて、実施する。
- ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。
- ・初回治療時、末梢血腫瘍細胞が25000/ μ L以上のときは、リツキサン投与はday1ではなく、腫瘍量減量後に行う。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-Flu療法	慢性リンパ性白血病、悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始前	day1
②	ソル・コーテフ 生理食塩水	200mg 50mL	点滴 (本体)	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (本体)	約240分	day1
④	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day1
⑤	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1～5
⑥	フルダラ 生理食塩水	25mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	60分	day1～5
1コースの期間 約28日間			投与スケジュール及び総コース数 標準6コース、患者の状態に応じて実施		
その他(特記事項など) ・標準的なコース数は6コースとし、患者の状態に応じて、実施する。 ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。 ・生理食塩水でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する(A型ポンプは使用しない)。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-FND	悪性リンパ腫 (再発または難治性の低悪性度B細胞性非ホジキンリンパ腫及びマントル細胞リンパ腫)	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
	レスタミンコーワ錠	5錠	経口	点滴開始時	day1
①	生理食塩液	100mL	点滴	40mL/H (残液廃棄)	day1
側①	ソル・コーテフ注 グラニセトロンバッグ3mg	200mg 1袋	点滴 (側管)	30分	day1
側②	ノバントロン注 生理食塩液	10mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day1
②	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴	約240分	day1
	フルダラ錠	40 mg/m2	経口		day 1からday 3までの 3日間
	デカドロン	20mg/body	経口		day 1からday 5までの 5日間
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間(4週間)			1投3休を1コースとして繰り返す。 最大8コース実施		
その他(特記事項など)					
・リツキサンは初回投与時、25mL/hで開始し、1時間後に100mL/h、さらに1時間後に200mL/hに増量して点滴可能。また、2回目以降の場合、初回時に問題がなければ100mL/hの速度で開始。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名		対象がん種		適応分類	
R-GDP療法(short hydration)		再発・難治性の悪性リンパ腫		☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	15分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴	約240分	day1
①	アロキシバッグ デキサート6.6mg	1本 3V	点滴	30分	day 2
②	ジェムザール 生理食塩液	1000mg/m2 100ml	点滴	30分	day 2
③	生理食塩液500ml 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	1本 10mL 10mL	点滴	60分	day2
④	マンニトール	300ml	点滴	30分	day 2
⑤	シスプラチン 生理食塩液	75mg/m2 合計500ml	点滴	2時間	day 2
⑥	ソルデム3A 500mL	1本	点滴	1時間	day 2
内服	デカドロン錠	20mg(夕のみ)	内服		day 2
内服	デカドロン錠	20mg×2回	内服		day 3-5
①	グラニセトロン3mg/100ml デキサート3.3mg	1本 1V	点滴	30分	day 9
②	ジェムザール 生理食塩液	1000mg/m2 100ml	点滴	30分	day 9
③	生理食塩液	50ml	点滴	全開	day 9
1コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 PDまで		
その他(特記事項など) ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与で初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。ベナ錠5錠を別途処方する。 ・シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500ml【シスプラチン(ml)+生食(ml)=500ml】になるようにして使用。上記レジメン終了時点で尿量が1L以下の場合はDr call。Day1夕からの上記デカドロン錠を別途処方。Day1-3は飲水1000ml(day1は点滴終了までに500ml飲水させる)。イメンド3日間を別途処方する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称			対象がん種	適応分類	
R-Gem(750)-CVP (2コース目以降)			悪性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ注 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキシマブ 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 250mL（溶液総量）	点滴	90分	day1

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day2
②	グラニセトロン	3mg/body	点滴 (側管)	30分	day2
③	オンコビン 生理食塩水	1.4mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
④	ジェムザール 生理食塩水	750mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day2,9
⑤	エンドキサン 生理食塩水	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day2
⑥	プレドニゾロン	100mg/body	経口		day2～6
1 コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 6コース		

その他（特記事項など）

心機能が低下している症例への適応を推奨する。G-CSFの1次予防は必須。

GEMは750mg/m²→875mg/m²→1000mg/m²の順に増量する。

Day1にG3の好中球減少、G2の血小板減少が生じた場合、Gem、VCR、CPAを75%doseに減量する。

Day1にG4の好中球減少、G3以上の血小板減少が生じた場合は化学療法を延期する。

Day8にG4の好中球減少、G3以上の血小板減少が生じた場合はゲムシタビンの投与を中止する。

上記毒性が生じた場合は、GEMは次コースdose up を行わない。 PMID: 24220559

がん薬物療法レジメン

レジメン名称			対象がん種	適応分類	
R-Gem(875)-CVP (2コース目以降)			悪性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ注 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキシマブ 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 250mL（溶液総量）	点滴	90分	day1

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day2
②	グラニセトロン	3mg/body	点滴 (側管)	30分	day2
③	オンコビン 生理食塩水	1.4mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
④	ジェムザール 生理食塩水	875mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day2,9
⑤	エンドキサン 生理食塩水	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day2
⑥	プレドニゾン	100mg/body	経口		day2～6
1 コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 6コース		

その他（特記事項など）

心機能が低下している症例への適応を推奨する。G-CSFの1次予防は必須。

GEMは750mg/m²→875mg/m²→1000mg/m²の順に増量する。

Day1にG3の好中球減少、G2の血小板減少が生じた場合、Gem、VCR、CPAを75%doseに減量する。

Day1にG4の好中球減少、G3以上の血小板減少が生じた場合は化学療法を延期する。

Day8にG4の好中球減少、G3以上の血小板減少が生じた場合はゲムシタビンの投与を中止する。

上記毒性が生じた場合は、GEMは次コースdose up を行わない。 PMID: 24220559

がん薬物療法レジメン

レジメン名称			対象がん種	適応分類	
R-Gem(1000)-CVP (2コース目以降)			悪性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ注 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキシマブ 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 250mL（溶液総量）	点滴	90分	day1

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day2
②	グラニセトロン	3mg/body	点滴 (側管)	30分	day2
③	オンコビン 生理食塩水	1.4mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
④	ジェムザール 生理食塩水	1000mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day2,9
⑤	エンドキサン 生理食塩水	750mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day2
⑥	プレドニゾロン	100mg/body	経口		day2～6
1 コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 6コース		

その他（特記事項など）

心機能が低下している症例への適応を推奨する。G-CSFの1次予防は必須。

GEMは750mg/m²→875mg/m²→1000mg/m²の順に増量する。

Day1にG3の好中球減少、G2の血小板減少が生じた場合、Gem、VCR、CPAを75%doseに減量する。

Day1にG4の好中球減少、G3以上の血小板減少が生じた場合は化学療法を延期する。

Day8にG4の好中球減少、G3以上の血小板減少が生じた場合はゲムシタビンの投与を中止する。

上記毒性が生じた場合は、GEMは次コースdose up を行わない。 PMID: 24220559

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
R-High Dose MTX/Ara-C	悪性リンパ腫 急性リンパ球性 白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1
①	アロキシバッグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day2
②	生理食塩液 メソトレキセート	500ml 200mg/m ²	点滴	2時間	day2
③	生理食塩液 メソトレキセート	500ml 800mg/m ²	点滴	22時間	day2
④	5%ブドウ糖液 キロサイド(※)	500ml 2g/m ² × 2(12h毎)	点滴	3時間	day3,4
⑤	生理食塩液 ロイコボリン	50ml 50mg	点滴	30分	day3 メソトレキセート終了12 時間後に投与
⑤	生理食塩液 ロイコボリン	50ml 15mg	点滴	30分	day4-5 1日4回、6時間毎
1コースの期間 約21日			投与スケジュール及び総コース数 Hyper CVAD療法と交互に投与を行う。 両方合わせて計8コースの予定		
その他(特記事項など) ・ロイコボリンレスキューを行う。メソトレキセート投与終了12時間後にロイコボリン50mg/bodyを点滴 後、6時間毎に15mg/bodyを最低計8回、MTX血中濃度が0.1μM未満に低下するまで投与する。 ・標準的なAraC投与量は、4000mg/m2を分2とし、60歳以上は2000mg/m2の分2への減量を検討する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-Hyper CVAD	悪性リンパ腫 急性リンパ球性 白血病	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1
①	アロキシバッグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 エンドキサン	500ml 300mg/m2(1回量)	点滴	2時間	day2-4、12時間毎 1日2回、計6回投与
③	生理食塩液 オンコビン	50ml 2mg/body	点滴	全開	day5,12
④	生理食塩液 ドキソルビシン	250ml 50mg/m2	点滴	2時間	day5
⑤	生理食塩液 デキサート6.6mg	50ml 6V	点滴	30分	day2-5,12-15
1コースの期間 約21日			投与スケジュール及び総コース数 High dose MTX/Ara-C療法と交互に投与を行う。 両方合わせて計8コースの予定		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-ICE療法(変法)	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩水	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2-6
④	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day2-6
②	イホマイド 生理食塩水	1200mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day2-6
③	カルボプラチン 5%ブドウ糖液	400mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	60分	day2
側①	ウロミテキサン 生理食塩水	400mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day2-6 イホマイド投与時、 4時間後、8時間後
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週(28日間)			PDまで		

その他(特記事項など)

- ・生理食塩水またはソルデム3等でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する。
- ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。
- ・カルボプラチンはmax 800mgとする。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-ICE療法	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	ソル・コーテフ 生理食塩水	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/㎡ 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2～day4
②	イホマイド 生理食塩水	5000mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	24時間持続	day3
③	カルボプラチン 5%ブドウ糖液	5 × (GFR + 25)mg 250mL	点滴 (側管)	60分	day3
④	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/㎡ 250mL	点滴 (側管)	60分	day2～day4
側①	ウロミテキサン 生理食塩水	5000mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	24時間持続	day3
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 1投2～3休の3～4週間を1コースとして繰り返す。 最大6コース施行		
その他(特記事項など) ・生理食塩水またはソルデム3A等でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する。 ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。 ・カルボプラチンはmax 800mgとする。 ・G-CSFをday6～day13に使用する。 ・ウロミテキサンは混注する量の生食を抜いて、total500mLに調製し、イホマイドと同時に点滴。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-IVAC	バーキットリンパ腫および再発・難治性の非ホジキンリンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	内服	リツキサン投与30分前	day 1
②	ソル・コーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day 1
③	リツキサン 5%ブドウ糖	375 mg/m2 1mg/mL	点滴	約240分	day 1
①	グラニセトロンバッグ3mg ソル・コーテフ	1袋 day2-3は1日2回 100mg	点滴	30分	day 2-6 day2-3は1日2回 ソルコーテフはday2,3のみ
②	エトポシド 生理食塩液	60 mg/m2 250mL	点滴	60分	day 2-6
③	イホマイド 生理食塩液	1500 mg/m2 250mL	点滴	60分	day 2-6
④	ウロミテキサン 生理食塩液	500mg/m2 × 3回 100mL	点滴	30分	day 2-6
⑤	キロサイド 生理食塩液	2000mg/m2 × 2回 合計500mL	点滴	3時間	day 2-3
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 4週間の間をあけて最大3コース		
その他(特記事項など) Day 7よりG-CSF 5 μg/kg使用開始。 髄注: day7で、MTX 15mg+プレドニン10mg。 ・中枢神経浸潤を認める場合にはday 7、9にキロサイド40mg+プレドニン20mgの髄注を追加(1コース目のみ)する。 ウロミテキサンは、イホマイド投与と同時、その4時間後、8時間後に投与。 生食でルートキープし、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。A型ポンプは使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-MEP療法	再発・難治性 悪性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液破棄	day1
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1
③	ノバントロン 生理食塩水	10mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day1
④	エトポシド 生理食塩水	100mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	120分	day1
⑤	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	ソルコーテフ 点滴開始時	day1
⑥	ソル・コーテフ 生理食塩水	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day1
⑦	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1
	プレドニゾロン錠	25mg/m ²	経口		day1～10
	ラステットカプセル	200mg/m ²	経口		day2～3
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週(21日間)			6～8コース		
その他(特記事項など)					
・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称			対象がん種	適応分類	
R-miniCHOP (1コース目)			悪性リンパ腫	■ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ注 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキシマブ 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴	約210分	day1

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day2
②	グラニセトロン	3mg/body	点滴 (側管)	30分	day2
③	オンコビン 生理食塩水	1mg/body 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
④	ドキシソルビシン 生理食塩水	25mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑤	エンドキサン 生理食塩水	400mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	60分	day2
⑥	プレドニゾロン	100mg/body	経口		day2～6

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
21日間	6コース

その他（特記事項など）
80歳以上の高齢者への適応を推奨する。

PMID： 21482186

がん薬物療法レジメン

レジメン名称			対象がん種	適応分類	
R-miniCHOP (2コース目以降)			悪性リンパ腫	■ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他	
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ注 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキシマブ 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 250mL（溶液総量）	点滴	90分	day1

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day2
②	グラニセトロン	3mg/body	点滴 (側管)	30分	day2
③	オンコビン 生理食塩水	1mg/body 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
④	ドキシソルビシン 生理食塩水	25mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑤	エンドキサン 生理食塩水	400mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	60分	day2
⑥	プレドニゾロン	100mg/body	経口		day2～6

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
21日間	6コース

その他（特記事項など）
80歳以上の高齢者への適応を推奨する。

PMID： 21482186

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-Mini-MEAM療法	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	グラニセトロンバック3mg ソル・コーテフ	1パック 200mg（混注）	点滴	30分	day 1
④	サイメリン 生理食塩水	60mg/m2 100ml	点滴	60分	day 1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL になるよう	点滴	約240分	day1
⑤	グラニセトロンバック3mg	1パック	点滴	30分	day 2～6 （day2～5は2回/日）
⑥	エトポシド 5%ブドウ糖液	75mg/m2 250ml	点滴	60分	day 2,3,4,5
⑦	キロサイド （2回/日12時間毎） 5%ブドウ糖液	100mg/m2 （1回） × 2回 250ml	点滴	60分	day 2,3,4,5
⑧	アルケラン 生理食塩水	30mg/m2 100ml	点滴	30分	day 6
1コースの期間 28日（4週間）			投与スケジュール及び総コース数 2～3コース以上で寛解に到達するまで		
その他（特記事項など） ・エトポシドは非DEHPルートを使用。 ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。 ・day1はグラニセトロン→サイメリン→リツキサンの順で投与する。 ・アルケランは調製後90分以内に点滴を終了すること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-MPV療法	中枢神経原発 悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ注 生理食塩水	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴	約240分	day1
①	グラニセトロンバッグ3mg	100mL	点滴	30分	day2
②	生理食塩液 メソトレキセート	total 500mL 3.5g/m ²	点滴	3時間	day2
③	生理食塩液 オンコビン	50mL 1.4mg/m ² (最大2mg/body)	点滴	全開	day2
④	生理食塩液 ロイコボリン	50mL 15mg	点滴	30分	day3-5
					1日6回、4時間毎
⑤	プロカルバジンカプセル50mg	100mg/m ²	経口		day1-7 奇数サイクルのみ投与
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
14日間(2週間)			2週間を1コースとして6～8コース実施		
その他(特記事項など)					
メソトレキセート投与終了24時間後よりロイコボリン15mg/bodyを、4時間毎にMTX濃度が0.1 μ M未満に低下するまで投与する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-THP-COP21 (高齢者用)	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ注 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/㎡ 1mg/mL	点滴	約240分	day1
①	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液廃棄	day2
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2
③	オンコビン 生理食塩液	1mg/㎡ (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
④	ピノルビン 5%ブドウ糖液	30mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑤	エンドキサン 生理食塩液	500mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	120分	day2
⑥	プレドニン錠	30mg/㎡	経口		day2～6
21日間(3週間)		1投2休(リツキサンのみday1、他はday2投与。プレドニゾロンはday2から5日間連続で内服)の3週間を1コースとして繰り返す。 6コース実施(最大8コースまで実施する場合有り)			
その他(特記事項など)					
・標準的なコース数は6コースとし、患者の状態に応じ、最大8コースまでの実施とする。 ・リツキサンは初回時は最初の1時間は25mL/hで開始し、1時間後100mL/hに、更に1時間後200mL/hで終了まで点滴する。初回時問題なければ、2回目以降は100mL/hの速度で開始する。 ・生理食塩液でルート確保し、抗がん剤はすべて側管から投与する(A型ポンプは使用しない)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-THP-COP21	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ注 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/㎡ 1mg/mL	点滴	約240分	day1
①	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液廃棄	day2
②	グラニセトロンバッグ 3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2
③	オンコビン 生理食塩液	1.4mg/㎡ (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day2
④	ピノルビン 5%ブドウ糖液	50mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑤	エンドキサン 生理食塩液	750mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	120分	day2
⑥	プレドニゾロン錠	60～100mg/body	経口		day2～6
1コースの期間 21日間(3週間)		投与スケジュール及び総コース数 1投2休(リツキサンのみday1、他はday2投与。プレドニゾロンはday2から5日間連続で内服)の3週間を1コースとして繰り返す。 6コース実施(最大8コースまで実施する場合有り)			
その他(特記事項など) ・標準的なコース数は6コースとし、患者の状態に応じ、最大8コースまでの実施とする。 ・リツキサンは最初の1時間は100mL/hで開始し、以後200mL/hで点滴する。 ・生理食塩液でルート確保し、抗がん剤はすべて側管から投与する(A型ポンプは使用しない)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
RVD lite療法 (1～9コース目)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レブラミド	15mg/body	経口		1～21日目
②	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m2 20ml	皮下注		1, 8, 15, 22日目
③	レナデックス錠	20mg	経口		1, 2, 8, 9, 15, 16, 22, 23日目
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
35日			上記スケジュールで5週間を1コースとし、9コースまで 行う		
その他(特記事項など)					
・初発の多発性骨髄腫の初期治療として使用する。主にVRd療法を行うにはPS不良患者や移植非適 応患者、血球減少が強い患者に使用する。					
・76歳以上の場合はレナデックス錠は1, 8, 15, 22日のみ投与するように減量する。					
・地固め療法としての10～15コース目はレジメンが異なるため、別紙プロトコールに準じる。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
RVD lite療法 (10～15コース目)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レブラミド	15mg/body	経口		1～21日目
②	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m2 20ml	皮下注		1, 15日目
③					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日			上記スケジュールで4週間を1コースとし、6コース行う		
その他(特記事項など)					
・初発の多発性骨髄腫の初期治療として使用する。主にVRd療法を行うにはPS不良患者や移植非適応患者、血球減少が強い患者に使用する。					
・寛解導入療法としての1～9コース目までは投与方法が異なるため、別紙プロトコールに準ずる。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
R-トレアキシン	低悪性度B細胞性 NHL マントル細胞リン パ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
③ ④ ⑤ ⑥	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1
	アロキシバック0.75mg デキサート	1袋 6.6mg	点滴	30分	day1
	デキサート 生理食塩液	6.6mg 50ml	点滴	30分	day2
	トレアキシン 注射用水 生理食塩液	90mg/m2 40ml/1バイアル 250ml(溶液総量)	点滴	60分	day1,2
	生理食塩液	50ml	点滴	30分	day1,2
	ソル・コーテフ 生理食塩液	200mg 50ml	点滴	30分	day1
	リツキサン 5%ブドウ糖	375mg/m2 1mg/ml	点滴	240分	day1
	1コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 トレアキシン2日間連日投与後19日間休薬(1サイクル)	
その他(特記事項など) リツキサンは初回投与では25ml/hから開始し、1時間後に100ml/hに増量、さらに1時間後に200ml/hに増量し点滴可能とする。2回目以降は初回にinfusion reaction等の有害事象を生じていないければ100ml/hから開始し、1時間後に200ml/hに増量。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
R-ベンダムスチン (DLBCL)	再発又は難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg5錠		経口	点滴開始 30分前	day1
②	アロキシバグ0.75mg デキサート	1袋 6.6mg	点滴	30分	day1
③	デキサート 生理食塩液	6.6mg 50mL	点滴	30分	day2
④	トレアキシシン 注射用水 生理食塩液	120mg/m2 40mL/1バイアル 250mL（溶液総量）	点滴	60分	day1, 2
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1, 2
⑥	ソル・コーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
⑦	リツキシマブ 5%ブドウ糖	375mg/m2 1mg/mL	点滴	240分	day1
1 コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 6サイクルまで		

その他（特記事項など）

リツキシマブは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量し点滴可能とする。2サイクル目以降は初回にinfusion reaction等の有害事象を生じていないければ100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
<SC> DBd療法(1サイクル)	再発又は難治性の多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	点滴開始 60分前	day1, 8, 15
②	モンテルカスト錠10mg	1錠	経口	点滴開始 60分前	day1
③	レナデックス錠4mg	5錠	経口	点滴開始 60分前	day1, 8, 15
④	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 8, 15
⑤	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m2 2.5mg/mL	皮下注	ダラキューロ 投与終了後	day1, 8
①	レナデックス錠4mg	5錠	経口	朝食後	day2, 4, 5, 9, 11, 12
②	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m2 2.5mg/ml	皮下注		day4, 11

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
3週(21日間)	1サイクル
その他(特記事項など) ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。 ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。 ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。 ・ベルケイドの用量は1.3mg/m2より開始し、毒性の応じて、1.0mg/m2、0.7mg/m2、投与中止に調節する。 ・75歳を超える、過少体重(BMI: 18.5kg/m2未満)、コントロール不良の糖尿病又はステロイド療法に対する認容性がない、若しくは有害事象を発現した患者では、レナデックスを20mg/週に減量してもよい。	

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
<SC> DBd療法(2-3サイクル)	再発又は難治性の多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	点滴開始 60分前	day1, 8, 15
②	レナデックス錠4mg	5錠	経口	点滴開始 60分前	day1, 8, 15
③	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 8, 15
④	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m2 2.5mg/mL	皮下注	ダラキューロ 投与終了後	day1, 8
①	レナデックス錠4mg	5錠	経口	朝食後	day2, 4, 5, 9, 11, 12
②	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m2 2.5mg/ml	皮下注		day4, 11

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
3週(21日間)	2-3サイクル

その他(特記事項など)

- ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。
- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。
- ・ベルケイドの用量は1.3mg/m2より開始し、毒性の応じて、1.0mg/m2、0.7mg/m2、投与中止に調節する。
- ・75歳を超える、過少体重(BMI: 18.5kg/m2未満)、コントロール不良の糖尿病又はステロイド療法に対する認容性がない、若しくは有害事象を発現した患者では、レナデックスを20mg/週に減量してもよい。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
<SC> DBd療法(4-8サイクル)	再発又は難治性の多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	点滴開始 60分前	day1
②	レナデックス錠4mg	5錠	経口	点滴開始 60分前	day1
③	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1
④	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m2 2.5mg/mL	皮下注	ダラキューロ 投与終了後	day1
①	レナデックス錠4mg	5錠	経口	朝食後	day2, 4, 5, 8, 9, 11, 12
②	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m2 2.5mg/ml	皮下注		day4, 8, 11

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
3週(21日間)	4-8サイクル

その他(特記事項など)

- ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。
- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。
- ・ベルケイドの用量は1.3mg/m2より開始し、毒性の応じて、1.0mg/m2、0.7mg/m2、投与中止に調節する。
- ・75歳を超える、過少体重(BMI: 18.5kg/m2未満)、コントロール不良の糖尿病又はステロイド療法に対する認容性がない、若しくは有害事象を発現した患者では、レナデックスを20mg/週に減量してもよい。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
<SC> DBd療法(9サイクル以降)	再発又は難治性の多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	点滴開始 60分前	day1
②	レナデックス錠4mg	5錠	経口	点滴開始 60分前	day1
③	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
3週(21日間)	9サイクル以降

その他(特記事項など)

- ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。
- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
<SC> DCd療法(1サイクル)	再発又は難治性の多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カイプロリス点滴静注用 注射用水 5%ブドウ糖液	20mg/m2 20mL 100mL	点滴 (側管)	30分	day1, 2
②	生理食塩液	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	day1, 2
①	カイプロリス注 注射用水 5%ブドウ糖液	56mg/m2 100mL 250mL	点滴 (側管)	30分	day8, 9, 15, 16
②	生理食塩液	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	day8, 9, 15, 16
③	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 8, 15, 22
④	モンテルカスト錠10mg	1錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 8, 15, 22
⑤	レナデックス錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 8, 15
⑤	レナデックス錠4mg	10錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day22
⑥	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 8, 15, 22
①	レナデックス錠4mg	5錠	経口	朝食後	day2, 9, 16

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週(28日間)	1サイクル
その他(特記事項など) ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。 ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。 ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。 ・カイプロリスは、毒性に応じて、45mg/m2、36mg/m2、27mg/m2、20mg/m2、投与中止に調節する。ベースライン時に肝機能障害を有する患者では25%に減量する。 ・レナデックスの用量は75歳を超える患者の場合、適正使用ガイドを参考に減量する。	

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
〈SC〉 DCd療法 (2サイクル)	再発又は難治性の 多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法 (進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カイプロリス注 注射用水 5%ブドウ糖液	56mg/m ² 100mL 250mL	点滴 (側管)	30分	day1, 2, 8, 9, 15, 16
②	生理食塩液	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	day1, 2, 8, 9, 15, 16
③	カロナール錠500mg レスタミンコフ錠10mg	2錠 5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 8, 15, 22
④	モンテルカスト錠10mg	1錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 8, 15, 22
⑤	レナデックス錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 8, 15
⑤	レナデックス錠4mg	10錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day22
⑥	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 8, 15, 22
①	レナデックス錠4mg	5錠	経口	朝食後	day2, 9, 16

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週 (28日間)	2サイクル

その他 (特記事項など)

- ・投与前検査として骨髄機能 (血液検査)・肺機能 (FEV1等)・輸血前検査を行うこと。
- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。
- ・カイプロリスは、毒性に応じて、45mg/m²、36mg/m²、27mg/m²、20mg/m²、投与中止に調節する。ベースライン時に肝機能障害を有する患者では25%に減量する。
- ・レナデックスの用量は75歳を超える患者の場合、適正使用ガイドを参考に減量する。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
<SC> DCd療法(3-6サイクル)	再発又は難治性の多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カイプロリス注 注射用水 5%ブドウ糖液	56mg/m ² 100mL 250mL	点滴 (側管)	30分	day1, 2, 8, 9, 15, 16
②	生理食塩液	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	day1, 2, 8, 9, 15, 16
③	カロナール錠500mg レスタミンコフ錠10mg	2錠 5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 15
④	モンテルカスト錠10mg	1錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 15
⑤	レナデックス錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 15
⑤	レナデックス錠4mg	10錠	経口	朝食後	day22
⑥	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 8, 15, 22
①	レナデックス錠4mg	5錠	経口	朝食後	day2, 8, 9, 16

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週(28日間)	3-6サイクル

その他(特記事項など)

- ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。
- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。
- ・カイプロリスは、毒性に応じて、45mg/m²、36mg/m²、27mg/m²、20mg/m²、投与中止に調節する。ベースライン時に肝機能障害を有する患者では25%に減量する。
- ・レナデックスの用量は75歳を超える患者の場合、適正使用ガイドを参考に減量する。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
<SC> DCd療法(7サイクル以降)	再発又は難治性の多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	カイプロリス注 注射用水 5%ブドウ糖液	56mg/m ² 100mL 250mL	点滴 (側管)	30分	day1, 2, 8, 9, 15, 16
②	生理食塩液	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	day1, 2, 8, 9, 15, 16
③	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1
④	モンテルカスト錠10mg	1錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1
⑤	レナデックス錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1
⑤	レナデックス錠4mg	10錠	経口	朝食後	day22
⑥	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1
①	レナデックス錠4mg	5錠	経口	朝食後	day2, 8, 9, 15, 16

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週(28日間)	7サイクル以降
その他(特記事項など) ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。 ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。 ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。 ・カイプロリスは、毒性に応じて、45mg/m ² 、36mg/m ² 、27mg/m ² 、20mg/m ² 、投与中止に調節する。ベースライン時に肝機能障害を有する患者では25%に減量する。 ・レナデックスの用量は75歳を超える患者の場合、適正使用ガイドを参考に減量する。	

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
<SC> DLd療法(1-2サイクル)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 8, 15, 22
②	モンテルカスト錠10mg	1錠	経口	点滴開始 60分前	day1
③	レナデックス錠4mg	10錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 8, 15, 22
④	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 8, 15, 22
⑤	レブラミドカプセル5mg	5カプセル	経口	寝る前	day1-21

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週(28日間)	1-2サイクル
・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。 ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。 ・レナリドミドは、クレアチニンクリアランスが30～50mL/minの患者では10mgへの減量を考慮する。また、毒性に応じ、15mg、10mg、5mgに調節する。 ・75歳を超える又は過少体重(BMI: 18.5kg/m²未満)の患者にはレナデックスを20mg/週に減量してもよい。 ・有害事象によりレナデックスの投与量が10mg/週未満に減量した場合でも、ダラキューロ投与前に最低10mgの投与を維持する。 ・再発又は難治性の多発性骨髄腫に適応する場合、レナデックスは20mgをday1,2,8,9,15,16,22,23で投与してもよい。(詳細はダラキューロの適正使用ガイドを参照すること) ・モンテルカストは、1サイクルのみ内服。	

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
<SC> DLd療法(3-6サイクル)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 15
②	レナデックス錠4mg	10錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 15
③	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 15
④	レブラミドカプセル5mg	5カプセル	経口	寝る前	day1-21
①	レナデックス錠4mg	10錠	経口	朝食後	day8, 22

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週(28日間)	3-6サイクル

その他(特記事項など)

- ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。
- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・レナリドミドは、クレアチニンクリアランスが30～50mL/minの患者では10mgへの減量を考慮する。また、毒性に応じて、15mg、10mg、5mgに調節する。
- ・75歳を超える又は過少体重(BMI: 18.5kg/m²未満)の患者にはレナデックスを20mg/週に減量してもよい。
- ・有害事象によりレナデックスの投与量が10mg/週未満に減量した場合でも、ダラキューロ投与前に最低10mgの投与を維持する。
- ・再発又は難治性の多発性骨髄腫に適応する場合、レナデックスは20mgをday1,2,8,9,15,16,22,23で投与してもよい。(詳細はダラキューロの適正使用ガイドを参照すること)

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
<SC> DLd療法(7サイクル以降)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1
②	レナデックス錠4mg	10錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1
③	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1
④	レブラミドカプセル5mg	5カプセル	経口	寝る前	day1-21
①	レナデックス錠4mg	10錠	経口	朝食後	day8, 15, 22

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週(28日間)	7サイクル以降

その他(特記事項など)

- ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。
- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・レナリドミドは、クレアチニンクリアランスが30～50mL/minの患者では10mgへの減量を考慮する。また、毒性に応じて、15mg、10mg、5mgに調節する。
- ・75歳を超える又は過少体重(BMI: 18.5kg/m²未満)の患者にはレナデックスを20mg/週に減量してもよい。
- ・有害事象によりレナデックスの投与量が10mg/週未満に減量した場合でも、ダラキューロ投与前に最低10mgの投与を維持する。
- ・再発又は難治性の多発性骨髄腫に適応する場合、レナデックスは20mgをday1,2,8,9,15,16,22,23で投与してもよい。(詳細はダラキューロの適正使用ガイドを参照すること)

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
<SC> DMPB療法(1サイクル)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 8, 15, 22, 29, 36
②	モンテルカスト錠10mg	1錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1
③	レナデックス錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 8, 15, 22, 29, 36
④	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 8, 15, 22, 29, 36
⑤	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m ² 2.5mg/mL	皮下注	ダラキューロ 投与終了後	day1, 8, 22, 29
⑥	アルケラン錠	9mg/m ²	経口		day1-4
⑦	プレドニン錠	60mg/m ²	経口		day2-4
①	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m ² 2.5mg/ml	皮下注		day4, 11, 25, 32

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
6週(42日間)	1サイクル

その他(特記事項など)

- ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。
- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。
- ・ボルテゾミブの用量は1.3mg/m²より開始し、毒性に応じて、1.0mg/m²、0.7mg/m²、投与中止に調節する。
- ・メルファランの用量は9mg/m²より開始し、毒性に応じて、6.75mg/m²、4.5mg/m²、投与中止に調節する。
- ・プレドニゾロンの用量は60mg/m²より開始し、毒性に応じて、45mg/m²、30mg/m²、投与中止に調節する。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
<SC> DMPB療法(2-9サイクル)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 22
②	レナデックス錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1, 22
③	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1, 22
④	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m2 2.5mg/mL	皮下注	ダラキューロ 投与終了後	day1, 22
⑤	アルケラン錠	9mg/m2	経口		day1-4
⑥	プレドニン錠	60mg/m2	経口		day2-4
①	ベルケイド 生理食塩水	1.3mg/m2 2.5mg/ml	皮下注		day8, 29

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
6週(42日間)	2-9サイクル
その他(特記事項など) ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。 ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。 ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。 ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。 ・ボルテゾミブの用量は1.3mg/m2より開始し、毒性に応じて、1.0mg/m2、0.7mg/m2、投与中止に調節する。 ・メルファランの用量は9mg/m2より開始し、毒性に応じて、6.75mg/m2、4.5mg/m2、投与中止に調節する。 ・プレドニゾロンの用量は60mg/m2より開始し、毒性に応じて、45mg/m2、30mg/m2、投与中止に調節する。	

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
<SC> DMPB療法(10サイクル以降)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg レスタミンコーワ錠10mg	2錠 5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1
②	レナデックス錠4mg	5錠	経口	ダラキューロ 開始60分前	day1
③	ダラキューロ配合皮下注	1800mg/15mL	皮下注	約3～5分	day1

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
4週(28日間)	10サイクル以降

その他(特記事項など)

- ・投与前検査として骨髄機能(血液検査)・肺機能(FEV1等)・輸血前検査を行うこと。
- ・Infusion reactionが発現した場合は適正使用ガイドを参考に対応すること。
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者の場合、投与後処置として気管支拡張薬、吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。
- ・ST合剤およびアシクロビルの予防内服を検討する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
SMILE療法	進行期NK/T細胞 リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1
②	メソトレキセート 生理食塩液	2000mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	6時間	day1
③	ロイコボリン 生理食塩液	15mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day2～4 (MTX投与開始30時間後より 6時間おきに計12回)
④	グラニセトロンバッグ3mg デキサート6.6mg	1袋 33mg/body	点滴 (側管)	30分	day2～4
⑤	イホマイド 生理食塩液	1500mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	2時間	day2～4
⑥	ウロミテキサン 生理食塩液	300mg/m ² 100mL	点滴 (側管)	30分	day2～4 イホマイド投与時、4、8時間後
⑦	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	2時間	day2～4
⑧	ロイナーゼ 生食250ml, 注射用水20ml	6000 IU/m ²	点滴 (側管)	2時間	day8, 10, 12, 14, 16, 18, 20
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週(28日間)			PDまで		

その他(特記事項など)

- ・治療前リンパ球数が500/ μ L以下では、治療実施を見送ることを考慮する。
- ・生理食塩水またはソルデム3A等でルート確保し、抗癌剤は全て側管から投与する。
- ・イホマイドによる出血性膀胱炎予防のため、1日2000mL以上程度の輸液を行い、尿のアルカリ化も行う。
- ・MTXに対するロイコボリンレスキューは他のレジメンに準じて行う。MTX血中濃度が低下するまではラシックスは避ける。
- ・ロイナーゼ投与の注意点はALLのレジメンに準じる。
- ・G-CSF製剤はday6より投与を開始し、WBC 5000/ μ L以上まで継続する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
G-CSF combined CA + CY (TBI +)	同種造血 幹細胞移植	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバック3mg	1袋	点滴	30分	day-5～-2
②	生理食塩液 キロサイド	500ml 2 g/m2	点滴	3時間（11時～）	day-5～-4
③	グラニセトロンバック3mg	1袋	点滴	30分	day-5～-2
④	生理食塩液 キロサイド	500ml 2 g/m2	点滴	3時間（23時～）	day-5～-4
⑤	エンドキサン メイロン7%注20ml 生理食塩液	60mg/kg 40ml 500ml	点滴	3時間	day-3～-2
⑥	ウロミテキサン注 生理食塩液	0.2ml/kg 50ml	点滴	30分	day-3～-2
⑦	ウロミテキサン注 生理食塩液	0.2ml/kg 50ml	点滴	30分	day-3～-2
⑧	ウロミテキサン注 生理食塩液	0.2ml/kg 50ml	点滴	30分	day-3～-2
1コースの期間 4日間			投与スケジュール及び総コース数 最初のCA開始12時間前から最後のCA終了時までの51時間 G-CSF 5μg/kg/24h持続点滴。エンドキサンはday-3～-2の10時に投与。ウロミテキサンはday-3～-2の10時,14時,18時の3回投与する(22時に4回目追加投与可)。		
その他(特記事項など) ①day-8～-6にTBI 12Gy照射後当レジメン開始。 ②中枢神経障害を防ぐため、キロサイド点滴は3時間を厳守。角膜・結膜障害の対策としてday-5～-3まで副腎皮質ホルモン剤(リンデロン等)を1日5～6回点眼。体液貯留傾向に注意。 ③嘔気の合併が高率であるため、グラニセトロンは1日2回点滴。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
THP-COP21(高齢者用)	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	生理食塩液250mL	1袋	点滴 (本体)	40mL/H 残液廃棄	day1
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1
③	オンコビン 生理食塩液	1mg/m ² (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
④	ピノルビン 5%ブドウ糖液100mL	30mg/m ² 1瓶	点滴 (側管)	30分	day1
⑤	エンドキサン 生理食塩液500mL	500mg/m ² 1袋	点滴 (側管)	120分	day1
⑥	プレドニン錠	30mg/m ²	経口		day1～5
1コースの期間 21日間(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 1投2休(プレドニンはday1から5日間連続で内服)の3週間を1コースとして繰り返す。 6コース実施(最大8コースまで実施する場合有り)		
その他(特記事項など) ・標準的なコース数は6コースとし、患者の状態に応じ、最大8コースまでの実施とする。 ・生理食塩液でルート確保し、抗がん剤はすべて側管から投与する(A型ポンプは使用しない)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
THP-COP21	悪性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	40mL/H 残液廃棄	day1
②	グラニセトロンバッグ 3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day1
③	オンコビン 生理食塩液	1.4mg/㎡ (最大2.0mg/body) 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
④	ピノルビン 5%ブドウ糖液	50mg/㎡ 100mL	点滴 (側管)	30分	day1
⑤	エンドキサン 生理食塩液	750mg/㎡ 500mL	点滴 (側管)	120分	day1
⑥	プレドニン錠	60～100mg/body	経口		day1～5
1コースの期間 21日間(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 1投2休(プレドニンはday1から5日間連続で内服)の3週間を1コースとして繰り返す。 6コース実施 (最大8コースまで実施する場合有り)		
その他(特記事項など) ・標準的なコース数は6コースとし、患者の状態に応じ、最大8コースまでの実施とする。 ・生理食塩液でルート確保し、抗がん剤はすべて側管から投与する(A型ポンプは使用しない)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
VAD療法	多発性骨髄腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ 3mg	1袋	点滴	30分	day1～day4
②	オンコビン ドキソルビシン デキサート注射液 生理食塩液	0.4mg/body 9mg/m ² 40mg/body 500ml	持続点滴	24時間	day1～day4
③					
④					
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日			2～4コース		

その他(特記事項など)

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
VEN+AZA (1サイクル目)	急性骨髄性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法 (進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロン点滴静注パック	3mg/100mL	点滴	30分	day1-7
②	ビダーザ注射用100mg 注射用水	75mg/m2	皮下		day1-7
③	ベネクレクタ錠	100mg	内服		day1
④	ベネクレクタ錠	200mg	内服		day2
⑤	ベネクレクタ錠	400mg	内服		day3-28
⑥					
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			1サイクル		
その他（特記事項など）					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
VEN+AZA (2サイクル目-)	急性骨髄性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロン点滴静注パック	3mg/100mL	点滴	30分	day1-7
②	ビダーザ注射用100mg 注射用水	75mg/m2	皮下		day1-7
③	ベネクレクタ錠	400mg	内服		day1-28
④					
⑤					
⑥					
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			PDまで		
その他（特記事項など）					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
VEN+low dose Ara-C (1サイクル目)	急性骨髄性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	キロサイド注	20mg/m2	皮下		day1-10
②	ベネクレクタ錠	100mg	内服		day1
③	ベネクレクタ錠	200mg	内服		day2
④	ベネクレクタ錠	400mg	内服		day3
⑤	ベネクレクタ錠	600mg	内服		day4-28
⑥					
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			1サイクル		
その他（特記事項など）					
腫瘍崩壊症候群予防のため白血球が25000/uL未満となるよう、ヒドロキシカルバミドなどによる腫瘍量減量を考慮する。 CYP3A阻害剤と併用する場合には、ベネクレクタの血中濃度が上昇するおそれがあるため、用量を調整する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
VEN+low dose Ara-C (2サイクル目-)	急性骨髄性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	キロサイド注	20mg/m2	皮下		day1-10
②	ベネクレクタ錠	600mg	内服		day1-28
③					
④					
⑤					
⑥					
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			PDまで		
その他（特記事項など）					
CYP3A阻害剤と併用する場合には、ベネクレクタの血中濃度が上昇するおそれがあるため、用量を調整する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
VMP療法 (once-week)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	50ml	点滴	本体用 40mL/h	1、8、15、22日目
②	生理食塩水 ベルケイド	20ml 1.3 mg/m ²	静注	緩徐に 静注	1、8、15、22日目
③	メルファラン錠	6～9mg/m ²	経口		1～4日目
④	プレドニゾン錠	40～60mg/m ²	経口		1～4日目
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
35日(5週間)			上記スケジュールで5週間を1コースとし、 5コース行う。		

その他(特記事項など)

- ・メルファランを使用するため、今後自家移植を行う症例での使用は避ける。
- ・VMP (twice week)に引き続きVMP (once week)を行う場合や、副作用、合併症などからVMP(once week)で開始することも可能。
- ・総コース数については治療効果や副作用発現をみながら適宜検討する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
VMP療法 (twice-week)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	50ml	点滴	本体用 40mL/h	1、4、8、11、 22、25、29、32日目
②	生理食塩水 ベルケイド	20ml 1.3 mg/m ²	静注	緩徐に 静注	1、4、8、11、 22、25、29、32日目
③	メルファラン錠	6～9mg/m ²	経口		1～4日目
④	プレドニゾン錠	40～60mg/m ²	経口		1～4日目
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
42日(6週間)			上記スケジュールで6週間を1コースとし、 1コースのみ行う。		

その他(特記事項など)

- ・メルファランを使用するため、今後自家移植を行う症例での使用は避ける。
- ・通常は1コースのみ行い、治療効果や副作用発現をみながらVMP(once week)に移行する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
VR-CAP療法	マントル細胞リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始前30分	day1
②	ソルコーテフ 生理食塩液	200 mg 50 mL	点滴 (側管)	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375 mg/m ² 1 mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day1
④	グラニセトロンバック 3mg	1袋	点滴 (側管)	30分	day2
⑤	ドキシソルビシン 生理食塩液	50 mg/m ² 100 mL	点滴 (側管)	30分	day2
⑥	エンドキサン 生理食塩液	750 mg/m ² 250 mL	点滴 (側管)	120分	day2
⑦	ベルケイド	1.3 mg/m ²	皮下注		day2, 5, 9, 12
⑧	プレドニン	100 mg/body	経口		day2-6
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			6～8コース		

その他(特記事項など)

- ・リツキサンは初回投与では25mL/hから開始し、1時間後に100mL/hに増量、さらに1時間後に200mL/hに増量して点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hから開始し、1時間後に200mL/hに増量点滴とする。
- ・投与量調整は、各薬剤の減量規定に基づく。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
VRd (twice week)療法	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	生理食塩液20mL ベルケイド	1A 1.3mg/m2	皮下注		day1,4,8,11
②	レナリドミド	25mg/body	経口		day1-14
③	デカドロン錠	20mg	経口		day1,2,4,5,8,9,11,12
④					
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			8コースまで		
その他(特記事項など)					
・総コース数については治療効果や副作用発現をみながら適宜検討する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
VRD療法(Once Week)	多発性骨髄腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 ベルケイド	20mL 1.3mg/m2	皮下注		1、8、15日目
②	レナリドミド	25mg/body	経口		1～14日目
③	デカドロン錠	40mg	経口		1、8、15日目
④					
⑤					
1コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 上記スケジュールで3～4週間を1コースとし、初回治療時は4コース、再発難治症例にはPDまで行う		
その他(特記事項など) 1コースの日数については治療効果や副作用の発現状況をみながら適宜検討する					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
VRD療法	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水 ベルケイド	適量(※) 1.3mg/m2	皮下注		1、4、8、11日目
②	レナリドミド	25mg/body	経口		1～14日目
③	デカドロン錠	20mg (※)	経口		1、2、4、5日目 8、9、11、12日目
④					
⑤					
1コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 上記スケジュールで3週間を1コースとし、4～8コース行う。		
その他(特記事項など) ・総コース数については治療効果や副作用発現をみながら適宜検討する。 ・ベルケイドは2,5mg/mLに調製して施行する。 ・デカドロンは1～4コースは20mg/body、5～8コースは10mg/bodyで施行する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
VTD療法 (once-week)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	50mL	点滴	30分	1、8、15、22日目
②	生理食塩水 ベルケイド	20mL 1.3 mg/m ²	静注	緩徐に	1、8、15、22日目
③	サレドカプセル	100mg	経口		1～35日
④	デキサメサゾン	40mg	経口		1,2,8,9,15, 16,22,23日目
⑤					
⑥					
1コースの期間 35日			投与スケジュール及び総コース数		
			上記スケジュールで5週間を1コースとする		

その他(特記事項など)

初発および再発、難治骨髄腫に使用する。自家移植後の維持療法としても使用する。
 総コース数については治療効果や副作用発現をみながら適宜検討する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
VTD療法 (twice-week)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	50ml	点滴	30分	1、4、8、11日目
②	生理食塩水 ベルケイド	20ml 1.3 mg/m ²	静注	緩徐に	1、4、8、11日目
③	サレドカプセル	100mg	経口		1～14日
④	サレドカプセル	200mg	経口		15～21日
⑤	デキサメサゾン	40mg	経口		1,2,4,5,8,9,11,12日目
⑥					
1コースの期間 21日			投与スケジュール及び総コース数		
			上記スケジュール3週間を1コースとし、3コース		

その他(特記事項など)

初発および再発、難治骨髄腫に使用する。自家移植前の寛解導入療法として使用されるが、再発、難治症例でも使用可能。
 総コース数については治療効果や副作用発現をみながら適宜検討する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
VTD-PACE療法 (寛解導入療法)	再発・難治性の 多発性骨髄腫、 形質細胞性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ベルケイド 生理食塩液	1.0mg/m2 20ml	皮下注		day 1, 4, 8, 11
②	サレド	200mg/body	経口		day 4-7
③	デカドロン錠	40mg	経口		day 4-7
④	グラニセトロンバック3mg	1袋	点滴	30分	day 4-7
⑤	生理食塩液 ドキシソルビン	50ml 10mg/m2	点滴	15分	day 4-7
⑥	エンドキサン シスプラチン 生理食塩液	400mg/m2 10mg/m2 500ml	持続 点滴	24時間持続	day 4-7
⑦	エトポシド 生理食塩液	40mg/m2 1000mL	持続 点滴	24時間持続	day 4-7
1コースの期間 次コースは血小板数が5万以上に回復してから開始 (8週間以内)			投与スケジュール及び総コース数 原則2コース		
その他(特記事項など) 総コース数については治療効果や副作用発現をみながら適宜検討する。 可能なら血球回復期に自己末梢血幹細胞採取を行う。 次コースは可能であれば8週以内に、血小板5万/μL以上に回復した時点で開始するが、その間以下の治療を継続する。 デカドロン錠20mg/日 day1-4、サレド50mg/日、連日内服を21週期で行う。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
VTD-PACE療法 (地固め療法)	再発・難治性の 多発性骨髄腫、 形質細胞性白血 病	■ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ベルケイド 生理食塩液	1.0mg/m2 20mL	皮下注		day 1, 4, 8, 11
②	サレド	200mg/body	経口		day 1-4
③	デカドロン錠	40mg	経口		day 1-4
④	グラニセトロンバック3mg	1袋	点滴	30分	day 1-4
⑤	生理食塩液 ドキシソルビン	50ml 7.5mg/m2	点滴	15分	day 1-4
⑥	エンドキサン シスプラチン 生理食塩液	300mg/m2 7.5mg/m2 500ml	持続 点滴	24時間持続	day 1-4
⑦	エトポシド 生理食塩液	30mg/m2 1000mL	持続 点滴	24時間持続	day 1-4
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
次コースは血小板数が5万以上に回復してから開始			原則2コース		
その他(特記事項など)					
・総コース数については治療効果や副作用発現をみながら適宜検討する。 ・次コースは可能であれば8週以内に、血小板5万/ μ L以上に回復した時点で開始するが、その間以下の治療を継続する。 デカドロン錠20mg/日 day1-4、サレド50mg/日、連日内服を21週期で行う。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Weekly Obinutuzumab	CD20陽性 濾胞性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術後化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート 生理食塩液	19.8mg 50mL	点滴	全開	day1
②	生理食塩液	100mL	点滴	60分	day1
③	カロナール錠 レスタミンコーワ錠	500mg 5錠	経口	ガザイバ開始 30分前	day1
④	ガザイバ 生理食塩液	1000mg 250mL(溶液総量)	点滴	195分	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
2ヶ月			2年間		

その他(特記事項など)

- ・ガザイバは前回の投与でGrade 2以上のinfusion reactionが発現しなかった場合は、25mL/時で投与を開始し、30分毎に25mL/時ずつ、最大100mL/時まで上げることができる。
- ・蛋白微粒子を認めることがあるので、インラインフィルターを通して投与する。
- ・デキサート19.8mgの投与はガザイバ投与1時間前までに投与を完了する。
- ・カロナールとレスタミンコーワはガザイバ投与の30分以上前に投与を完了する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Weekly RTX (Zevalin前投与)	再発・難治性の 低悪性度リンパ 腫・マントル細胞リ ンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミン錠10mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day-6, 1
②	ソル・コーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	30分	day-6, 1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	250mg/m ² 1mg/mL	点滴 (側管)	約240分	day-6, 1
1コースの期間 90Y Ibritumomab tiuxetan投与する1週間前に、 111In Ibritumomab tiuxetanを投与し、 異常集積ないかを確認			投与スケジュール及び総コース数 1回投与のみ		
その他(特記事項など) ・生理食塩液でルート確保し、抗がん剤は全て側管から投与する。 ・リツキサン前投与は、治療目的でなく、副作用軽減目的である。 ・リツキサンはこれまでinfusion reaction等の副作用を生じていなければ、100mL/hrから開始し、1時間 後に200mL/hrに増量点滴とする。 ・リツキサン投与終了後4時間以内に111In Ibritumomab tiuxetan、90Y Ibritumomab tiuxetanを投与する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Weekly RTX	悪性リンパ腫 CD20陽性B細胞 性リンパ増殖性疾 患	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ注 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m ² 1mg/mL	点滴	約240分	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
7日間(1週間)			weeklyで繰り返す 4～8コース実施		
その他(特記事項など)					
・リツキサンは最初の1時間は100mL/hで開始し、以後200mL/hで点滴する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
アザシチジン 7Days	・ 骨髄異形成症候群 ・ 急性骨髄性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	グラニセトロン点滴静注バック	3mg/100mL	点滴	30分	day1-7
②	ビダーザ注射用100mg 注射用水	75mg/m ²	皮下		day1-7
③					
④					
⑤					
⑥					
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			PDまで		

その他（特記事項など）

ビダーザ1バイアルにつき注射用水「4mL」を注入し、バイアルを激しく振り混ぜて均一に混濁する。
懸濁液を冷蔵条件下で8時間まで保存することができる。室温であれば、30分以内に投与すること。
ビダーザ投与30分前にグラニセトロン静注バックは終了すること。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ビダーザ (7 days)	骨髄異形成症候群	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロン静注バック	1袋	点滴	30分	day1-7
②	ビダーザ	75mg/m2	皮下		day1-7
③					
④					
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			ビダーザ7日間連日投与後21日間休薬 (1サイクル)		
その他(特記事項など)					
1バイアルにつき注射用水「4ml」を注入し、バイアルを激しく振り混ぜて均一に混濁。懸濁液を冷蔵条件下で8時間まで保存することができる。室温であれば、30分以内に投与すること。					
ビダーザ投与30分前にグラニセトロン静注バックは終了すること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
アザシチジン(5days)	骨髄異形成症候群	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg 又はナゼアOD	1袋 1錠	点滴又は 内服	30分	day1～5
②	アザシチジン 注射用水	75mg/m ² 適量	皮下		day1～5
③					
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間 28日(4週間)			投与スケジュール及び総コース数 5日連日投与後23日休薬を1コース PDまで継続		
その他(特記事項など) ・1バイアルにつき注射用水4mLを注入し、バイアルを激しく振り混ぜて均一に混濁。 ・懸濁液は冷所8時間まで保存可。室温であれば30分以内に投与すること。 ・5HT3拮抗薬の投与又は内服はビターザ投与30分前に終了すること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
アザシチジン(7days)	骨髄異形成症候群	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1～7
②	アザシチジン 生理食塩液	75mg/m ² 50mL	点滴	10分	day1～7
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1～7
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間 28日(4週間)			投与スケジュール及び総コース数 7日連日投与後21日休薬を1コース PDまで継続		
その他(特記事項など) ・調製から1時間以内に投与終了すること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
イノツズマブオゾガマイシン単剤 (投与1サイクル目および寛解せずの1日目)	再発又は難治性の CD22陽性の急性 リンパ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg カロナール錠500mg	5錠 2錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	グラニセトロンバッグ ソル・メルコート	100mL 125mg	点滴	30分	day1
③	ベスポンサ 注射用水 生理食塩液	0.8mg/m ² 1Vにつき4mL 50mL	点滴	1時間	day1
④	生理食塩液 (投与後フラッシュ)	50mL	点滴		day1
1コースの期間 投与1サイクル目(原則21日間) 投与2～6サイクル目(各サイクル28日間)			投与スケジュール及び総コース数 1～6サイクル		

その他(特記事項など)

- ・Infusion reaction予防のため、点滴開始30分前にレスタミンコーワ錠10mg5錠とカロナール500mg2錠を内服。投与開始時から投与終了4時間はバイタルサインをモニターする。
- ・VOD/SOSの予防として、ウルソデオキシコール酸の内服を検討する。
- ・腫瘍崩壊症候群への対策として、アロプリノール内服などを検討する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
イノツズマブオゾガマイシン単剤 (投与1サイクル目の8日目と15日目および寛解例)	再発又は難治性の CD22陽性の急性 リンパ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg カロナール錠500mg	5錠 2錠	経口	点滴開始 30分前	day1,8,15
②	グラニセトロンバッグ ソル・メルコート	100mL 125mg	点滴	30分	day1,8,15
③	ベスポンサ 注射用水 生理食塩液	0.5mg/m ² 1Vにつき4mL 50mL	点滴	1時間	day1,8,15
④	生理食塩液 (投与後フラッシュ)	50mL	点滴		day1,8,15
1コースの期間 投与1サイクル目(原則21日間) 投与2～6サイクル目(各サイクル28日間)			投与スケジュール及び総コース数 1～6サイクル		

その他(特記事項など)

- ・Infusion reaction予防のため、点滴開始30分前にレスタミンコーワ錠10mg5錠とカロナール錠500mg2錠を内服する。投与開始時から投与終了4時間はバイタルサインをモニターする。
- ・VOD/SOSの予防として、ウルソデオキシコール酸の内服を検討する。
- ・腫瘍崩壊症候群への対策として、アロプリノール内服などを検討する。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

プロトコール名	対象がん種	適応分類
イブルチニブ+リツキシマブ療法(1サイクル目)	原発性マクログロブリン血症及びリンパ形質細胞リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始時	day1,8,15,22
②	ソル・メドロール注射用生理食塩液	40mg 50mL	点滴	30分	day 1,8,15,22
③	リツキシマブ点滴静注 ブドウ糖注5%	375 mg/m ² 1mg/mL	点滴	約210分	day 1,8,15,22
④	イブルチニブ	420mg/body	経口		day 1-28
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 1サイクル		
その他(特記事項など) ・イブルチニブ: Grade3以上の副作用が発現した場合にはGrade1以下に回復するまで休薬。再開時は適正使用ガイドを参考に減量する ・血清IgM値が4000mg/dL以上の場合にはリツキシマブ投与前の血漿交換を検討 PMID: 29856685, 34606378					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

プロトコール名		対象がん種	適応分類		
イブルチニブ+リツキシマブ療法 (2-4サイクル, 6サイクル目以降)		原発性マクログロ ブリン血症及びリ ンパ形質細胞リン パ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他		

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	イブルチニブ	420mg/body	経口		day 1-28
1コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数		
その他(特記事項など) ・イブルチニブ: Grade3以上の副作用が発現した場合にはGrade1以下に回復するまで休薬。再開時は適正 使用ガイド参考に減量する PMID: 29856685, 34606378					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

プロトコール名	対象がん種	適応分類
イブルチニブ+リツキシマブ療法(5サイクル目)	原発性マクログロブリン血症及びリンパ形質細胞リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg	5錠	経口	点滴開始時	day1,8,15,22
②	ソル・メドロール注射用 生理食塩液	40mg 50mL	点滴	30分	day 1,8,15,22
③	リツキシマブ点滴静注 ブドウ糖注5%	375 mg/m ² 250ml(溶液総量)	点滴	約90分	day 1,8,15,22
④	イブルチニブ	420mg/body	経口		day 1-28
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			1サイクル		
その他(特記事項など)					
・イブルチニブ: Grade3以上の副作用が発現した場合にはGrade1以下に回復するまで休薬。再開時は適正使用ガイドを参考に減量する					
PMID: 29856685, 34606378					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
エプコリタマブ C1	急性骨髄性白血病の地固め療法, 又は難治性再発性急性骨髄性白血病の再寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	エプコリタマブ	0.16mg	皮下注		day1
②	エプコリタマブ	0.8mg	皮下注		day8
③	エプコリタマブ	48mg	皮下注		day15,22
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間					
その他(特記事項など)					
CRS予防として、エプコリタマブ投与30-120分前に副腎皮質ステロイド (PSL 100mg)、抗ヒスタミン薬(ジフェンヒドラミン 50mg etc)、アセトアミノフェン 1000mgを経口または静脈内投与すること。本薬剤の投与時はCRS、ICANSなど特有の有害事象に十分に注意すること。CRSが生じた場合は適切にトシリズマブを使用するとともに、G3(Lee)以上の場合はICUでの加療も検討すること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
エプコリタマブ C2-3	急性骨髄性白血病の地固め療法, 又は難治性再発性急性骨髄性白血病の再寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
③	エプコリタマブ	48mg	皮下注		day1,8,15,22
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間					
その他(特記事項など)					
CRS予防として、エプコリタマブ投与30-120分前に副腎皮質ステロイド（PSL 100mg）、抗ヒスタミン薬（ジフェンヒドラミン 50mg etc）、アセトアミノフェン 1000mgを経口または静脈内投与すること。本薬剤の投与時はCRS、ICANSなど特有の有害事象に十分に注意すること。CRSが生じた場合は適切にトシリズマブを使用するとともに、G3(Lee)以上の場合はICUでの加療も検討すること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
エプコリタマブ C4-9	急性骨髄性白血病の地固め療法, 又は難治性再発性急性骨髄性白血病の再寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
③	エプコリタマブ	48mg	皮下注		day1,15
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間					
その他(特記事項など)					
CRS予防として、エプコリタマブ投与30-120分前に副腎皮質ステロイド（PSL 100mg）、抗ヒスタミン薬（ジフェンヒドラミン 50mg etc）、アセトアミノフェン 1000mgを経口または静脈内投与すること。本薬剤の投与時はCRS、ICANSなど特有の有害事象に十分に注意すること。CRSが生じた場合は適切にトシリズマブを使用するとともに、G3(Lee)以上の場合はICUでの加療も検討すること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
エプコリタマブ C10以降	急性骨髄性白血病の地固め療法, 又は難治性再発性急性骨髄性白血病の再寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
③	エプコリタマブ	48mg	皮下注		day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間					
その他(特記事項など)					
CRS予防として、エプコリタマブ投与30-120分前に副腎皮質ステロイド（PSL 100mg）、抗ヒスタミン薬（ジフェンヒドラミン 50mg etc）、アセトアミノフェン 1000mgを経口または静脈内投与すること。本薬剤の投与時はCRS、ICANSなど特有の有害事象に十分に注意すること。CRSが生じた場合は適切にトシリズマブを使用するとともに、G3(Lee)以上の場合はICUでの加療も検討すること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
エボルトラ単剤	再発・難治性の 急性リンパ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1～day5
②	エボルトラ 生理食塩液	52mg/m2 250mL	点滴	2時間	day1～day5
③					
④					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
14日間			PDまで		
その他(特記事項など)					
・23歳以上の成人で使用する際には30mg/m2へ減量や投与間隔を延長するなど、投与方法を検討すること。					

がん薬物療法レジメン

申請診療科	血液内科	申請日	令和6年4月20日	
記入医師名	堀 善和	登録(改訂)日		
診療科長名	園木 孝志	登録番号	85-6-059	

プロトコール名	対象がん種	適応分類
エルラナタマブ D1,4,8	再発難治、MM	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	エルラナタマブ	12mg	SC		day1
①	エルラナタマブ	32mg	SC		day4
①	エルラナタマブ	76mg	SC		day8
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
8日間					
その他(特記事項など) CRS予防として、Day1,4,8のエルラナタマブ投与60分前に副腎皮質ステロイド(Dex 20mg)、抗ヒスタミン薬(ジフェンヒドラミン 25mg etc)、アセトアミノフェン(プロトコル上は650mg)を経口または静脈内投与すること。本薬剤の投与時は、CRS、ICANSなど特有の有害事象に十分に注意すること。CRSが生じた場合は適切にトシリズマブを使用するとともに、G3以上の場合はICUでの加療も検討すること。 PMID:37582952					

がん薬物療法レジメン

申請診療科	血液内科	申請日	令和6年4月20日	
記入医師名	堀 善和	登録(改訂)日		
診療科長名	園木 孝志	登録番号	85-6-059	

プロトコール名	対象がん種	適応分類
エルラナタマブ_76mg	再発難治、MM	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	エルラナタマブ	76mg	SC		day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
7日間					
その他(特記事項など) 投与開始3週間～24週間までは週1回、25週間目以降は2週間に1度投与する。CRS、ICANSなど特有の有害事象に十分に注意すること。前投薬は必須ではない。 PMID:37582952					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
エンドキサンプレフェーズ療法	急性リンパ性白血病・悪性リンパ腫の寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
側①	エンドキサン 生理食塩水500ml	200 mg/m ²	点滴	3時間	day 1からday 5までの 5日間
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
5日間			1コース		

その他(特記事項など)

生食でルートキープし、抗がん剤等の薬剤は全て側管から投与する。
 末梢静脈路より投与する場合はA型ポンプは使用しない。
 本レジメンに引き続いてエンドキサンの入ったレジメンを行う場合、エンドキサンを減量して投与する

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
オフアツムマブ療法(2回目以降)	再発・難治性 慢性リンパ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg カロナール400mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day1
③	プレドニン 生理食塩液	100mg 50mL	点滴 (側管)	60分	day1
(*)	ソルコーテフ 生理食塩液	200mg 50mL	点滴 (側管)	60分	day1
④	アーゼラ 生理食塩液	2000mg 1000mL	点滴 (側管)	約240分	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
7日間			2～8回目は週1回 その後4週毎に1回を計12回まで		
その他(特記事項など)					
・前投薬のステロイドには2回目はプレドニンを使用する。 (*)3回目以降(重度のinfusion reactionを認めなかった場合)はソルコーテフを使用する。 ・投与速度は、25mL/hより開始し、バイタルサインに問題がなければ、30分毎に50mL/h→100mL/h→200mL/h→300mL/h→400mL/hに増量できる。 ・infusion reactionが発現した場合には投与を中断し、状態が安定すれば中断前の半分の速度で再開する。infucion reactionが重度の場合は、12mL/hより再開する。 ・インラインフィルター(0.2μm)を使用する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
オフアツムマブ療法(初回)	再発・難治性 慢性リンパ性白血 病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠10mg カロナール400mg	5錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	生理食塩液	250mL	点滴 (本体)	20mL/H 残液破棄	day1
③	プレドニン 生理食塩液	100mg 50mL	点滴 (側管)	60分	day1
④	アーゼラ 生理食塩液	300mg 1000mL	点滴 (側管)	約300分	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
7日間			1コース		
その他(特記事項など)					
・投与速度は、12mL/hより開始し、バイタルサインに問題がなければ、30分毎に25mL/h→50mL/h→100mL/h→200mL/h→300mL/h→400mL/hに増量できる。 ・infusion reactionが発現した場合には投与を中断し、状態が安定すれば中断前の半分の速度で再開する。infucion reactionが重度の場合は、12mL/hより再開する。 ・インラインフィルター(0.2 μ m)を使用する。					

がん薬物療法レジメン

プロトコール名	対象がん種	適応分類
キザルチニブ+HD-AraC療法 60歳以上	急性骨髄性白血病の地固め療法, 又は難治性再発性急性骨髄性白血病の再寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	パロノセトロンバッグ0.75mg ソル・コーテフ	1袋 100mg	点滴	30分	day1
②	ソル・コーテフ 生食50mL	100mg 1び	点滴	30分	day 1 3 5
③	キロサイド 生食500ml	1500mg/m2 1袋	点滴	3時間	day 1 3 5
④	ソル・コーテフ 生食50mL	100mg 1瓶	点滴	30分	day 1 3 5
⑤	キロサイド 生食500ml	1500mg/m2 1袋	点滴	3時間	day 1 3 5
⑥	キザルチニブ	35.4mg/day	内服		day 6-19
1コースの期間 19日間			投与スケジュール及び総コース数 地固め療法として3コース施行する.		
その他(特記事項など) 大量AraCレジメンであり、ステロイド点眼を併用すること 臨床試験では75歳までの患者が含まれている PMID:37116523					

がん薬物療法レジメン

プロトコール名	対象がん種	適応分類
キザルチニブ+HD-AraC療法 60歳未満	急性骨髄性白血病の地固め療法, 又は難治性再発性急性骨髄性白血病の再寛解導入療法	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	パロノセトロンバッグ0.75mg ソル・コーテフ	1袋 100mg	点滴	30分	day1
②	ソル・コーテフ 生食50mL	100mg 1び	点滴	30分	day 1 3 5
③	キロサイド 生食500ml	3000 mg/m2 1袋	点滴	3時間	day 1 3 5
④	ソル・コーテフ 生食50mL	100mg 1瓶	点滴	30分	day 1 3 5
⑤	キロサイド 生食500ml	3000mg/m2 1袋	点滴	3時間	day 1 3 5
⑥	キザルチニブ	35.4mg/day	内服		day 6-19
1コースの期間 19日間			投与スケジュール及び総コース数 地固め療法として3コース施行する.		
その他(特記事項など) 大量AraCレジメンであり、ステロイド点眼を併用すること PMID:37116523					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
クラドリビン療法	ヘアリーセル 白血病 再発・再燃・治療抵抗 性の低悪性度・濾胞 性・マントル細胞リン パ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロン	1袋	点滴	30分	day1～7
②	ロイスタチン 生理食塩液	0.09 mg/kg 500 mL	点滴	24時間	day1～7
③					
④					
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			6コース		
その他(特記事項など)					
・ヘアリーセルは白血病に対しては、基本的に1コースとする。1コース目で奏効がえられた症例に対して2コース目を行う場合は、少なくとも1ヶ月以上の間隔をあける。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ダリナパルシン	再発又は難治性 末梢性 T細胞リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	グラニセトロン	1袋	点滴 (側管)	30分	day1-5
②	ダリナパルシン 生理食塩液	300mg/m ² 250ml	点滴 (側管)	60分	day1-5
1 コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 規定なし 中央値3(1-39) サイクル投与された		

その他（特記事項など）

5日間連続点滴した後、16日間休薬する。QT延長に留意する。

PMID:なし 申請時点では、ASHの抄録（Asian Multinational Phase II Study of Darinaparsin in Patients with Relapsed or Refractory Peripheral T-Cell Lymphoma）のみ報告されていた。

《

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
デニロイキンジフチトクス単剤	再発又は難治性 末梢性 T細胞リンパ腫 皮膚T細胞性リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カロナール錠500mg ナゼアOD錠0.1mg	1錠 1錠	経口	点滴開始時	day1-5
②	ポララミン注5mg デキサート注射液 1.65mg/0.5mL 生理食塩液	1A 2A 250mL	点滴	30分	day1-5
③	レミトロ点滴静注用300 μ g 注射用水 生理食塩液	9 μ g/kg 2.1mL 100mL	点滴	60分	day1-5
④	生理食塩液	250mL	点滴	30分	day1-5
1コースの期間 3週(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 最大8サイクル		

その他(特記事項など)

- ・再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫、皮膚T細胞性リンパ腫患者に適応する。
- ・毛細血管漏出症候群があらわれることがあるので、血清アルブミン、血圧、脈拍、体重に注意すること。
- ・CK、クレアチニン、肝機能検査、血液学的検査を行うこと。
- ・視力障害、色覚異常があらわれることがあるので、眼科紹介の上、投与開始前及び投与期間中は眼科検査を実施し、患者の状態を十分に観察すること。
- ・レミトロは3 μ g/mL以上の濃度となるように希釈すること。
(体重33.3kg以下の患者に使用する場合は、生理食塩液50mLへの変更を要する。)

(別紙2)

がん化学療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ドキシル (KS)	カポジ肉腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート1.65mg ポララミン注 生理食塩水	2A 1A 50mL	点滴	全開	day1
②	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1
③	ドキシル 5%ブドウ糖	20mg/m ² 250mL(※)	点滴	ドキシル1mg/分 で点滴	day1
④	5%ブドウ糖	100mL	点滴	ドキシルと同 じ速度でフ ラッシュ	day1
⑤					
1コースの期間 21日			投与スケジュール及び総コース数 3～6クール(反応に応じて増減) ドキシルの総投与量500mg/m ² を超えないこと		
その他(特記事項など) ・ドキシル≥90mg/bodyの時は、5%ブドウ糖500mLに溶解し点滴する。 ・点滴ルート内のドキシルが流れきるまでは、全開でのフラッシュは禁。 ・ドキシルはフィルターを通過しないので、使用しないこと。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
トレアキシン単独	低悪性度B細胞性NHL マントル細胞リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg デキサート	1袋 6.6mg	点滴	30分	day1
②	デキサート 生理食塩液	6.6mg 100mL	点滴	30分	day2
②	トレアキシシ 注射用水 生理食塩液	120mg/㎡ 40mL/1バイアル 250mL(溶液総量)	点滴	60分	day1,2
④	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1,2
⑤					
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 2日間連続投与後、19日休薬 PDまで		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ニボルマブ	ホジキンリンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	オプジーボ 生理食塩液	240mg/body 100mL	点滴	30分	day1
②	生理食塩液（フラッシュ）	50mL	点滴	15分	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
14日（2週間）			PDまで継続		
その他（特記事項など）					
インラインフィルター（0.2または0.22 μ m）を使用して投与する。 infusion reactionを認めた場合は、次サイクルより前投薬の追加を考慮する。 4週間間隔で投与する場合は、480mg/bodyとする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ネララビン単独療法	再発・難治性の T細胞性急性リン パ性白血病/リン パ芽球性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
側①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day 1, 3, 5
側②	アラノンジー	1500 mg/m2	点滴	120分	day 1, 3, 5
側③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day 1, 3, 5
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			PDまで		
その他(特記事項など)					
投与方法の詳細・注意点は適正使用ガイドを参照して下さい。必要に応じてアロプリノール(ザイロリック等)300mg/日を寛解導入前より経口投与し、2000～3000mL/㎡/日の補液を行う。化学療法中は1日尿量を2000mL以上を確保する。炭酸水素ナトリウム(メイロン等)投与などにより尿pHを7.0以上に保つ。アラノンジーは希釈せず、専用の点滴静注用バッグに充填して投与する。アラノンジー投与時はメインルートを止めて投与する。					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ビンクリスチン単剤	白血病/悪性リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	ビンクリスチン 生理食塩液	0.05mg/kg 50ml	点滴 (側管)	全開投与	day1
1コースの期間 7日間			投与スケジュール及び総コース数 規定なし		

その他（特記事項など）

白血病/悪性リンパ腫の腫瘍量抑制のためビンクリスチンを週に1度投与する。
最大投与量、2mgを超えないこととする。

《

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ファリーダック+BD (twice-week)	多発性骨髄腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ベルケイド 生理食塩液	1.3mg/m ² 20mL	皮下注		day1,4,8,11
②	ファリーダックカプセル	20mg	経口		day1,3,5,8,10,12
③	デキサメタゾン	20mg	経口		day1,2,4,5,8,9, 11,12
④					
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			上記スケジュール3週間を1コースとし、 8-16コース又はPDまで		

その他(特記事項など)

再発難治骨髄腫に使用する

9コース以上継続投与する場合は、適正使用ガイドを参照し適切に減量する

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
フィルデシン単独	AML、CML、ALL CLL、ML	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	フィルデシン 生理食塩液	3mg/body 20mL	静注	ゆっくり	day 1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
7日間(1週間)			PDまで		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
プララトレキセート単剤	再発又は難治性 末梢性 T細胞リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート 生理食塩液	3.3mg 50mL	点滴 (本体)	全開	day1, 8, 15, 22, 29, 36
②	プララトレキセート 生理食塩液	30mg/m ² 50mL	点滴 (側管)	全開	day1, 8, 15, 22, 29, 36
③	生理食塩液 (投与後フラッシュ)	50mL	点滴 (本体)	フラッシュ	day1, 8, 15, 22, 29, 36
1 コースの期間 7週(49日間)			投与スケジュール及び総コース数 PDとなるまで継続		

その他（特記事項など）

- ・再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫患者に適応する。
- ・治療開始の10日以上前から葉酸（調剤用パンビタン末2.0g連日内服、投与終了日から30日後まで）及びビタミンB12（メチコバル注射液500ug2A、8-10週ごと筋注）を投与する。
- ・投与開始前までに、歯科を受診し、口腔内のチェック・清掃を受けるよう指導する。
- ・注射開始5分前から氷片を口に含み口腔内を冷却する。投与後30分程度継続する。
- ・ST合剤の予防内服を考慮する。
- ・デキサートは状況に応じて中止・増量してもよい。また、ノバミンまたはメトプロプラミドも使用可とする。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ブリナツモマブ単剤 (1サイクル目1～7日目)	再発又は難治性 B細胞性急性リン パ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	デキサート 生理食塩液	19.8mg 50mL	点滴 (本体)	点滴開始 1時間前	day1
②	ビーリンサイト 注射用水 生理食塩液 生理食塩液	9 μ g(45kg以上) 5 μ g/m ² (45kg未満) 3mL 20mL 250mL	点滴 (側管)	下記参照	day1～7
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
6週(42日間)			9サイクル		

その他(特記事項など)

- ・1サイクル目・1～6日目はビーリンサイトを3.3mL/時間で投与し、72時間で点滴バッグを交換する。
- ・1サイクル目・7日目はビーリンサイトを10mL/時間で投与する。
- ・ビーリンサイトの溶解液注入量は適正使用ガイドを参照する。
- ・無菌フィルター(0.2 μ m)付き輸液セットを使用する。
- ・投与ラインや静脈カテーテルのフラッシュは禁止する。点滴バッグに溶液が残っていても、設定した投与時間が経過したタイミングで交換する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ブリナツモマブ単剤 (1サイクル目8～28日目)	再発又は難治性 B細胞性急性リン パ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート 生理食塩液	19.8mg 50mL	点滴 (本体)	点滴開始 1時間前	day8
②	ビーリンサイト 注射用水 生理食塩液 生理食塩液	28 μ g(45kg以上) 15 μ g/m ² (45kg未満) 3mL 20mL 250mL	点滴 (側管)	10mL/時間	day8～28
1コースの期間 6週(42日間)			投与スケジュール及び総コース数 9サイクル		

その他(特記事項など)

- ・1サイクル目8～28日目はビーリンサイトを10mL/時間で投与する。
- ・ビーリンサイトの溶解液注入量は適正使用ガイドを参照する。
- ・無菌フィルター(0.2 μ m)付き輸液セットを使用する。
- ・投与ラインや静脈カテーテルのフラッシュは禁止する。点滴バッグに溶液が残っていても、設定した投与時間が経過したタイミングで交換する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ブリナツモマブ単剤 (2～9サイクル目)	再発又は難治性 B細胞性急性リン パ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート 生理食塩液	19.8mg 50mL	点滴 (本体)	点滴開始 1時間前	day1
②	ビーリンサイト 注射用水 生理食塩液 生理食塩液	28 μ g(45kg以上) 15 μ g/m2(45kg未満) 3mL 20mL 250mL	点滴 (側管)	10mL/時間	day1～28
1コースの期間 2～5サイクル目:6週(42日間) 6～9サイクル目:12週(84日間)			投与スケジュール及び総コース数 9サイクル		
その他(特記事項など) ・2～9サイクル目はビーリンサイトを10mL/時間で投与する。 ・ビーリンサイトの溶解液注入量は適正使用ガイドを参照する。 ・無菌フィルター(0.2 μ m)付き輸液セットを使用する。 ・投与ラインや静脈カテーテルのフラッシュは禁止する。点滴バッグに溶液が残っていても、設定した投与時間が経過したタイミングで交換する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ブレンツキシマブ単剤	ホジキンリンパ腫 未分化大細胞リンパ腫 末梢性T細胞リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミン錠	5錠	経口	点滴開始前	day1
②	ブレンツキシマブ 注射用水 生理食塩液	1. 8mg/kg 10. 5mL 100mL	点滴	30分	day1
③	生理食塩液 (投与後フラッシュ)	50mL	点滴		day1
④					
⑤					
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			PDまで		

その他（特記事項など）

・ Infusion reactionに注意が必要である。投与時にInfusion reactionを認めた症例では次回よりソルコーテフ200mgの前投与を行う。

がん薬物療法レジメン

申請診療科	血液内科	登録日	2020/1/15
記入医師名	西川 彰則	改訂日	
診療科長名	園木 孝志	登録番号	血内-167

レジメン名	対象がん種	適応分類
ベネトクラクス維持	慢性リンパ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミン錠10mg	5錠	経口	点滴開始時	1日目
②	ソル・コーテフ 生理食塩水	200mg 50ml	点滴	30分	1日目
③	リツキサン 5%ブドウ糖液	375mg/m2 500mg/m2 (2コース目以降) 1mg/mL	点滴	約240分	1日目
	ベネクレクスタ	400mg	内服	1日1回食後	連日
1コースの期間 28日			投与スケジュール及び総コース数 上記スケジュール4週間を1コース 6コースまで		
その他(特記事項など)					
・1コース目はリツキサン375mg/m2で使用する。2～6コース目は、リツキサンは500mg/m2で使用する。 ・リツキサンは初回投与では25ml/hrから開始し、1時間後に100ml/hrに増量、さらに1時間後に200ml/hrに増量し点滴可能とする。また、2回目以降の投与では、初回にinfusion reaction等の副作用が生じていなければ、100ml/hrから開始し、1時間後に200ml/hrに増量点滴とする。 ・ベネクレクスタ400mgを4週間内服する。用量は、全身状態や併用薬により減量。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ペムブロリズマブ	再発又は難治性の 古典的 ホジキンリンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ペムブロリズマブ 生理食塩液	200mg 100mL	点滴	30分	day1
②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間間隔(21日)			PDまで		
その他(特記事項など)					
・0.2～5μmのポリスルホン製又はポリエーテルスルホン製のin-lineフィルターを用いること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ベルケイド	多発性骨髄腫 原発性マクログロ ブリン血症	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
②	ベルケイド 生理食塩液	1.3mg／m ² 20mL	皮下注		day1,4,8,11
③	デキサメタゾン	20mg	経口		day1,2,4,5,8,9,11,12
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間 21日間(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 3週間1サイクルでPDまで継続		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ポテリジオ単剤	成人T細胞白血病 リンパ腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠	5錠	経口	点滴開始時	day1
②	ソル・コーテフ注 生理食塩液	200mg 50mL	点滴	30分	day1
③	ポテリジオ 生理食塩液	1mg/kg 250mL	点滴	2時間	day1
④					
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
7日間			8コース		
その他(特記事項など)					
・Infusion reactionに注意が必要である。初回投与時は心電図モニターを装着する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
マブキャンパス単剤(開始量)	再発・難治性 慢性リンパ性 白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠 カロナール300mg錠	5錠 2錠	経口	点滴開始 30分前	day1
②	マブキャンパス 生理食塩液	3mg or 10mg/body 100mL	点滴	2時間	day1
③	生理食塩液 (投与後フラッシュ)	50mL	点滴		day1
④					
⑤					
1コースの期間 1日間			投与スケジュール及び総コース数 infusion reactionが生じなければ 標準量へ移行する。		
その他(特記事項など) ・3mg/body連日投与で開始し、grade3以上のinfusion reactionが生じなければ10mg/body連日に増量する。さらにgrade3以上のinfusion reactionが生じなければ、30mg/body、週3回に増量する。 ・infusion reactionに注意が必要である。投与時にinfusion reactionを認めた症例では次回よりマブキャンパス投与開始1時間前にソルコーテフ200mgの前投与を行う。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
マブキャンパス単剤(標準量)	再発・難治性 慢性リンパ性 白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	レスタミンコーワ錠 カロナール300mg	5錠 2錠	経口	点滴開始 30分前	day1, 3, 5
②	マブキャンパス 生理食塩液	30mg/body 100mL	点滴	2時間	day1, 3, 5
③	生理食塩液 (投与後フラッシュ)	50mL	点滴		day1, 3, 5
④					
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
7日間			計12週まで		
その他(特記事項など)					
・infusion reactionに注意が必要である。投与時にinfusion reactionを認めた症例では次回よりマブキャンパス投与開始1時間前にソルコーテフ200mgの前投与を行う。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ラニムスチン	真正多血症 本態性血小板血症	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1
②	サイメリン 生理食塩液	(50-)90mg/m2 250mL	点滴	30分	day1
③					
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
42日			6週間を1コース		

その他（特記事項など）

遷延性の骨髄抑制に注意する

長期反復投与は控えるべきだが、二次発がんのリスクについて説明する

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ロイナーゼ単剤	再発・難治性の 急性リンパ性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ロイナーゼ 注射用水 生理食塩液	200 KU/kg 20 mL 250 mL	点滴	2時間	day1
②					
③					
④					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
その他(特記事項など) ・添付文書では連日または隔日で投与可能である。投与日数は症例毎に検討する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ロミデプシン単剤	再発又は難治性 末梢性 T細胞リンパ腫	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☒ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ デキサート	1バッグ 6. 6mg	点滴 (本体)	30分	day1, 8, 15
②	ロミデプシン 生理食塩液	14mg/m ² 500mL	点滴 (側管)	240分	day1, 8, 15
③	生理食塩液 (投与後フラッシュ)	50mL	点滴 (本体)		day1, 8, 15
1 コースの期間 4週 (28日間)			投与スケジュール及び総コース数 PDとなるまで継続		
その他（特記事項など） ・ 再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫患者に適応する。 ・ QT間隔延長に注意して定期的に心電図検査及び電解質検査を行う。 ・ アルコール過敏禁忌					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
亜ヒ酸療法	再発性・難治性 急性前骨髄性白血病	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	トリセノックス 5%ブドウ糖液	0.15mg/kg 250mL	点滴 (側管)	120分	day1～
1コースの期間 寛解導入療法:寛解に至るまで 地固め療法:25回投与まで			投与スケジュール及び総コース数 寛解導入療法、地固め療法		
その他(特記事項など) ・寛解導入療法では寛解に至るまで投与を継続する。最大投与回数は60回とする。 ・地固め療法では投与は毎日でなくても、平日のみやその組み合わせでもよい。合計投与回数を25回とし、35日以内に終了するようにする。					